

取扱説明書

VSX-834

AV RECEIVER

Pioneer

Ja

目次



接続する



-スピーカーを接続する



再生する



設定する



困ったときは



仕様について



追補情報



箱の中身を確認する	4
新機能の追加(ファームウェアアップデート)について	5
ファームウェアの更新情報について	5
追加された新機能の操作等について	5
ファームウェアアップデートの手順	6
各部の名前	8
前面パネル	8
表示部	10
後面パネル	11
リモコン	13
接続する	
スピーカーを接続する	15
スピーカーを設置する	16
スピーカー接続と「スピーカー設定」の設定	22
スピーカー組み合わせ一覧	29
テレビを接続する	30
ARC対応テレビとの接続	31
ARC非対応テレビとの接続	32
再生機器を接続する	33
HDMI端子のあるAV機器との接続	33
オーディオ機器との接続	34
別室のAV機器と接続する(ゾーンB接続)	35

別室のプリメインアンプと接続する(ゾーンB)	35
アンテナを接続する	36
電源コードを接続する	37
再生する	
AV機器の再生	39
基本の操作	39
BLUETOOTH® 再生	40
基本の操作	40
AM/FM ラジオを聴く	41
放送局を選局する	41
放送局を登録する	43
ゾーンB再生	45
再生する	45
便利な機能	47
PERSONAL PRESET を使う	47
トーンを調整する	49
スリープタイマー	50
リスニングモード	51
リスニングモードを選ぶ	51
スピーカーレイアウトと選択できるリスニングモード	54

リスニングモードの効果	57
入力フォーマットと選択できる リスニングモードについて	61

設定する

Setupメニュー	66
メニューリスト	66
メニュー操作	68
1. 入力/出力端子の割り当て	69
2. スピーカー	72
3. MCACC	75
4. 音の設定・調整	77
5. 入力ソース	78
6. ハードウェア	80
7. その他	83
AV Adjust	84
メニュー操作	84
設定ウィザードでの初期設定	86
初期設定を始める	86

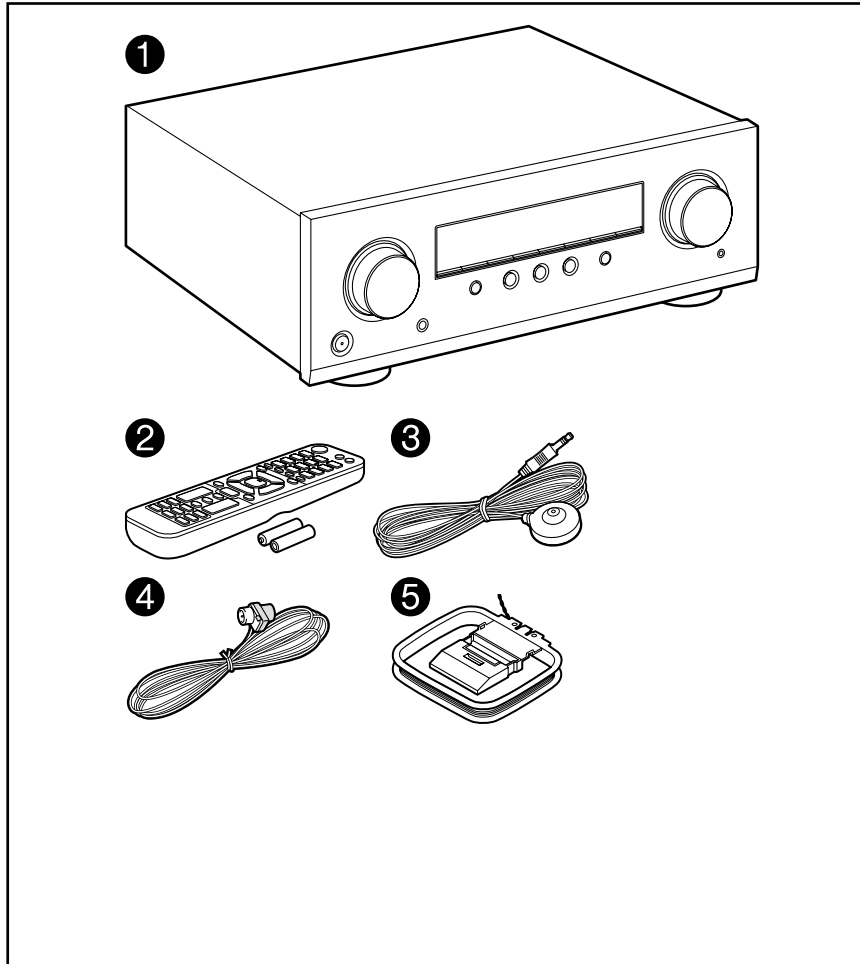
困ったときは

動作が不安定なときは	89
故障かなと思ったら	90

仕様について

HDMIについて	96
主な仕様	98

箱の中身を確認する



1. 本体 (1)
 2. リモコン (RC-971R) (1)、乾電池 (単4形、R03) (2)
 3. 測定用マイク (1)
 - 初期設定の際に使用します。
 4. FM室内アンテナ (1)
 5. AM室内アンテナ (1)
 - クイックスタートガイド (1)
 - 保証書 (1)
- *本書はオンライン版の取扱説明書です。製品には付属していません。
- スピーカーはインピーダンスが4～16Ωのものを接続してください。
 - 電源コードは、すべてのケーブル接続が完了してから接続してください。
 - 他社製品との接続により生じたいかなる損害に対しても、当社では責任を負いかねます。
 - 仕様および外観は予告なく変更することがあります。


新機能の追加 (ファームウェアアップデート) について

本機は、ご購入後にファームウェアの更新があった場合、USB 経由でファームウェアをアップデートする機能を搭載しています。これにより、さまざまな機能の追加や動作の改善を行うことができます。

また、製品の生産時期によっては、更新されたファームウェアに切り替えることがあり、はじめから新機能が追加されている場合もあります。最新のファームウェアの内容や、お持ちの製品のファームウェアのバージョンを確認する方法などについては次の項をご参照ください。

ファームウェアの更新情報について

最新のファームウェアの更新内容や、ファームウェアバージョンについては、弊社ホームページでご確認ください。お持ちの製品のファームウェアバージョンが、最新のファームウェアバージョンと異なる場合、ファームアップデートを行っていただくことを推奨します。

お持ちの製品のファームウェアを確認するには、リモコンの  ボタンを押し、「7. その他」-「ファームウェアアップデート」-「バージョン」(→ [p83](#)) を参照ください。

追加された新機能の操作等について

取扱説明書に記載されている内容から追加・変更された場合、次の参照先の内容をご覧ください。

[追補情報 ≫](#)

□ ファームウェアアップデートの手順 (→ [p6](#))

ファームウェアアップデートの手順

更新には約30分かかります。また、更新しても設定した内容は保持されます。

免責事項：本プログラムおよび付随するオンラインドキュメンテーションは、お客様の責任においてご使用いただくために提供されます。

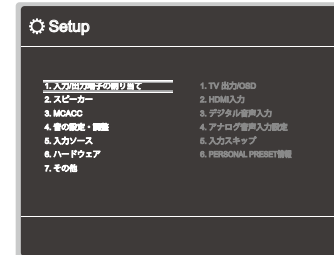
弊社は、法理に関わらず、また不法行為や契約から生じるかを問わず、本プログラムまたは付随するオンラインドキュメンテーションの使用に際して生じたいかなる損害および請求に対して責任を負うものではなく、賠償することはありません。弊社は、いかなる場合においても、補償、弁済、損失利益または逸失利益、データの損失その他の理由により生じた損害を含む（ただしこれらに限定されない）、特別損害、間接的損害、付随的又は派生的損害について、お客様または第三者に対して一切の責任を負いません。

USB経由で更新する

- 更新中は、以下のことを行わないでください。
 - ケーブルやUSBストレージ、測定用マイク、ヘッドホンの抜き差し、電源を切るなど機器の操作
- 128 MB以上の容量のUSBストレージを準備してください。USBストレージのフォーマットは、FAT16、FAT32に対応しています。
 - USBカードリーダーに挿入したメディアは、この機能で使えないことがあります。
 - セキュリティ機能付きのUSBストレージには対応していません。
 - ハブおよびハブ機能付きUSB機器に対応していません。これらの機器を本機に接続しないでください。
- USBストレージにデータがある場合は消去してください。
- 「HDMI CEC」の設定を「オン」にしている場合は、「オフ」にしてください。
 - **⏏**を押します。次に「6. ハードウェア」-「HDMI」を選び、ENTERボタンを押したあと、「HDMI CEC」を選び、「オフ」を選びます。
 - * USBストレージやその内容によっては、読み込みに時間がかかる場合、正しく内容を読み込めない場合、電源が正しく供給されなかったりする場合があります。
 - * USBストレージの使用に際して、データの損失や変更、ストレージの故障などが発生しても、弊社は一切責任を負いかねます。あらかじめご了承ください。
 - * 記載が画面の実際の表示と異なる場合がありますが、操作や機能は変わりません。

アップデート

1. お使いのPCにUSBストレージを接続します。
2. 弊社ホームページからお使いのPCにファームウェアファイルをダウンロードして、解凍します。
ファームウェアには、以下のようなファイル名が付いています。
PIOAVR ****_*****.zip
PC上でこのファイルを解凍してください。機種により、ファイルやフォルダの数は異なります。
3. 解凍したファイルやフォルダをすべてUSBストレージのルートフォルダにコピーします。
 - 必ず解凍したファイルをコピーしてください。
4. USBストレージを本機のPOWER OUT端子に接続します。
 - USBストレージにACアダプターが付属している場合は、ACアダプターをつないで家庭用電源でお使いください。
 - USBストレージがパーティションで区切られている場合、本機では複数のUSBストレージとして認識されます。
5. **⏏**を押します。
テレビ画面にSetupメニューが表示されます。



6. カーソルで「7. その他」-「ファームウェアアップデート」-「USB経由のアップデート」を順に選び、ENTERを押します。



- 「ファームウェアアップデート」がグレー表示されて選べない場合は、起動するまでにしばらく時間がかかります。

7. 「アップデート」が選ばれた状態で、ENTERを押して更新を開始します。
- 書き換えるプログラムによっては途中でテレビ画面が消える場合があります。その場合、進行状況は本体の表示部で確認できます。書き込みが完了して再度電源を入れるまで、テレビ画面には何も表示されません。
 - 更新中は、電源を切ったり、USBストレージを抜き差ししないでください。
 - 「Completed!」が表示されると、更新完了です。
8. 本機からUSBストレージを抜きます。
9. 本体の○STANDBY/ONを押して、本機をスタンバイ状態にします。これでアップデートが完了して、最新のファームウェアに更新されました。
- リモコンの○は使用しないでください。

エラーが表示されたときは

エラー時は、本体の表示部に「Error! *-*-*」と表示されます。（「*」は表示される英数字を表しています。）以下の説明を参照し、確認してください。

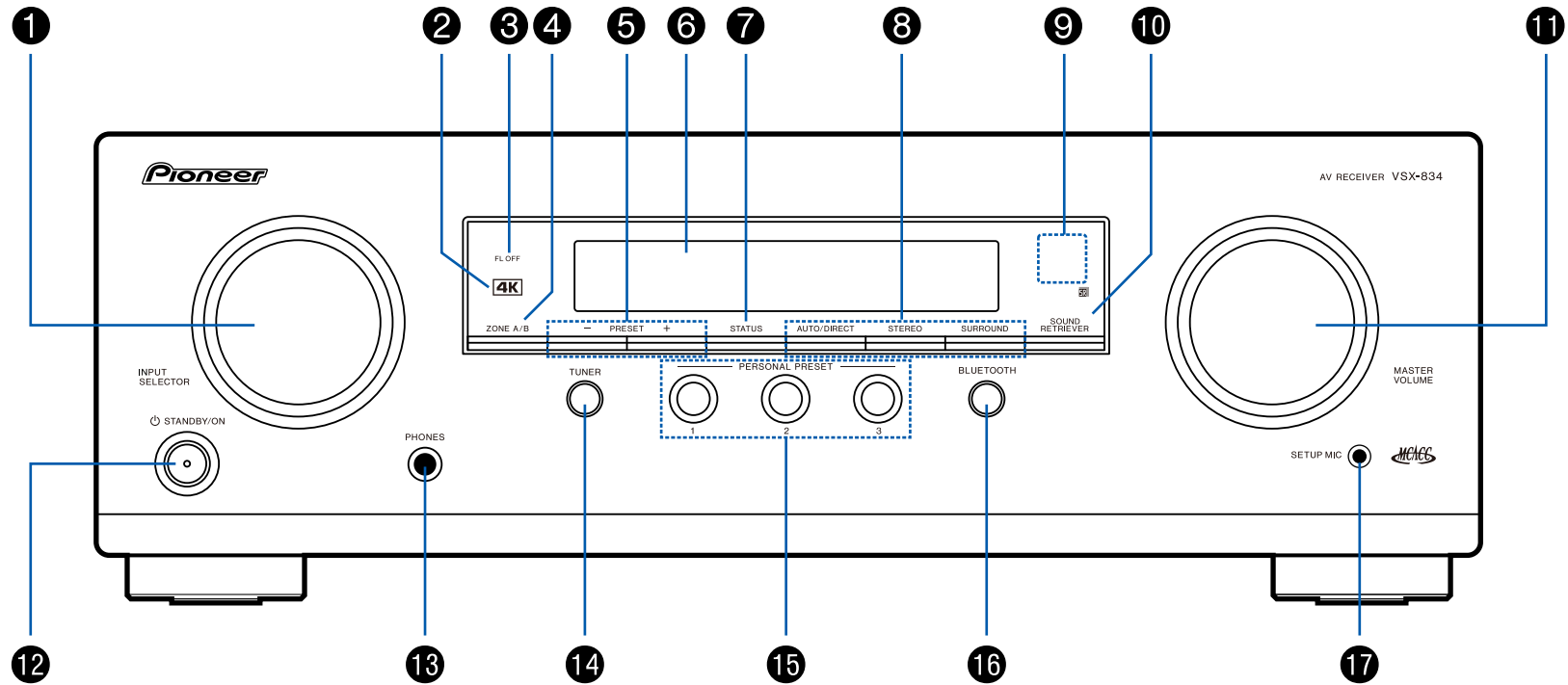
エラーコード

- * -70 :
USBストレージが認識できない、USBストレージのルートフォルダにファームウェアファイルが存在しない、お使いの機種と異なるファームウェアファイルが使用されているなどが考えられます。USBストレージやUSBケーブルが、本機のPOWER OUT端子にしっかりと差し込まれているか確認してください。USBストレージで外部電源を供給できる製品は、外部電源をご使用ください。

- * -51 :
お使いの機種と異なるファームウェアファイルが使用されている、使用されているファームウェアファイルが壊れている、などが考えられます。再度ファームウェアファイルのダウンロードからやり直してください。
- その他 :
一度電源プラグを抜いたあとコンセントに差し込み、最初からやり直してください。

各部の名前

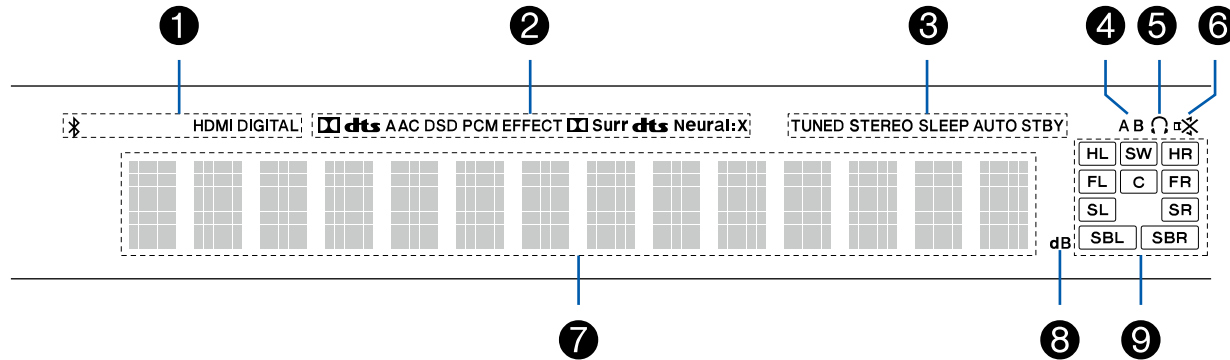
前面パネル



□ 詳細は (→ p9)

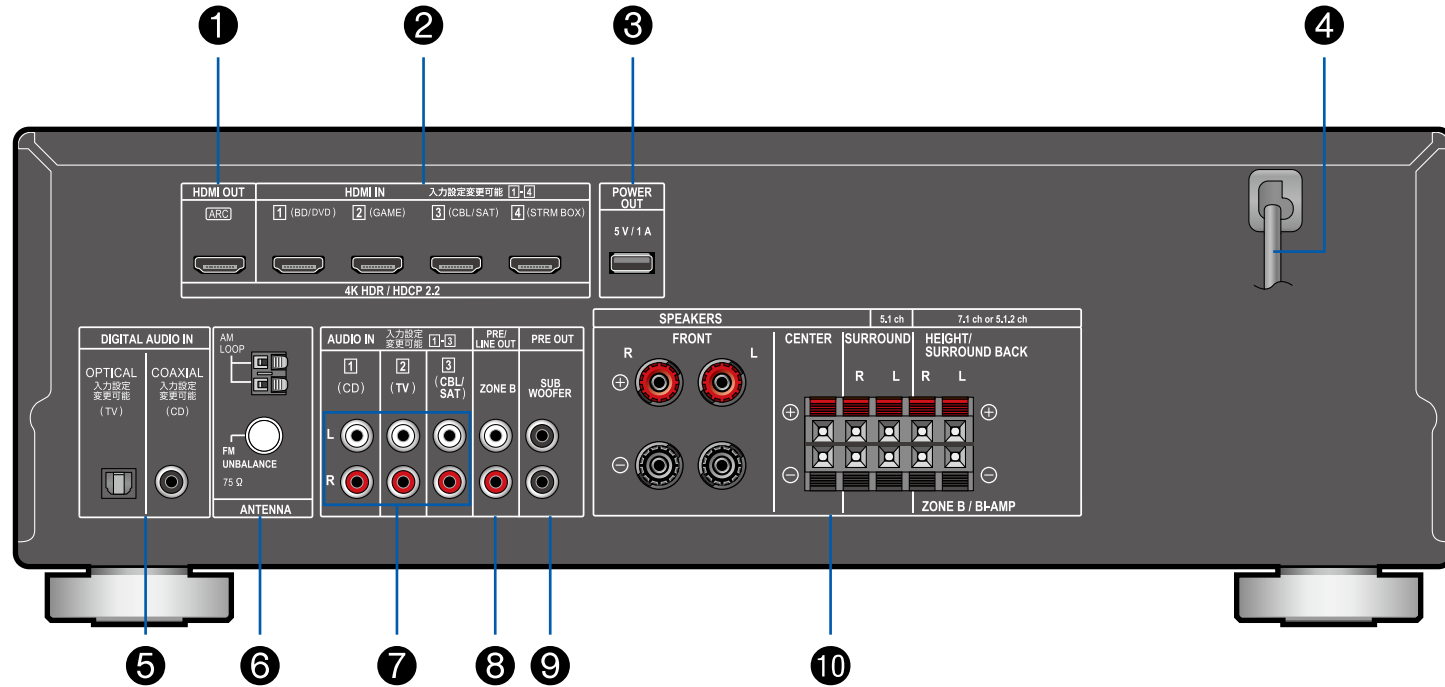
1. INPUT SELECTOR ダイヤル: 再生する入力を切り換えます。
2. 4K インジケーター: 4Kアップスケーリング時や4Kパススルー時に点灯します。
3. FL OFF インジケーター: リモコンのDIMMER ボタンをくり返し押して、表示部を消灯させているときに点灯します。
4. ZONE A/B ボタン: 音声の出力先を「ゾーンA」「ゾーンB」「ゾーンA+B」から選びます。(→[p45](#))
5. PRESET +/- ボタン: TUNER 使用時に登録したプリセット局を選択します。(→[p43](#))
6. 表示部(→[p10](#))
7. STATUS ボタン: 表示部の情報を切り換えます。
8. リスニングモードボタン: 「AUTO/DIRECT」、「STEREO」または「SURROUND」ボタンを押してリスニングモード(→[p51](#))を切り換えます。
9. リモコン受光部: リモコンからの信号を受信します。
 - リモコンの受光範囲は距離が約5 m、角度は上下20°、左右30°以内です。
10. SOUND RETRIEVER ボタン: 圧縮された音声をより良い音質にするサウンドレトリバーをオン/オフします。
11. MASTER VOLUME ダイヤル
12. ⏻ STANDBY/ON ボタン
13. PHONES 端子: 標準プラグ(φ6.3 mm)のヘッドホンを接続します。
14. TUNER ボタン: 再生する入力を「TUNER」に切り換えます。また、くり返し押すことで「AM」「FM」を切り換えます。
15. PERSONAL PRESET 1/2/3 ボタン: 現在の入力切替やリスニングモードなどの設定状態を登録したり、呼び出しをします。(→[p47](#))
16. BLUETOOTH ボタン: 再生する入力を「BLUETOOTH」に切り換えます。
17. SETUP MIC 端子: 付属の測定用マイクを接続します。(→[p76、87](#))

表示部



1. 次の状態のときに点灯します。
 ※：BLUETOOTH接続時
 HDMI：HDMI信号が入力かつ選択されているとき
 DIGITAL：デジタル信号が入力かつ選択されているとき
2. 入力されているデジタル音声信号の種類やリスニングモードに応じて点灯します。
3. 次の状態のときに点灯します。
 TUNED：AM/FM放送局の受信時
 STEREO：FMステレオ局の受信時
 SLEEP：スリープタイマーが設定されているとき（→p82）
 AUTO STBY：自動スタンバイが設定されているとき（→p82）
4. 音声の出力先を表示します。
 A：メインルーム（ゾーンA）にのみ音声を出力します。
 B：別室（ゾーンB）にのみ音声を出力します。
 AB：メインルーム（ゾーンA）と別室（ゾーンB）に音声を出力します。
5. ヘッドホン接続時に点灯します。
6. 消音中に点滅します。
7. 入力信号のさまざまな情報を表示します。
8. 音量の調整時に点灯します。
9. スピーカー/チャンネル表示：リスニングモードに対応した出力チャンネルを表示します。

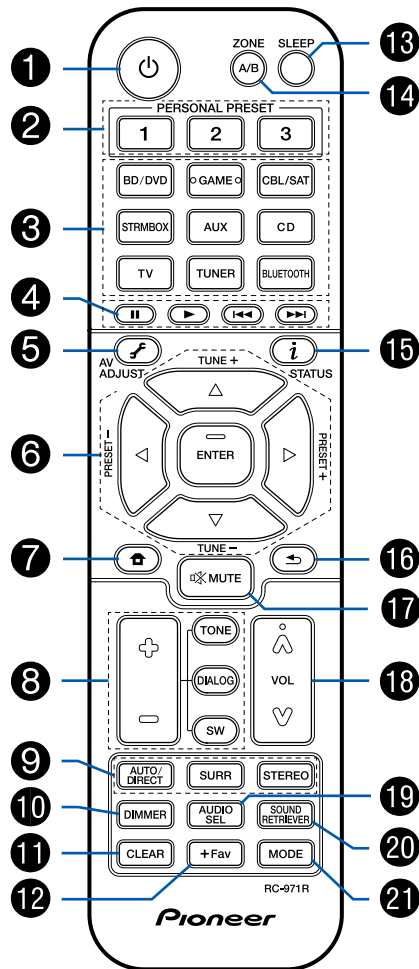
後面パネル



□ 詳細は (→ [p12](#))

1. HDMI OUT 端子：HDMIケーブルを使用してテレビと接続し、映像信号や音声信号を送ります。
2. HDMI IN 端子：HDMIケーブルを使用してAV機器と接続し、映像信号や音声信号を送ります。
3. POWER OUT 端子：USBケーブルを使用し、本機HDMI IN端子に接続するストリーミングメディアプレーヤーへの電源供給 (5 V/1 A) が可能です。
(→p33) 音楽ファイルの再生機能やスマートフォン/タブレットなどへの給電には対応していません。
4. 電源コード
5. DIGITAL AUDIO IN OPTICAL/COAXIAL 端子：光デジタルケーブルまたは同軸デジタルケーブルを使用して、テレビやAV機器のデジタル音声信号を入力します。
6. ANTENNA AM LOOP/FM UNBALANCE 75 Ω端子：付属のアンテナを接続します。
7. AUDIO IN 端子：オーディオ用ピンケーブルを使用して、テレビやAV機器の音声信号を入力します。
8. ZONE B PRE/LINE OUT 端子：オーディオ用ピンケーブルを使用して、別室 (ゾーンB) のプリメインアンプやパワーアンプと接続し、音声信号を出力します。
9. SUBWOOFER PRE OUT 端子：サブウーファーケーブルを使用して、アンプ内蔵サブウーファーを接続します。アンプ内蔵サブウーファーは2台まで接続可能です。それぞれのSUBWOOFER PRE OUT 端子からは同じ信号を出力します。
10. SPEAKERS 端子：スピーカーケーブルを使用して、スピーカーを接続します。
(FRONT L/R 端子はバナナプラグに対応しています。)

リモコン



1. 〇 STANDBY/ON ボタン
2. PERSONAL PRESET 1/2/3 ボタン: 現在の入力切替やリスニングモードなどの設定状態を登録したり、呼び出しをします。(→p47)
3. 入力切替ボタン: 再生する入力を切り換えます。
4. 再生操作ボタン: BLUETOOTH機器の再生操作に使用します。また、21のMODE ボタンで「CEC MODE」に切り換えると、HDMI CEC機能が有効なAV機器を操作することができます。(機器によっては操作できない場合があります。)
5. f (AV ADJUST) ボタン: 「HDMI」「オーディオ」などの設定を、再生中にテレビの画面ですばやく行うことができます。(→p84)
6. カーソル、ENTER ボタン: カーソルで項目を選び、ENTER で決定します。
7. 〡 ボタン: 本機をより深くお楽しみいただくための応用的な設定項目をテレビや表示部に表示することができます。(→p66)
8. TONE/DIALOG/SW ボタン: スピーカーの音質やサブウーファアのレベルを調整することができます。(→p49)
9. リスニングモードボタン: リスニングモード(→p51)を選びます。
10. DIMMER ボタン: 表示部を消灯したり、明るさを3段階で切り換えることができます。
11. CLEAR ボタン: テレビ画面での文字入力時に、入力した文字をすべて消去します。
12. +Fav ボタン: AM/FM放送局を登録するときに使用します。(→p43)
13. SLEEP ボタン: スリープタイマーを設定します。「30 min」、「60 min」、「90 min」から選びます。(→p50)
14. ZONE A/B ボタン: 音声の出力先を「ゾーンA」「ゾーンB」「ゾーンA+B」から選びます。(→p45)
15. i (STATUS) ボタン: 表示部の情報を切り換えます。
16. 〡 ボタン: 設定中にひとつ前の表示に戻します。
17. 〡 ボタン: 一時的に消音します。もう一度押すと消音状態を解除できます。
18. ボリュームボタン
19. AUDIO SEL ボタン: 1つの入力切替に対して2つ以上の音声入力端子に機器を接続している場合、どちらの音声入力を再生するかを選択することができます。
20. SOUND RETRIEVER ボタン: 圧縮された音声をより良い音質にするサウンドレトリバーをオン/オフします。
21. MODE ボタン: AM/FM放送局の自動選局/手動選局(→p41)の切り換えに使用します。また、本機にHDMI CEC機能が有効なAV機器を接続している場合、4の再生操作ボタンを「CEC MODE」または「RCV MODE」(通常モード)に切り換えることができます。

接続する

スピーカーを接続する	15
テレビを接続する	30
再生機器を接続する	33
別室のAV機器と接続する(ゾーンB接続)	35
アンテナを接続する	36
電源コードを接続する	37

スピーカーを接続する

本機は、設置するスピーカーのレイアウトを、さまざまなパターンの中から選ぶことができます。お持ちのスピーカーやご使用環境に応じて、以下のフローチャートでスピーカーレイアウトを選んで、接続方法や初期設定の内容をご確認いただくこともできます。

ハイトスピーカーを使用しますか？

はい

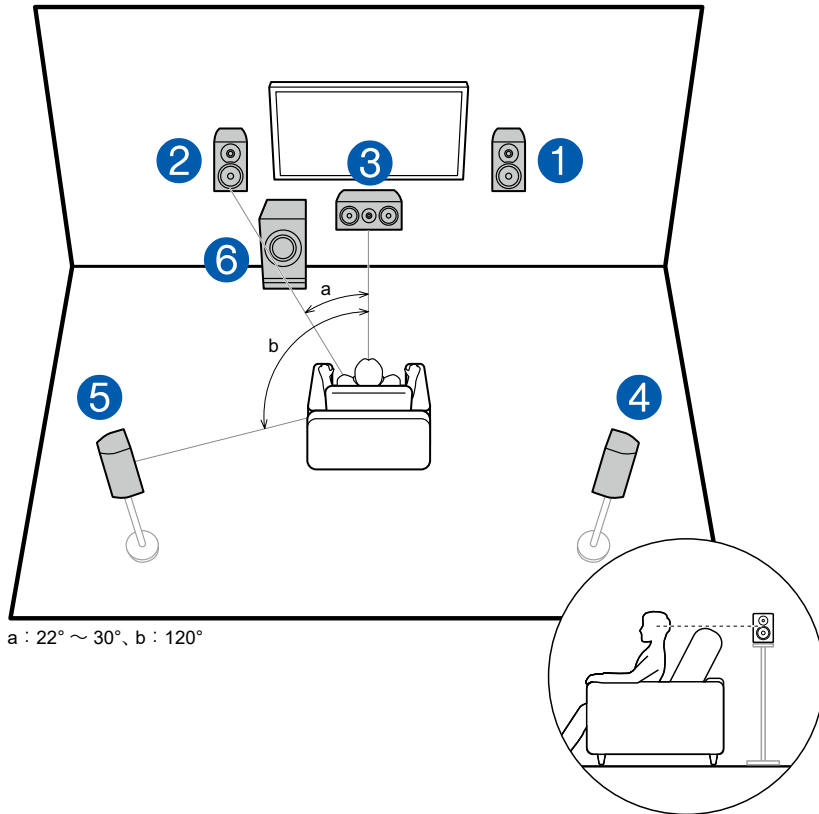
- **5.1.2** チャンネルシステム (→[p28](#))

いいえ

- **5.1** チャンネルシステム (→[p24](#))
- **5.1** チャンネルシステム + ゾーンスピーカー (→[p25](#))
- **5.1** チャンネルシステム (バイアンプ対応スピーカー) (→[p26](#))
- **7.1** チャンネルシステム (→[p27](#))

スピーカーを設置する

■ 5.1チャンネルシステム



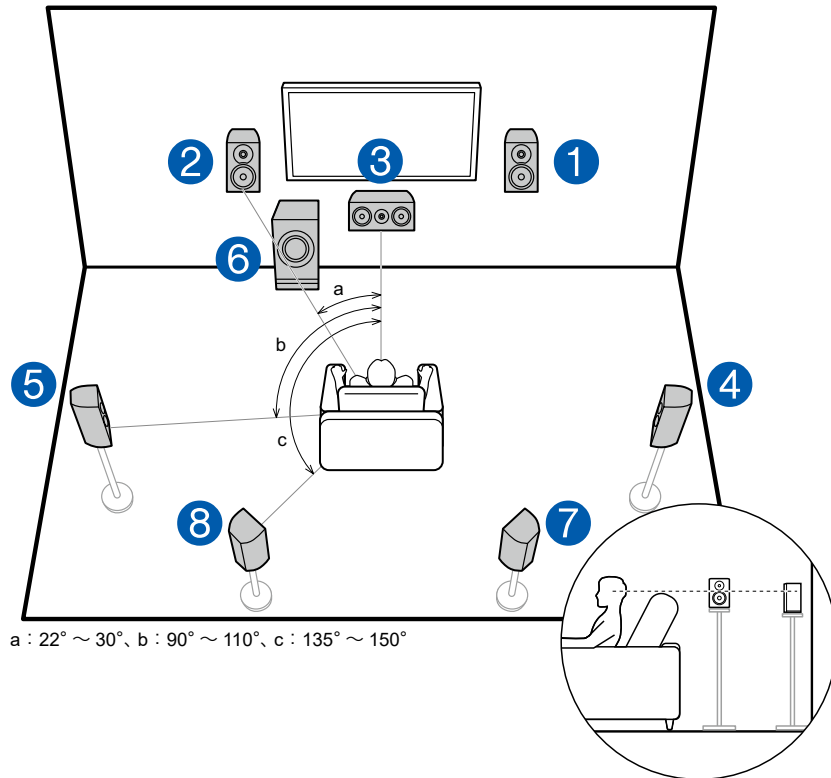
基本となる5.1チャンネルシステムです。フロントスピーカーは前方のステレオ音声を、センタースピーカーはセリフやボーカルなど画面中央の音声を出力します。サラウンドスピーカーは後方音場を創出します。アンプ内蔵サブウーファーは重低音を再生し、音場の密度感を高めます。

フロントスピーカーは耳の高さに、サラウンドスピーカーは耳の高さのちょうど上に設置するのが理想です。センタースピーカーは視聴者に向くよう角度をつけて設置します。アンプ内蔵サブウーファーは、センタースピーカーとフロントスピーカーの間に設置すると、音楽ソースでも自然に再生できます。

- 1,2 フロントスピーカー
- 3 センタースピーカー
- 4,5 サラウンドスピーカー
- 6 アンプ内蔵サブウーファー

□ スピーカーレイアウトと選択できるリスニングモード (→ [p54](#))

■ 7.1 チャンネルシステム



基本となる5.1チャンネルシステム(→p16)にサラウンドバックスピーカーを加えた7.1チャンネルシステムです。フロントスピーカーは前方のステレオ音声を、センタースピーカーはセリフやボーカルなど画面中央の音声を出力します。サラウンドスピーカーは後方音場を創出します。アンプ内蔵サブウーファーは重低音を再生し、音場の密度感を高めます。サラウンドバックスピーカーは、後方音場の包囲感や音のつながりを向上させ、よりリアルな音場を創出します。

フロントスピーカーは耳の高さに、サラウンドスピーカーは耳の高さのちょうど上に設置するのが理想です。センタースピーカーは視聴者に向くよう角度をつけて設置します。アンプ内蔵サブウーファーは、センタースピーカーとフロントスピーカーの間に設置すると、音楽ソースでも自然に再生できます。サラウンドバックスピーカーは耳の高さに設置するのが理想です。

- ・サラウンドバックスピーカーを設置する場合、サラウンドスピーカーの設置は必須です。

- 1,2 フロントスピーカー
- 3 センタースピーカー
- 4,5 サラウンドスピーカー
- 6 アンプ内蔵サブウーファー
- 7,8 サラウンドバックスピーカー

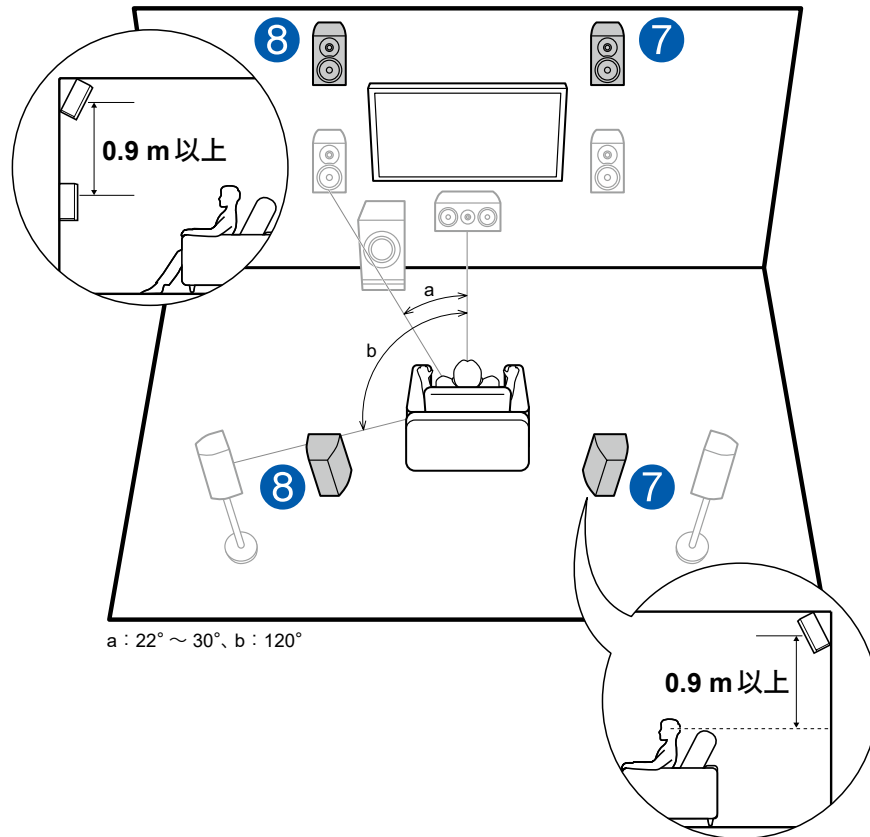
□ スピーカーレイアウトと選択できるリスニングモード(→p54)

■ 5.1.2 チャンネルシステム

5.1.2チャンネルシステムは、基本となる5.1チャンネルシステム(→[p16](#))に、ハイトスピーカーを組み合わせたスピーカーレイアウトです。ハイトスピーカーはお手持ちのスピーカーや使用環境に応じて、以下の3種類から選択できます。

- フロントハイトスピーカー / リアハイトスピーカーを使用した場合の設置例(→[p19](#))
- 天井埋め込み型スピーカーを使用した場合の設置例(→[p20](#))
- Dolby Enabledスピーカー (Dolby Speakers) を使用した場合の設置例(→[p21](#))

□ フロントハイスピーカー / リアハイスピーカーを使用した場合の設置例



フロントスピーカー、センタースピーカー、サラウンドスピーカーそしてアンプ内蔵サブウーファーで構成される基本の5.1チャンネルシステム(→p16)にハイトスピーカーのタイプのひとつであるフロントハイスピーカー(前方)またはリアハイスピーカー(後方)を加えたシステムです。このハイトスピーカーの設置により、上方の音場感を充実させることができます。フロントハイスピーカー(前方)またはリアハイスピーカー(後方)はフロントスピーカーの少なくとも0.9 m以上高く設置します。

フロントハイスピーカー(前方)はフロントスピーカーの真上に設置し、リアハイスピーカー(後方)の左右の間隔はフロントスピーカーの左右と合わせます。どちらの場合も、視聴者に向くよう角度をつけて設置してください。

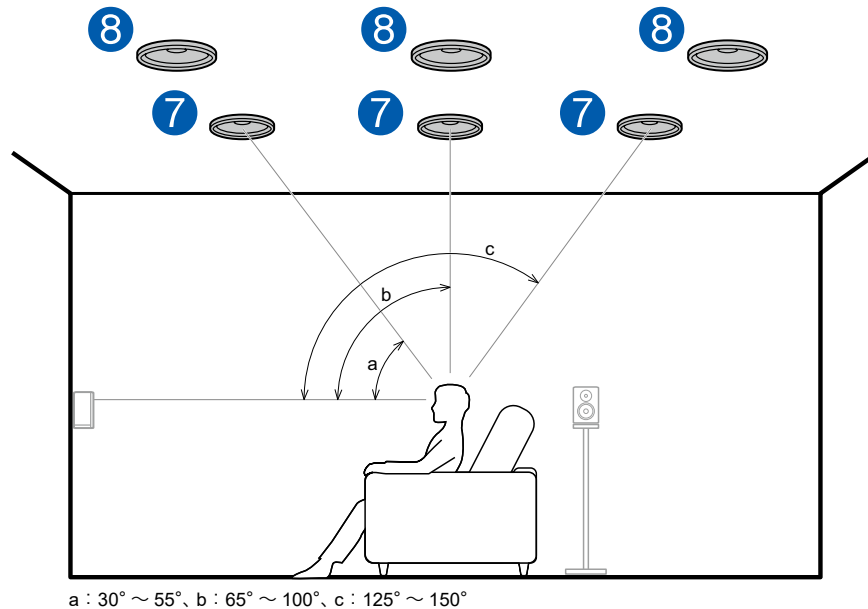
7,8 ハイトスピーカー

いずれか1つを選びます：

- フロントハイスピーカー(前方)
- リアハイスピーカー(後方)

□ スピーカーレイアウトと選択できるリスニングモード(→p54)

□ 天井埋め込み型スピーカーを使用した場合の設置例



フロントスピーカー、センタースピーカー、サラウンドスピーカーそしてアンプ内蔵サブウーファーで構成される基本の5.1チャンネルシステム(→p16)にハイトスピーカーのタイプのひとつであるトップフロントスピーカー(前方)またはトップミドルスピーカー(真上)またはトップリアスピーカー(後方)を加えたシステムです。このハイトスピーカーの設置により、上方の音場感を充実させることができます。トップフロントスピーカー(前方)は視聴位置から前方の天井に、トップミドルスピーカー(真上)は視聴位置の真上の天井に、トップリアスピーカー(後方)は、視聴位置から後方の天井に取り付けます。それぞれ、左右の間隔はフロントスピーカーの左右に合わせるのが理想です。

- ドルビーラボラトリーズは Dolby Atmos の効果を最大に高める設置として、このタイプのハイトスピーカーの設置を推奨しています。

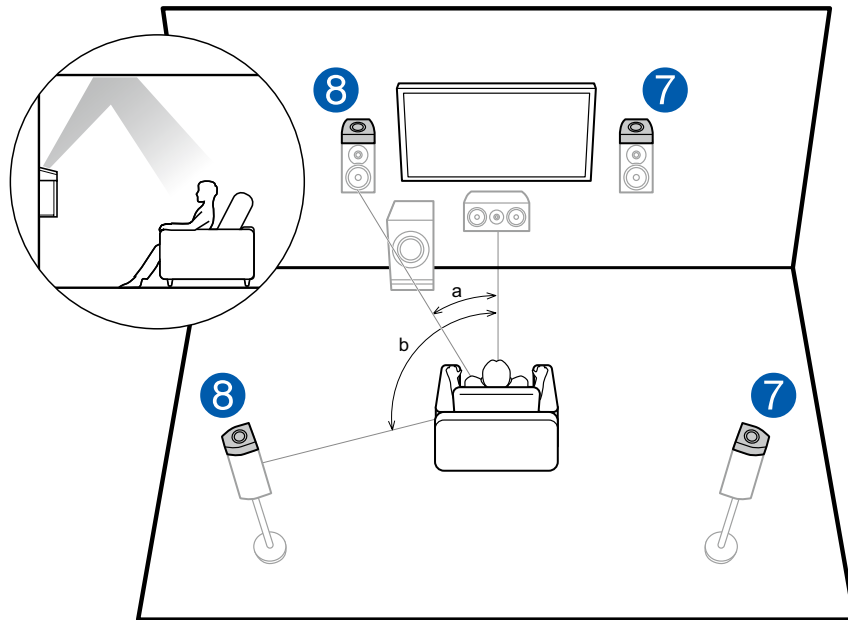
7,8 ハイトスピーカー

いずれか1つを選びます：

- トップフロントスピーカー(前方)
- トップミドルスピーカー(真上)
- トップリアスピーカー(後方)

□ スピーカーレイアウトと選択できるリスニングモード(→p54)

□ Dolby Enabledスピーカー (Dolby Speakers) を使用した場合の設置例



a : 22° ~ 30°, b : 120°

フロントスピーカー、センタースピーカー、サラウンドスピーカーそしてアンプ内蔵サブウーファーで構成される基本の5.1チャンネルシステム(→p16)にハイトスピーカーのタイプのひとつであるDolby Enabledスピーカー(フロント)またはDolby Enabledスピーカー(サラウンド)を加えたシステムです。Dolby Enabledスピーカーは天井に向くように設計された特殊なスピーカーで、音声を天井で反射させて頭上から音声が聞こえる効果があります。このハイトスピーカーの設置により、上方の音場感を充実させることができます。それぞれ、フロントスピーカーまたはサラウンドスピーカーの上に設置します。

7,8 ハイトスピーカー

いずれか1つを選びます：

- Dolby Enabledスピーカー(フロント)
- Dolby Enabledスピーカー(サラウンド)

□ スピーカーレイアウトと選択できるリスニングモード(→p54)

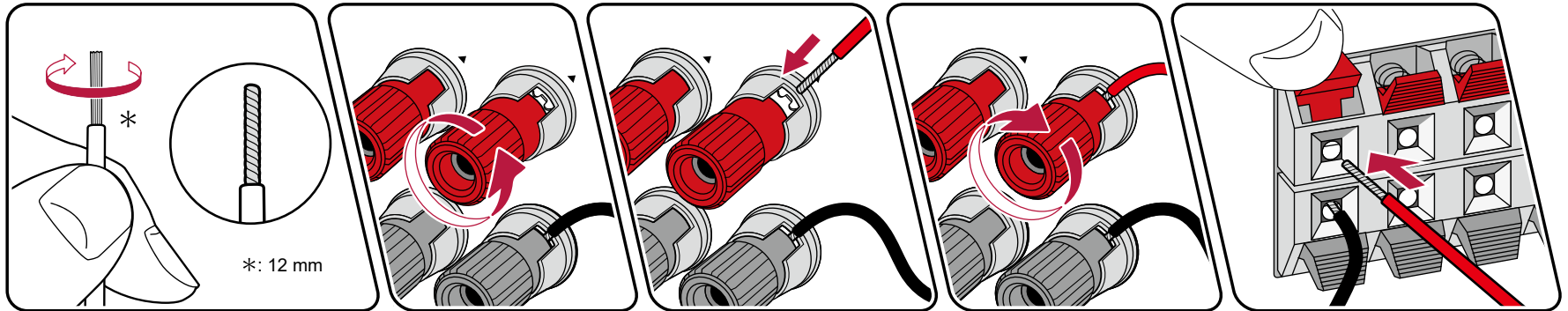
スピーカー接続と「スピーカー設定」の設定

接続について

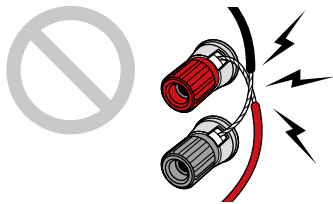
■ (ご注意) スピーカーインピーダンスについて

スピーカーはインピーダンスが4～16Ωのものを接続してください。また、接続するスピーカーの中に4Ω以上6Ω未満のスピーカーが1台でもあるときは、初期設定(→p86)の「スピーカー設定」で「インピーダンス」を「4オーム」に設定してください。Setupメニューから「インピーダンス」を設定する場合は、リモコンの⬇️ボタンを押し、「2. スピーカー」-「配置・構成」-「インピーダンス」(→p72)を「4オーム」に設定してください。

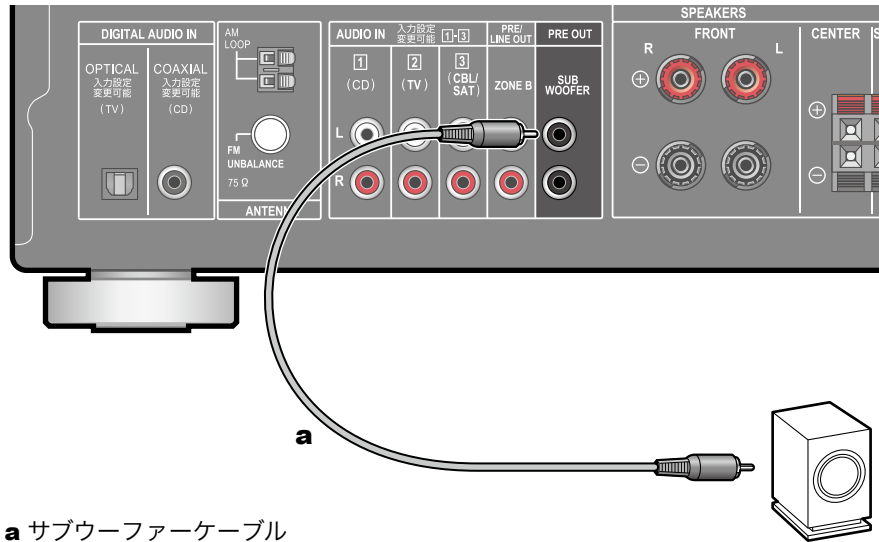
■ スピーカーケーブルを接続する



本機の端子の+側とスピーカーの+側を、-側は-側とを、チャンネルごとに必ずあわせて接続してください。間違えて接続すると、位相が逆になり低音が出にくくなります。スピーカーケーブル先端の芯線はしっかりよじるなどして、芯線がスピーカー端子からはみ出さないように接続してください。芯線がリアパネルに接触したり、+側と-側が接触すると故障の原因となることがあります。



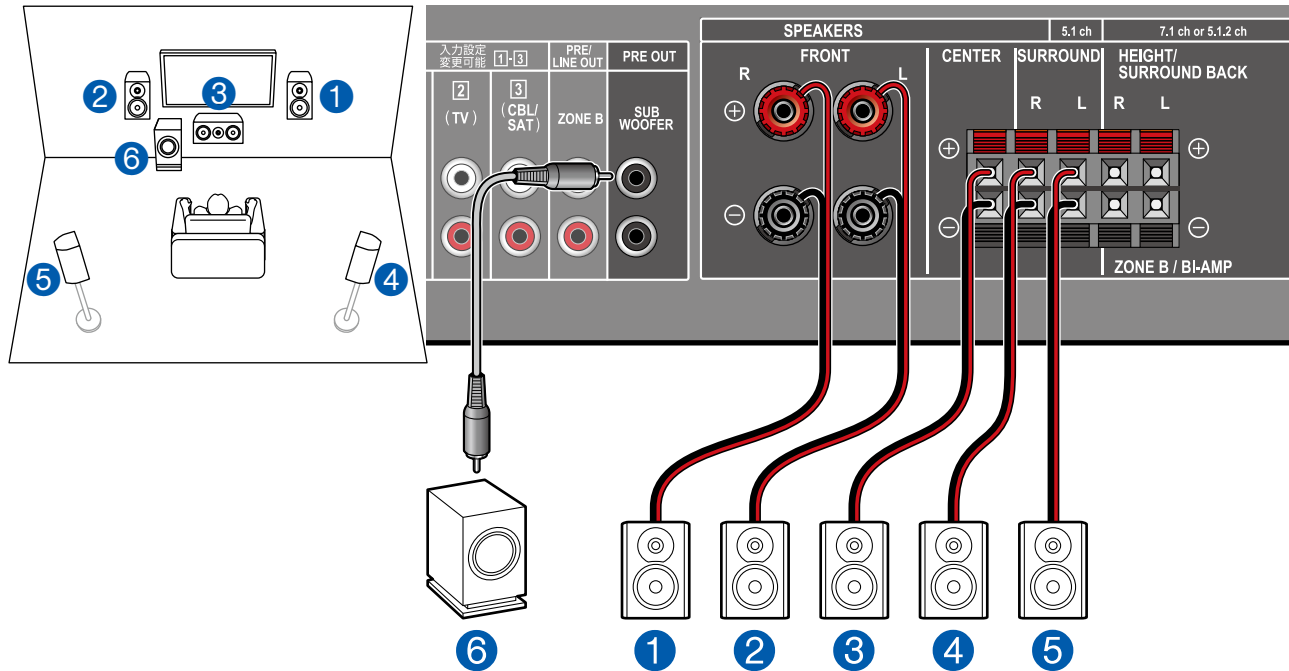
■ サブウーファーを接続する



a サブウーファーケーブル

サブウーファーケーブルを使用して、本機とアンプ内蔵サブウーファーを接続します。アンプ内蔵サブウーファーは2台まで接続可能です。それぞれのSUBWOOFER PRE OUT端子からは同じ信号を出力します。

■ 5.1 チャンネルシステム



基本となる5.1チャンネルシステムです。スピーカーレイアウトの詳細は「スピーカーを設置する」(→p16)をご参照ください。

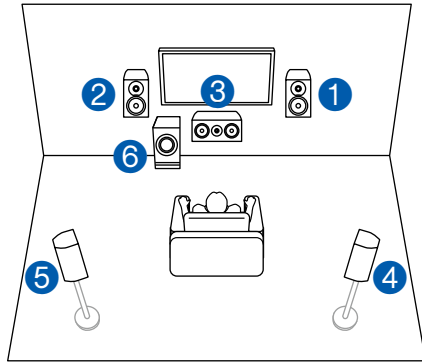
■ 初期設定(→p87)時の「スピーカー設定」の設定について：



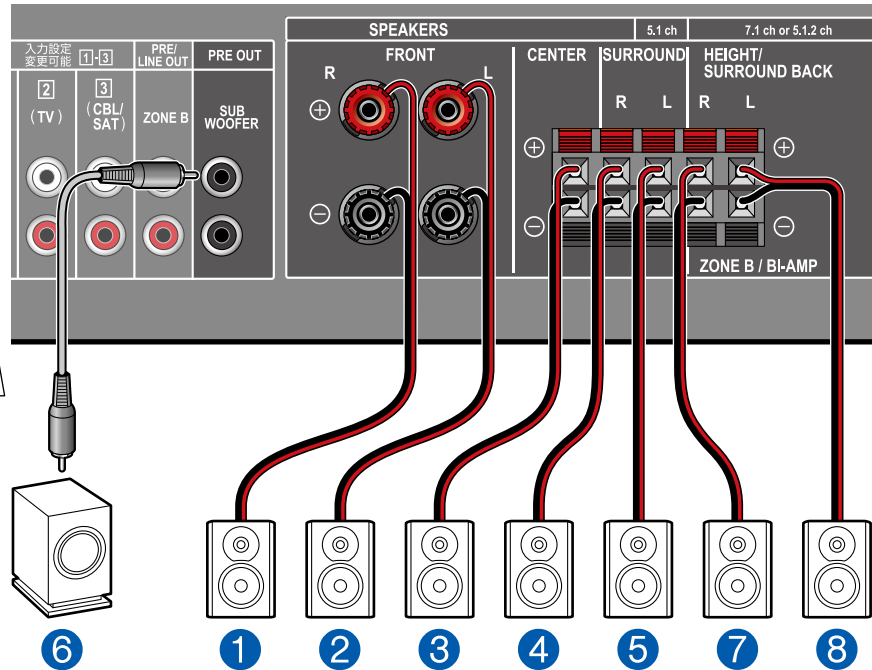
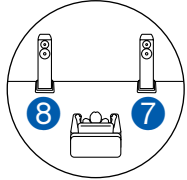
- スピーカーチャンネル：5.1 ch
- サブウーファー：有り
- ハイトスピーカー：---
- ゾーンBスピーカー：無し
- ゾーンBアウトプットレベル：任意の値(→p35)
- インピーダンス：任意の値(→p22)

■ 5.1チャンネルシステム + ゾーンBスピーカー

メインルーム (ゾーンA)



ゾーンB



メインルーム (ゾーンA): 基本となる5.1チャンネルシステムです。スピーカーレイアウトの詳細は「スピーカーを設置する」(→p16)をご参照ください。

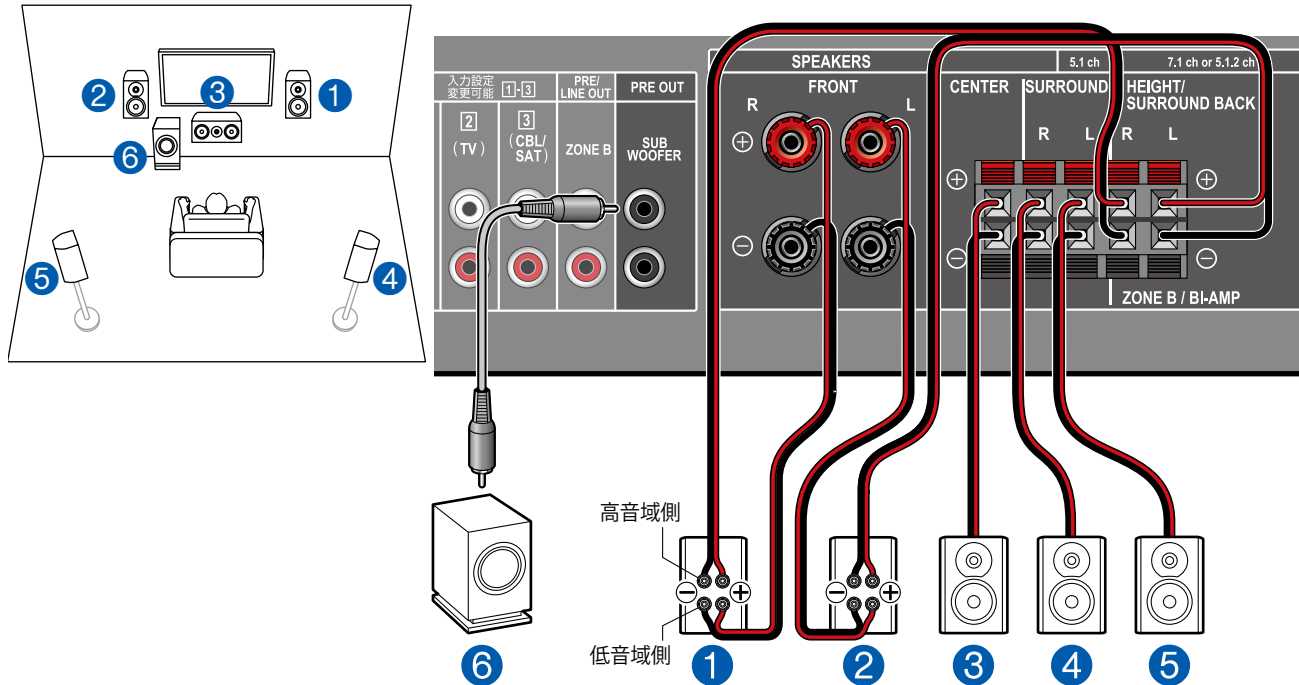
ゾーンB: メインルーム (ゾーンA) で5.1チャンネル再生をしながら、別室 (ゾーンB) で、同時に同じソースの2チャンネルの音声を楽しむことができます。

■ 初期設定 (→p87) 時の「スピーカー設定」の設定について:



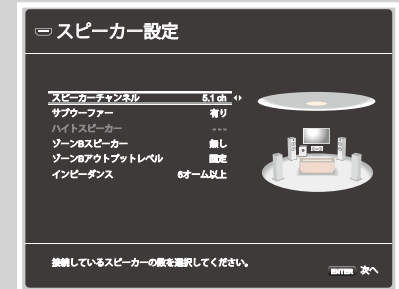
- スピーカーチャンネル: 5.1 ch
- サブウーファー: 有り
- ハイトスピーカー: ---
- ゾーンBスピーカー: 有り
- ゾーンBアウトプットレベル: 可変
- インピーダンス: 任意の値 (→p22)

■ 5.1 チャンネルシステム (バイアンプ対応スピーカー)



バイアンプ接続に対応したフロントスピーカーを接続して、5.1チャンネルシステム(→p16)を構成することができます。バイアンプ接続により、低音域と高音域の音質を向上させることができます。なお、バイアンプ対応スピーカー側のウーファー端子とツイーター端子を接続しているショートバーは必ず外してください。また、ご使用のスピーカーの取扱説明書もご覧ください。

■ 初期設定(→p87)時の「スピーカー設定」の設定について：



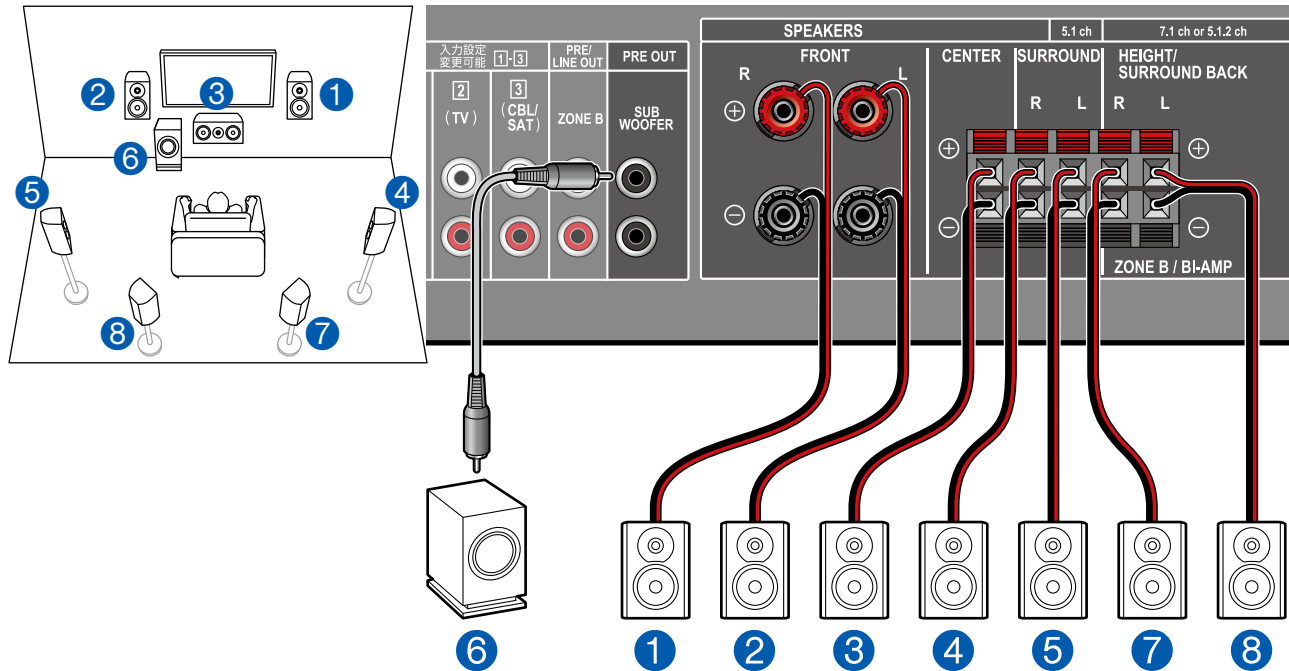
- スピーカーチャンネル：5.1 ch
- サブウーファー：有り
- ハイトスピーカー：---
- ゾーンBスピーカー：無し
- ゾーンBアウトプットレベル：任意の値(→p35)
- インピーダンス：任意の値(→p22)



設定が必要です

初期設定の「スピーカー設定」に「バイアンプ」の設定項目が表示されない場合は、初期設定の完了後に、リモコンの \square を押し、「2.スピーカー」-「配置・構成」から「バイアンプ」を「有り」に設定してください。(→p72)

■ 7.1 チャンネルシステム



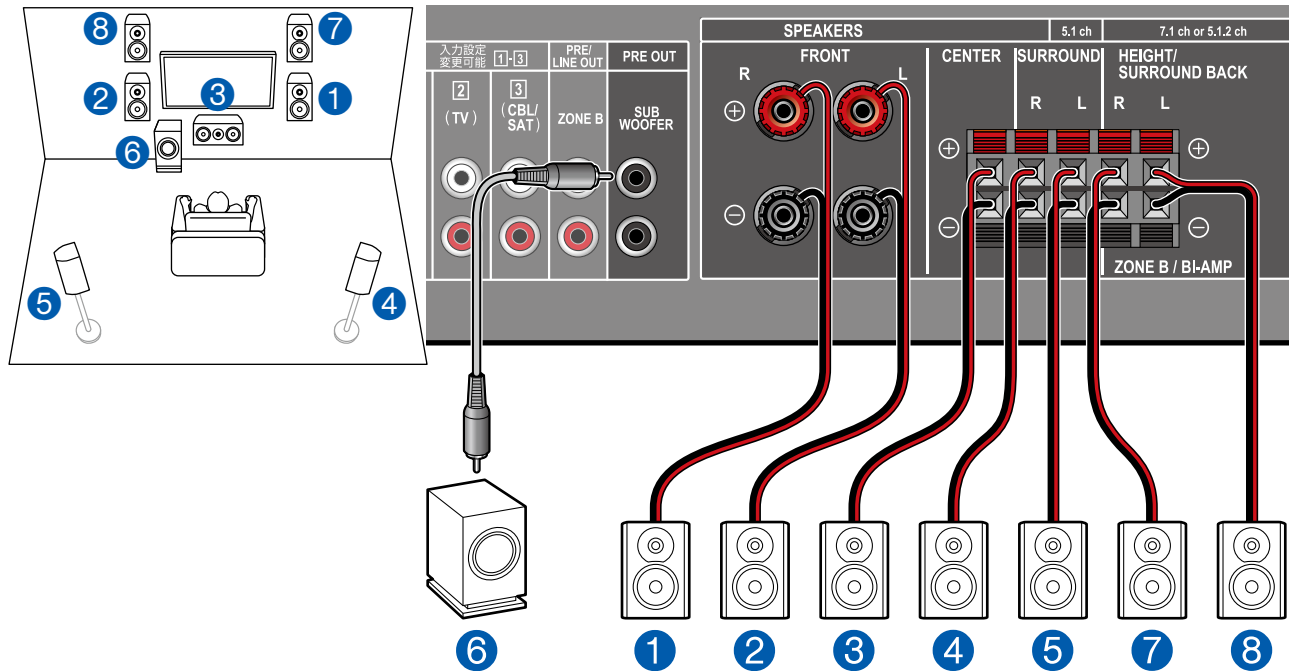
基本となる5.1チャンネルシステムにサラウンドバックスピーカーを加えた7.1チャンネルシステムです。スピーカーレイアウトの詳細は「スピーカーを設置する」(→p17)をご参照ください。

■ 初期設定(→p87)時の「スピーカー設定」の設定について：



- スピーカーチャンネル：7.1 ch
- サブウーファー：有り
- ハイトスピーカー：---
- ゾーンBスピーカー：無し
- ゾーンBアウトプットレベル：任意の値(→p35)
- インピーダンス：任意の値(→p22)

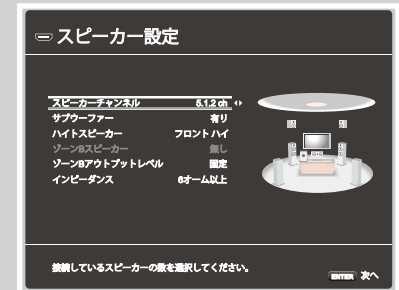
■ 5.1.2チャンネルシステム



5.1チャンネルシステムに、ハイトスピーカーのタイプのひとつであるフロントハイトスピーカーを組み合わせた例です。ハイトスピーカーは以下の3タイプの中から1組のみ選んで接続することができます。

- フロントハイトスピーカー / リアハイトスピーカーを使用した場合の設置例 (→p19)
- 天井埋め込み型スピーカーを使用した場合の設置例 (→p20)
- Dolby Enabledスピーカー (Dolby Speakers) を使用した場合の設置例 (→p21)

■ 初期設定 (→p87) 時の「スピーカー設定」の設定について：



- スピーカーチャンネル：5.1.2 ch
- サブウーファー：有り
- ハイトスピーカー：実際に設置したハイトスピーカーのタイプの中から選択してください
- ゾーンBスピーカー：無し
- ゾーンBアウトプットレベル：任意の値 (→p35)
- インピーダンス：任意の値 (→p22)

スピーカー組み合わせ一覧

• いずれの組み合わせでも、アンプ内蔵サブウーファーは2台まで接続可能です。

スピーカーチャンネル	FRONT	CENTER	SURROUND	SURROUND BACK	HEIGHT	Bi-AMP	ZONE B (ゾーンスピーカー)
2.1 ch	✓					✓(*1)	✓(*1)
3.1 ch	✓	✓				✓(*1)	✓(*1)
4.1 ch	✓		✓			✓(*1)	✓(*1)
5.1 ch	✓	✓	✓			✓(*1)	✓(*1)
6.1 ch	✓		✓	✓			
7.1 ch	✓	✓	✓	✓			
2.1.2 ch	✓				✓		
3.1.2 ch	✓	✓			✓		
4.1.2 ch	✓		✓		✓		
5.1.2 ch	✓	✓	✓		✓		

(*1) Bi-AMP、ゾーンスピーカーは、いずれか一つを選択することができます。

テレビを接続する

本機はテレビとAV機器の間に接続します。本機とテレビを接続することで、AV機器の映像や音声信号をテレビに出力したり、テレビの音声を本機で再生することができます。テレビとの接続は、テレビがARC (Audio Return Channel) 機能に対応しているかにより異なります。ARC機能は、HDMIケーブルを經由してテレビの音声信号を伝送し、本機でテレビの音声を再生する機能です。テレビがARC機能に対応しているかどうかは、テレビの取扱説明書などでご確認ください。

お手持ちのテレビは**ARC**機能に対応していますか？

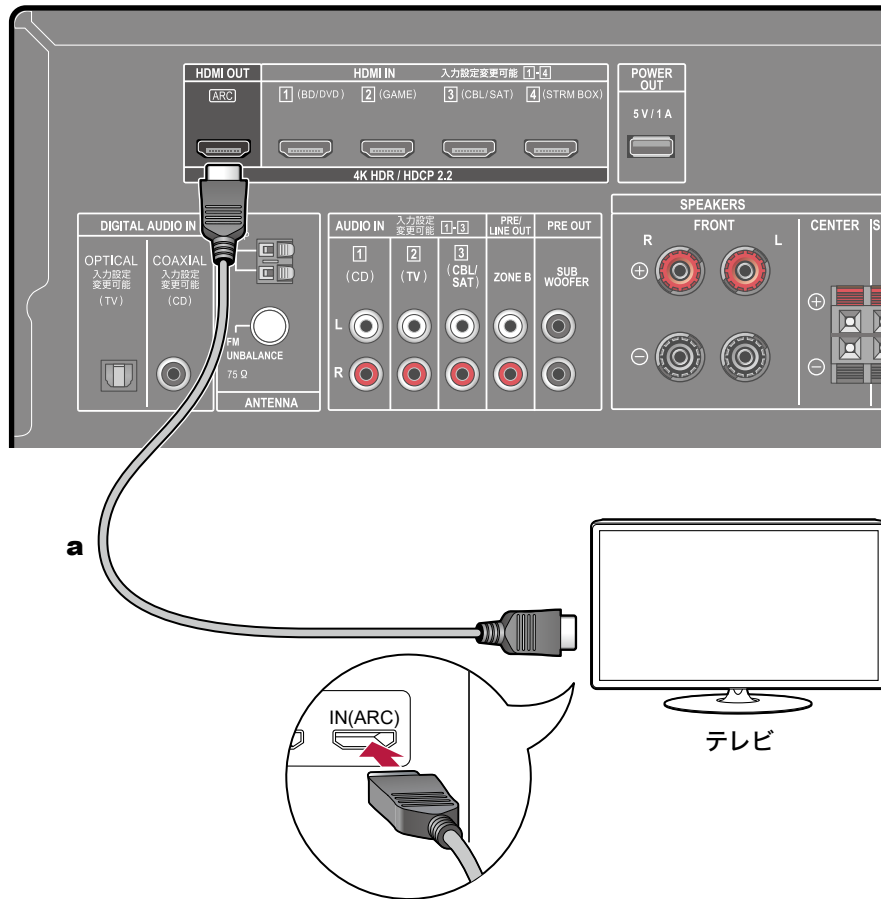
はい

• **ARC**対応テレビとの接続 (→ [p31](#))

いいえ

• **ARC**非対応テレビとの接続 (→ [p32](#))

ARC 対応テレビとの接続



a HDMIケーブル

テレビがARC (Audio Return Channel) 機能(*)に対応している場合は、HDMIケーブルのみを使用してテレビと接続を行います。テレビ側のHDMI IN端子はARC対応の端子を選んで接続してください。

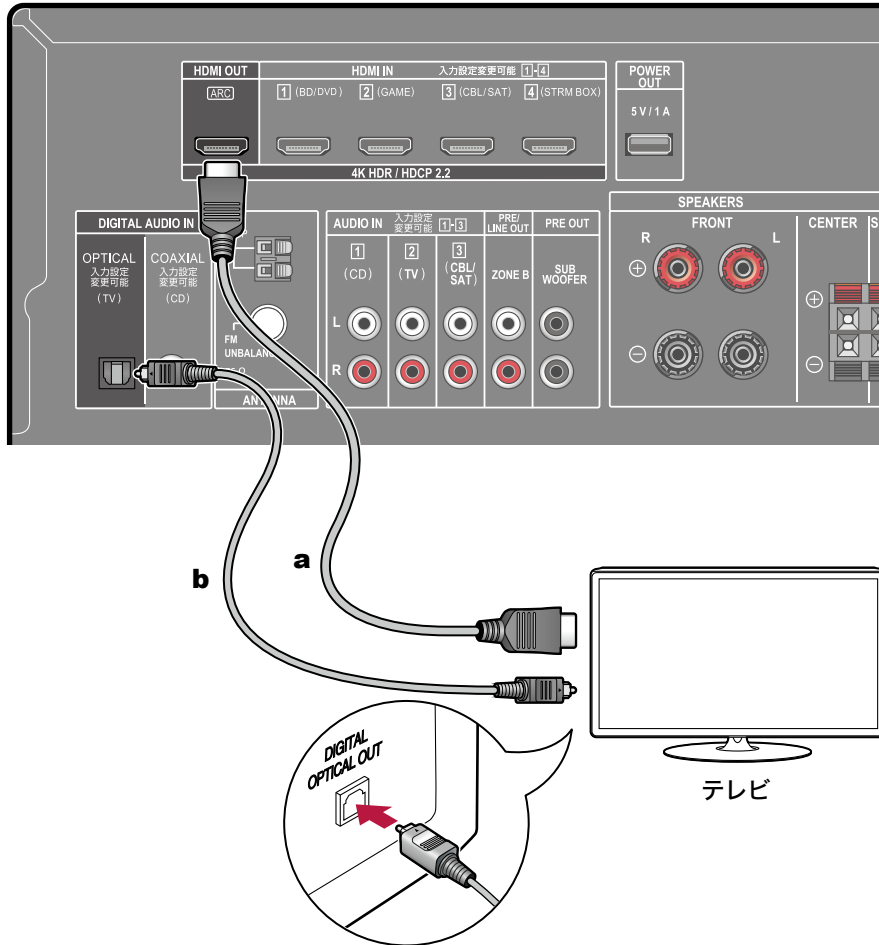


設定が必要です

- ARC機能を使用するためには設定が必要です。初期設定(→p86)の「3. ARC設定」で、「はい」を選択してください。「いいえ、とばします」を選んだ場合は、初期設定の完了後に、Setupメニューで設定が必要です。リモコンの HOME を押し、「6. ハードウェア」-「HDMI」-「Audio Return Channel」(→p81)を「オン」に設定します。
- テレビの接続、CEC機能や音声出力に関する設定については、テレビの取扱説明書をご覧ください。

(*) ARC機能：HDMIケーブルを経由してテレビの音声信号を伝送し、本機でテレビの音声を再生する機能です。ARC機能を搭載しているテレビとの接続は、HDMIケーブル1本の接続で完了します。テレビがARC機能に対応しているかどうかはテレビの取扱説明書などで確認ください。

ARC 非対応テレビとの接続



a HDMIケーブル、b 光デジタルケーブル

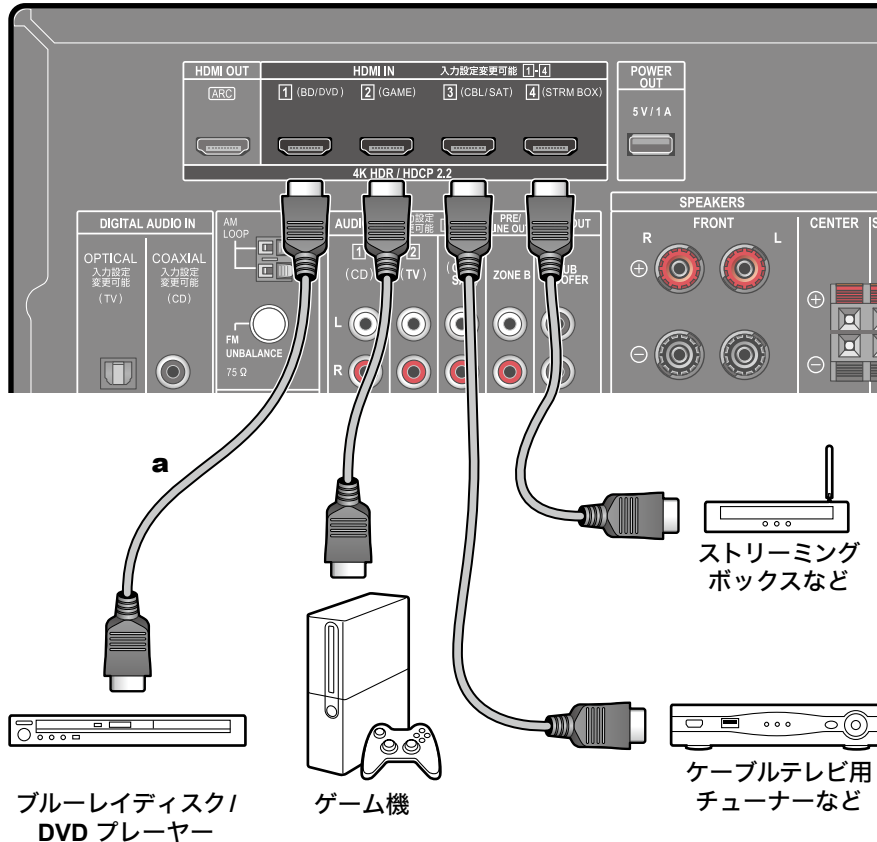
テレビがARC (Audio Return Channel) 機能(*)に対応していない場合は、HDMIケーブルと光デジタルケーブルを接続します。テレビにDIGITAL OPTICAL OUT端子がない場合は、オーディオ用ピンケーブルを使用して、AUDIO IN TV端子と接続することもできます。

- 本機の入力端子に接続したケーブルテレビ用チューナーなどでテレビを視聴する場合(テレビ内蔵のチューナーを使用しない場合)は、光デジタルケーブルやオーディオ用ピンケーブルを接続する必要はありません。

(*)ARC機能：HDMIケーブルを経由してテレビの音声信号を伝送し、本機でテレビの音声を再生する機能です。ARC機能を搭載しているテレビとの接続は、HDMIケーブル1本の接続で完了します。テレビがARC機能に対応しているかどうかはテレビの取扱説明書などで確認ください。

再生機器を接続する

HDMI 端子のある AV 機器との接続



a HDMI ケーブル

HDMI 端子を持つ AV 機器との接続例です。CEC (Consumer Electronics Control) 規格に準拠している AV 機器との接続では、入力切替の連動切替などの HDMI CEC 機能 (*) や、本機の電源がスタンバイ状態になっているときでも AV 機器の映像/音声信号をテレビに伝送できる HDMI スタンバイスルー機能を使用することができます。また、後面パネルの POWER OUT 端子は、USB ケーブルを使用して本機 HDMI IN 端子に接続するストリーミングメディアプレーヤーへの電源供給 (5 V/1 A) を行うことができます。なお、本機の電源がスタンバイ状態のときにも電源供給を行うためには、「スタンバイ時の USB 電源供給」(→p82) の設定値を「オン」に変更する必要があります。

- 4K、1080p の映像を再生する場合は、ハイスピード HDMI ケーブルをご使用ください。
- POWER OUT 端子は音楽ファイルの再生機能やスマートフォン/タブレットなどへの給電には対応しておりません。

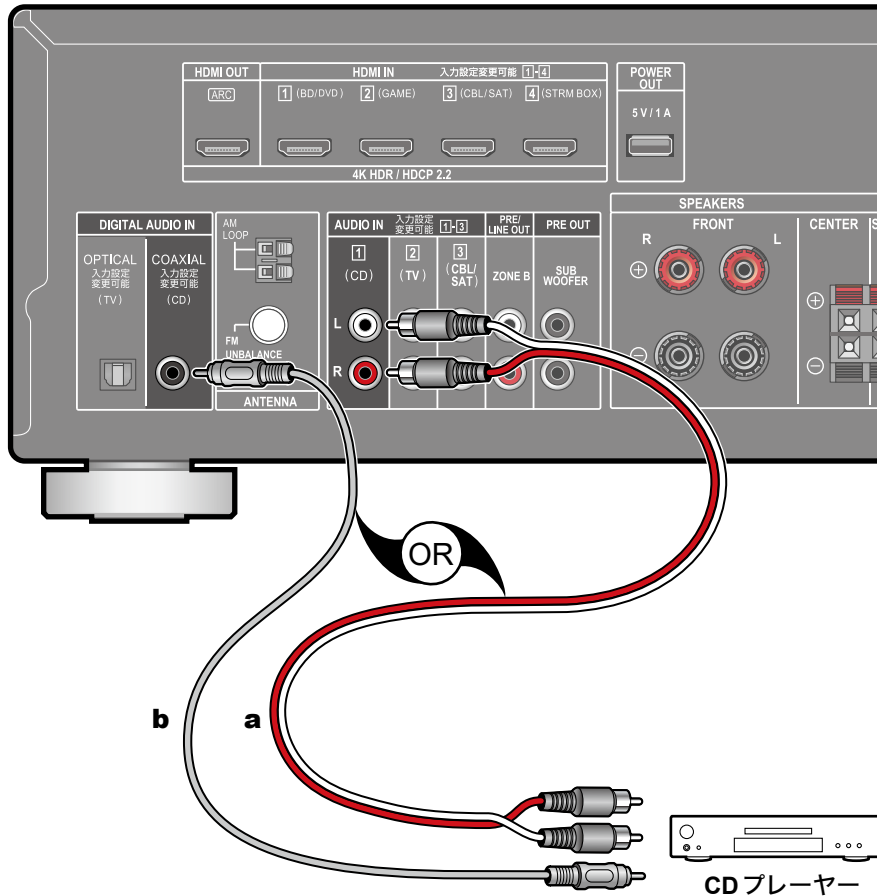


設定が必要です

- HDMI CEC 機能や HDMI スタンバイスルー機能は、初期設定 (→p86) の「3. ARC 設定」で「はい」を選んだ場合は、自動的に有効になります。「いいえ、とびします」を選んだ場合は、初期設定の完了後に、Setup メニューで設定が必要です。リモコンの を押し、「6. ハードウェア」-「HDMI」から設定します。(→p80)
- Dolby Digital などのデジタルサラウンド音声を楽しむためには、接続したブルーレイディスクプレーヤーなどの音声出力がビットストリーム出力に設定されている必要があります。

(*) HDMI CEC 機能：CEC 規格に準拠した再生機との入力切替の連動切り換え/CEC 規格に準拠したテレビのリモコンで、音声をテレビから出力するか、本機から出力するかの切り換えや音量調整などの操作/テレビの電源オフに連動して自動で電源スタンバイなどのコントロール機能が可能です。

オーディオ機器との接続

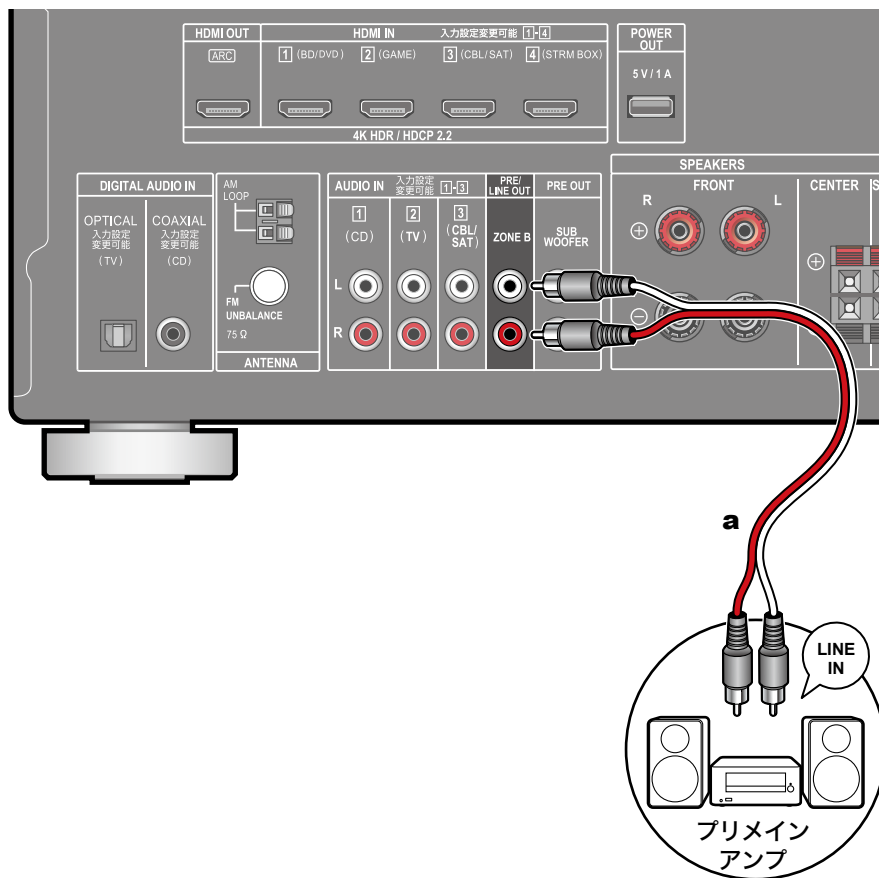


オーディオ機器との接続例です。CDプレーヤーとは同軸デジタルケーブルまたはオーディオ用ピンケーブルで接続します。

a オーディオ用ピンケーブル、**b** 同軸デジタルケーブル

別室のAV機器と接続する (ゾーンB接続)

別室のプリメインアンプと接続する (ゾーンB)




a オーディオ用ピンケーブル

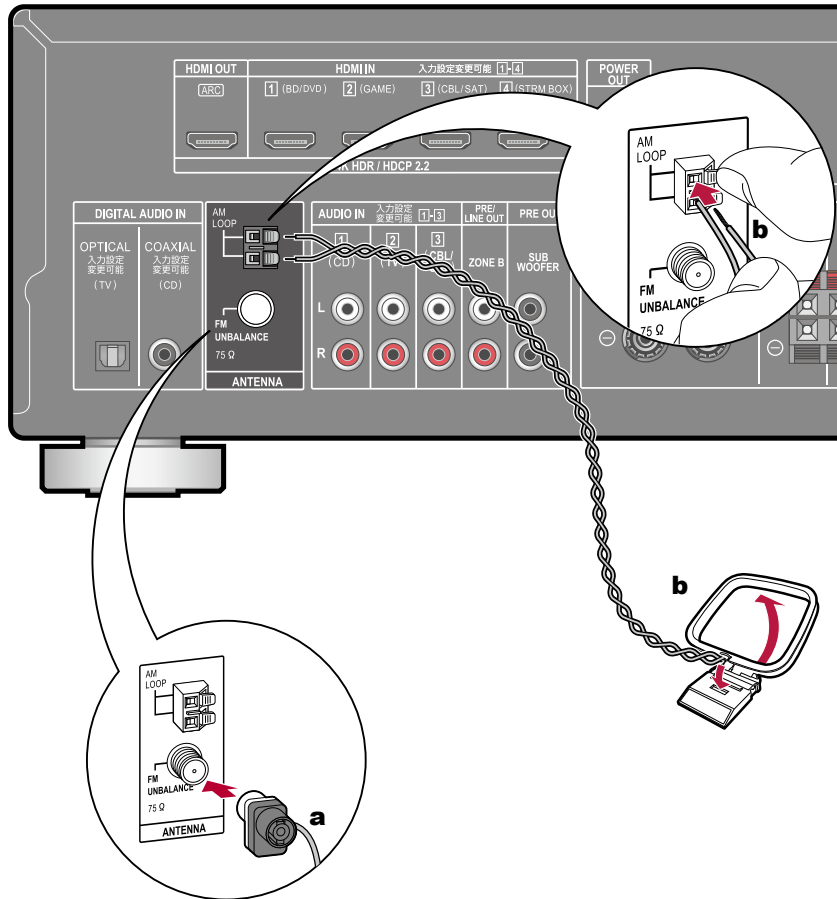
メインルーム (ゾーンA) で再生をしながら、別室 (ゾーンB) で、同時に同じソースの2チャンネルの音声を楽しむことができます。本機の ZONE B PRE/LINE OUT 端子と別室のプリメインアンプまたはパワーアンプの LINE IN 端子をオーディオ用ピンケーブルで接続します。



設定が必要です

パワーアンプを接続する場合は、初期設定 (→p86) の「スピーカー設定」で「ゾーンBアウトプットレベル」を「可変」に設定してください。Setupメニューから「ゾーンBアウトプットレベル」を設定する場合は、リモコンの  を押し、「2.スピーカー」-「配置・構成」-「ゾーンBアウトプットレベル」(→p72) を「可変」に設定してください。設定しない場合、大音量が出力されて、パワーアンプやスピーカー等が破損する恐れがあります。

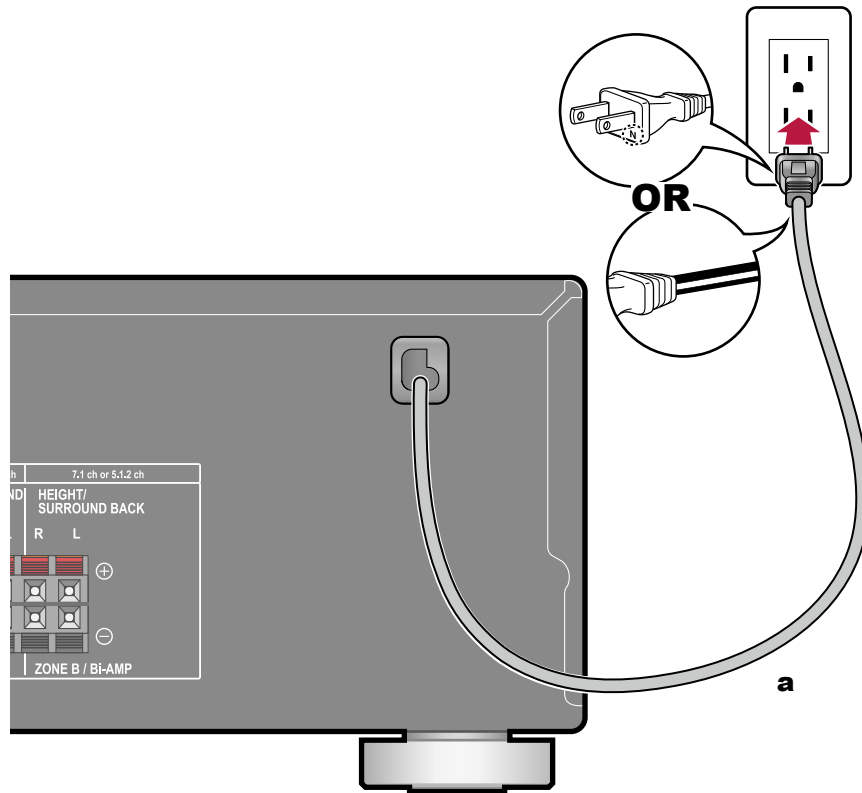
アンテナを接続する



a FM室内アンテナ、**b** AM室内アンテナ

本機にアンテナを接続し、受信しながら、もっとも聴き取りやすい位置にアンテナを設置してください。FM 室内アンテナは接着テープや画びょうなどで壁面に設置してください。

電源コードを接続する



すべての接続が完了したら、電源コードを接続してください。

- 電源コードはすべての接続が完了してから接続してください。
- 音質向上のため、電源の極性を合わせます。本機にはコードに目印線（白線）がある電源コードまたは、電源プラグにNの印字がある電源コードのいずれかが取り付けられています。目印線（白線）または電源プラグにNの印字がある側をコンセントの溝の長い方に合わせて差し込んでください。コンセントの溝の長さが同じ場合は、どちらを接続してもかまいません。

a 電源コード

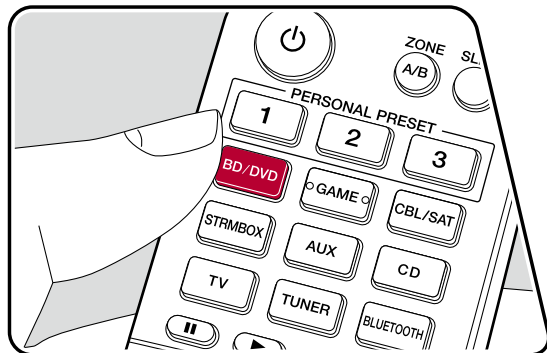
再生する

AV機器の再生	39
BLUETOOTH® 再生	40
AM/FM ラジオを聴く	41
ゾーンB再生	45
便利な機能	47
リスニングモード	51

AV機器の再生

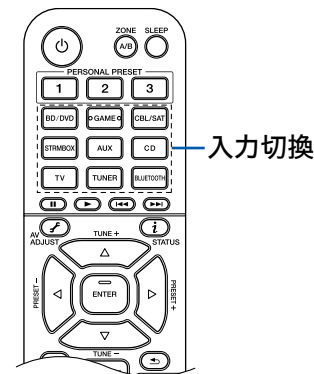
ブルーレイディスクプレーヤーなどのAV機器の音声を本機で再生することができます。

基本の操作



本機の電源がオンの状態で次の操作を行ってください。

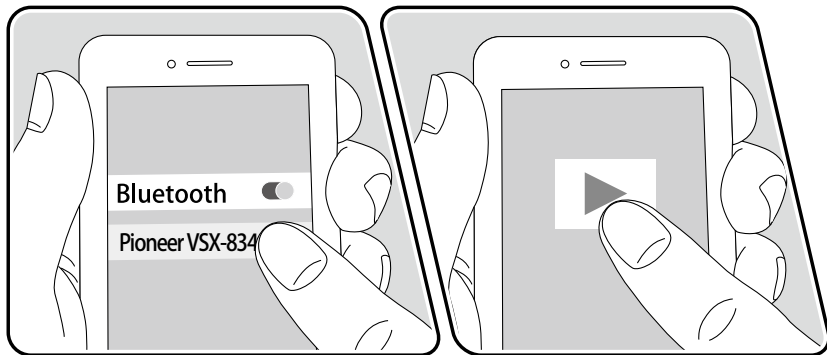
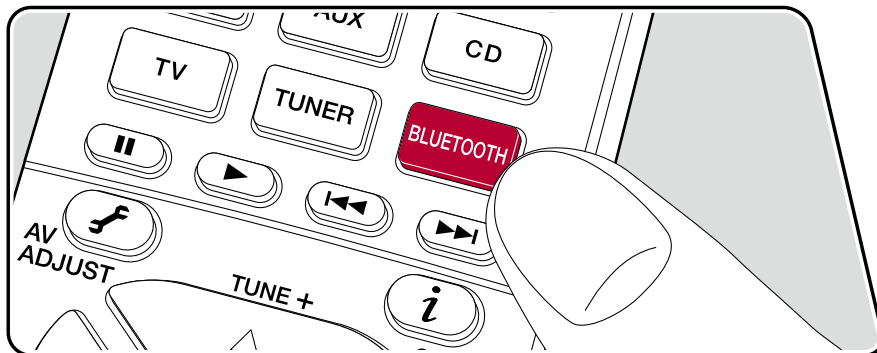
1. テレビのリモコンを使用してテレビの入力を本機と接続した入力に切り換えます。
2. 接続した端子名と同じ名称の入力切換を押して、入力を切り換えます。
例えば、BD/DVD端子に接続した機器を再生する場合は、BD/DVDを押します。
テレビの音声を聴くにはTVを押します。
 - CECの連動機能が働くと、本機とHDMI接続したCEC対応テレビや再生機器とは入力切換が自動で行われます。
3. AV機器を再生します。



BLUETOOTH® 再生

スマートフォンなどのBLUETOOTH対応機器の音声をワイヤレスで再生することができます。

基本の操作



本機の電源がオンの状態で次の操作を行ってください。

ペアリング

1. BLUETOOTH ボタンを押すと、表示部に「Now Pairing...」が表示され、ペアリングモードになります。

Now Pairing...

2. BLUETOOTH 対応機器の BLUETOOTH 機能を有効 (オン) にして、表示される機器から本機を選びます。パスワードを要求された場合は、「0000」を入力してください。
 - 本機は「Pioneer VSX-834 XXXXXX」と表示されます。
 - 別の BLUETOOTH 対応機器と接続する場合は、「Now Pairing...」が表示されるまで BLUETOOTH ボタンを長押しして、2 の操作を行います。本機は最大 8 台のペアリング情報を記憶できます。
 - 約 15 m 圏内で通信できます。なお、すべての BLUETOOTH 対応機器との接続動作を保証するものではありません。

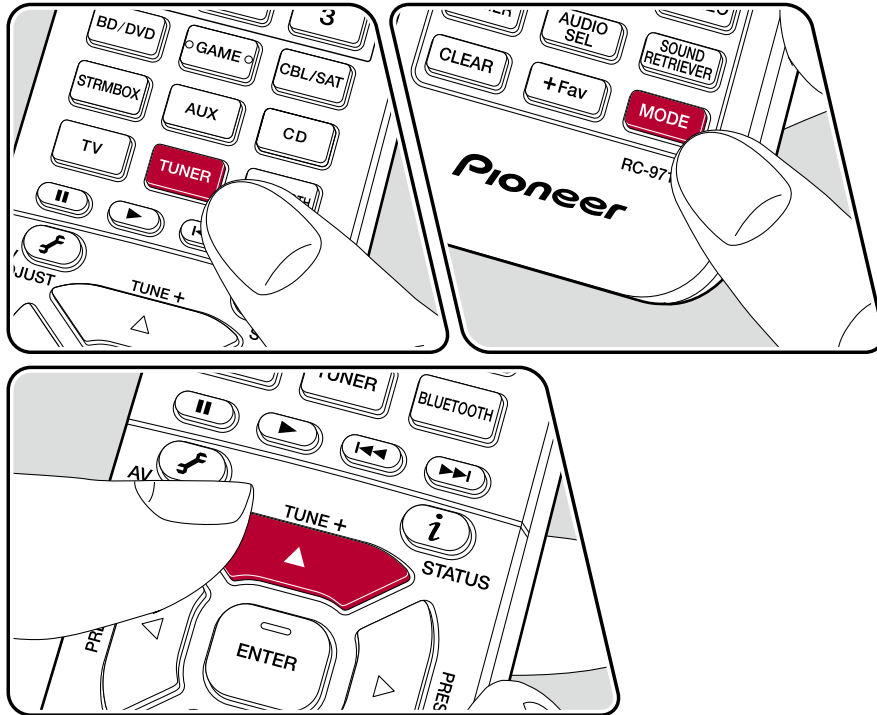
再生する

1. BLUETOOTH 対応機器の接続操作を行います。
2. 音楽ファイルを再生します。
本機の入力が自動で「BLUETOOTH」に切り換わります。
BLUETOOTH 対応機器のボリュームは適度に大きくしてください。
 - BLUETOOTH ワイヤレス技術の特性上、本機での再生音は BLUETOOTH 対応機器での再生音と比べてやや遅れることがあります。

AM/FM ラジオを聴く

本機に内蔵されたチューナーで、AM/FM ラジオを受信することができます。

放送局を選局する



本機の電源がオンの状態で次の操作を行ってください。

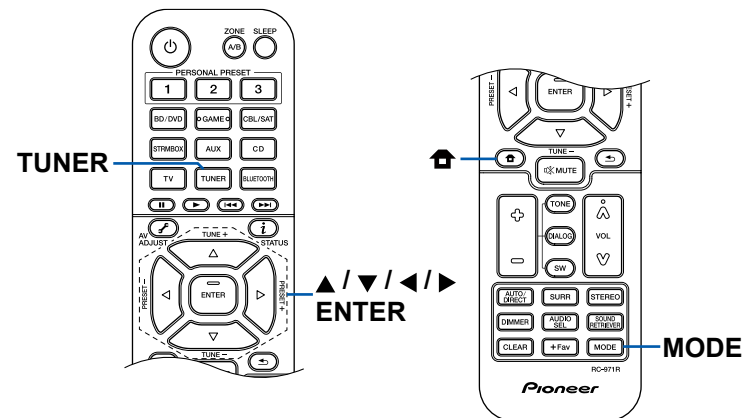
自動で選局する

1. TUNERをくり返し押して、「AM」または「FM」を選びます。
2. MODEをくり返し押して、表示部に「TunMode:Auto」を表示させます。

TunMode:Auto

3. カーソルの▲/▼を押すと、自動選局が始まり、放送局が見つると自動的に停止します。放送局を受信すると、表示部の「TUNED」が点灯します。FMステレオ局を受信した場合は、「STEREO」が点灯します。

FM放送を受信しにくいときは：「手動で選局する」(→p42)の操作を行ってください。なお、手動で選局するとFM放送は受信感度に関係なくステレオ受信ではなくモノラル受信になります。



手動で選局する

手動で選局するとFM放送は受信感度に関係なくステレオ受信ではなくモノラル受信になります。

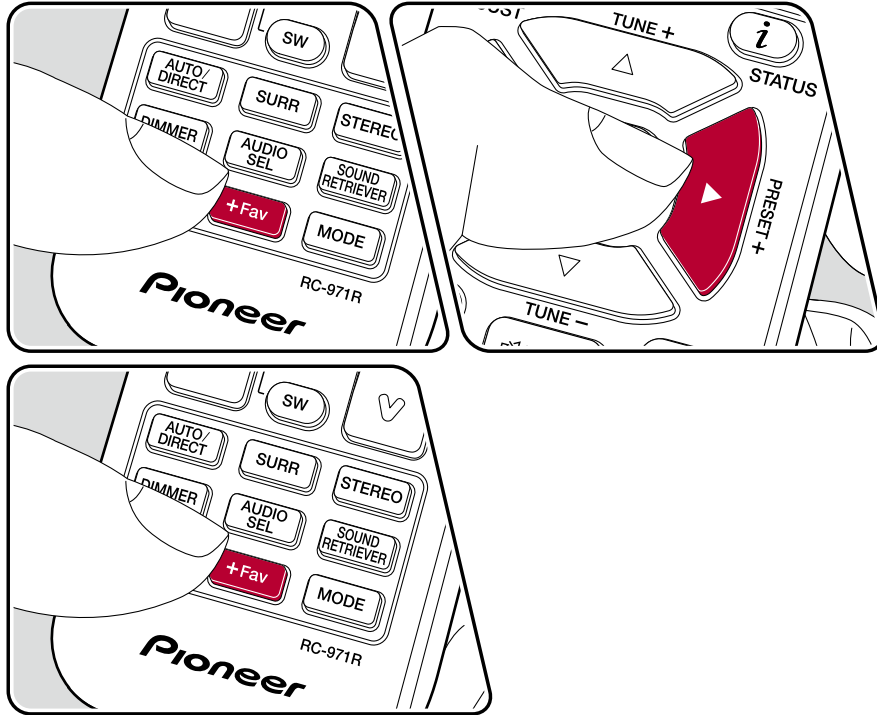
1. TUNERをくり返し押して、「AM」または「FM」を選びます。
2. MODEをくり返し押して、表示部に「TunMode:Manual」を表示させます。

TunMode:Manual

3. カーソルの▲/▼を押しながら、聴きたい放送局を選びます。
 - ▲/▼を押すごとに周波数が1ステップずつ変わります。ボタンを押し続けると、連続して周波数が変わり、離すと止まります。

□ 放送局を登録する (→ [p43](#))

放送局を登録する



登録する

お好きなAM/FM放送局を最大40局まで登録できます。

登録したいAM/FM放送局を受信した後、以下の操作を行ってください。

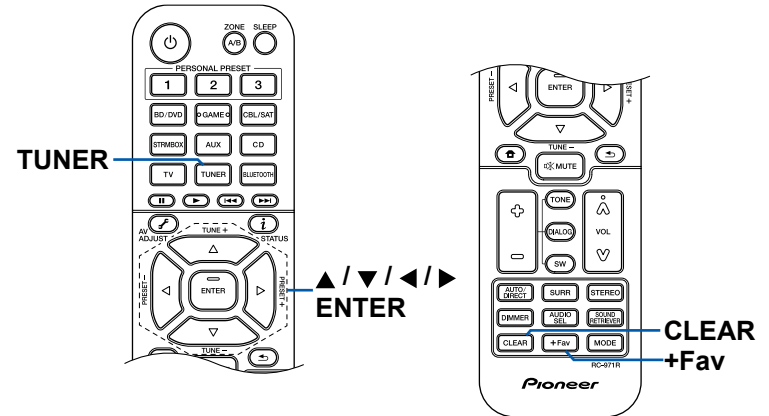
1. +Favを押して、表示部のプリセット番号を点滅させます。

FM 87.5 MHz

2. プリセット番号が点滅している間(約8秒間)に、カーソルの◀/▶をくり返し押し、1～40の間で番号を選びます。

3. 再度+Favを押して登録します。

登録すると、プリセット番号の点滅が止まります。この手順をくり返して、お好きなAM/FM放送局を登録してください。



登録したプリセット局を選ぶ

1. TUNERを押します。
2. カーソルの◀/▶を押して、プリセット番号を選びます。

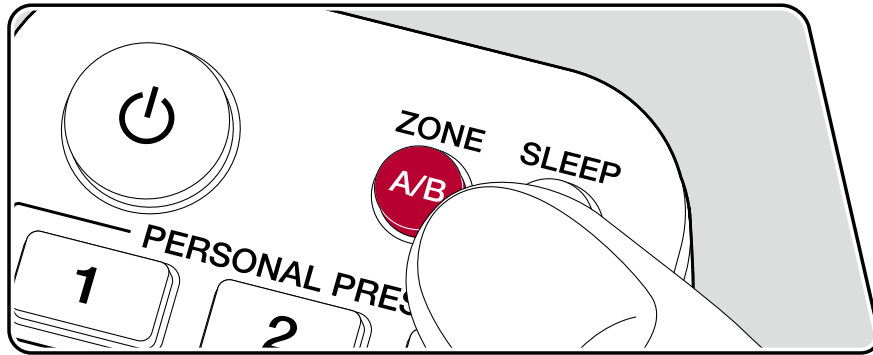
登録したプリセット局を削除する

1. TUNERを押します。
2. カーソルの◀/▶を押して、削除したいプリセット番号を選びます。
3. +Favを押したあと、プリセット番号が点滅している間にCLEARを押して、プリセット番号を削除します。削除されると、表示部から番号が消えます。

ゾーンB再生

メインルーム (ゾーンA) で再生をしながら、別室 (ゾーンB) で同時に同じソースの音声を楽しむことができます。

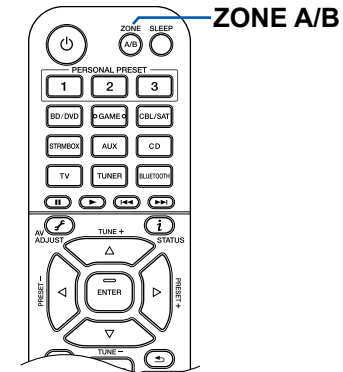
再生する




1. ZONE A/B を押して、音声の出力先を選びます。
 - ゾーンA：メインルーム (ゾーンA) にのみ音声を出力します。本体表示部の「A」が点灯します。
 - ゾーンB：別室 (ゾーンB) にのみ音声を出力します。本体表示部の「B」が点灯します。
 - ゾーンA+B：メインルーム (ゾーンA) と別室 (ゾーンB) に音声を出力します。本体表示部の「A」「B」が点灯します。

A B

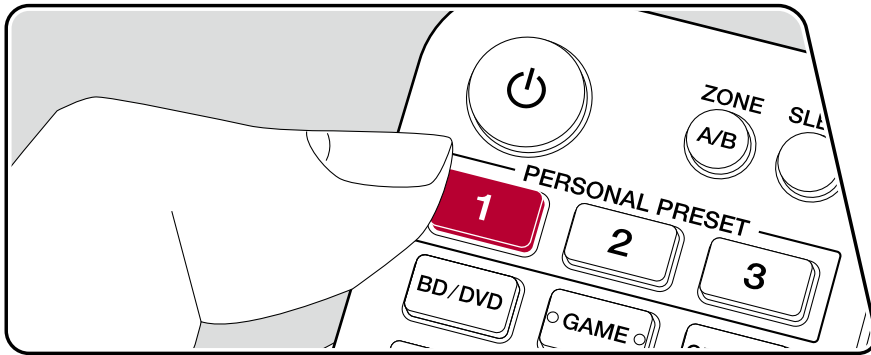
2. AV 機器を再生します。



3. 別室のプリメインアンプと接続している場合は、プリメインアンプで音量を調整します。別室のパワーアンプやゾーンスピーカーと接続している場合は、リモコンのボリュームで音量を調整します。
- パワーアンプを接続する場合は、初期設定 (→ [p86](#)) の「スピーカー設定」で「ゾーンBアウトプットレベル」を「可変」に設定してください。Setupメニューから「ゾーンBアウトプットレベル」を設定する場合は、リモコンの  を押し、「2. スピーカー」-「設定・構成」-「ゾーンBアウトプットレベル」(→ [p72](#)) を「可変」に設定してください。設定しない場合、大音量が出力されて、パワーアンプやスピーカー等が破損する恐れがあります。
 - 音声の出力先に「ゾーンA+B」を選んだ場合、メインルーム(ゾーンA)のリスニングモードはスピーカーレイアウトが2.1chの場合は「Stereo」、3.1ch以上の場合は「Ext.Stereo」しか選べません。

便利な機能

PERSONAL PRESET を使う



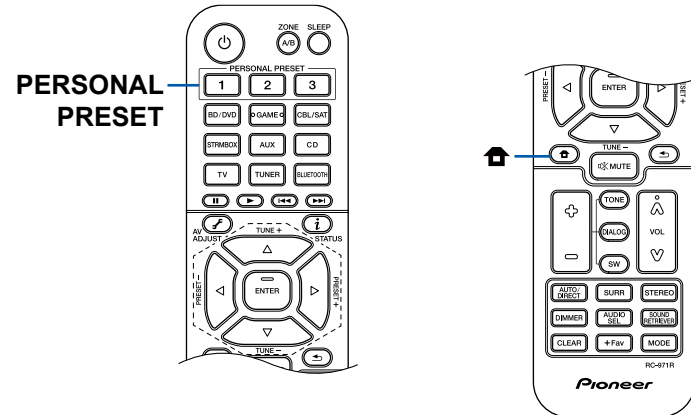
登録する

現在の入力切換やリスニングモードなどの、さまざまな設定内容(→p48)を3つのPERSONAL PRESET ボタンに登録して、ワンタッチで呼び出すことができます。

(例) PERSONAL PRESET ボタンを押すと、自動的に入力切換が「TUNER」に切り換わって、登録した放送局を受信します。また、リスニングモードやボリュームレベルも登録した内容に切り換わります。

登録したい設定の状態で、以下の操作を行ってください。

1. PERSONAL PRESET 1～3 のいずれかのボタンを長押しします。
2. 表示部に「Preset Written」と表示され、設定内容が登録されます。すでに登録がされている場合は上書きされます。



登録できる設定内容について


PERSONAL PRESET では以下の設定が登録されます。

- 入力切換 (AM/FM 放送局を登録することもできます。)
- リスニングモード
- ボリュームレベル (上限は「-32 dB」)
- 出力先 (ゾーン)
- サウンドレトリバー機能の「オン」「オフ」
- TREBLE/BASS/DIALOG など
- * AM/FM 放送局を登録した場合、TUNER のプリセット番号「38」、「39」、「40」(→p43)が上書きされます。

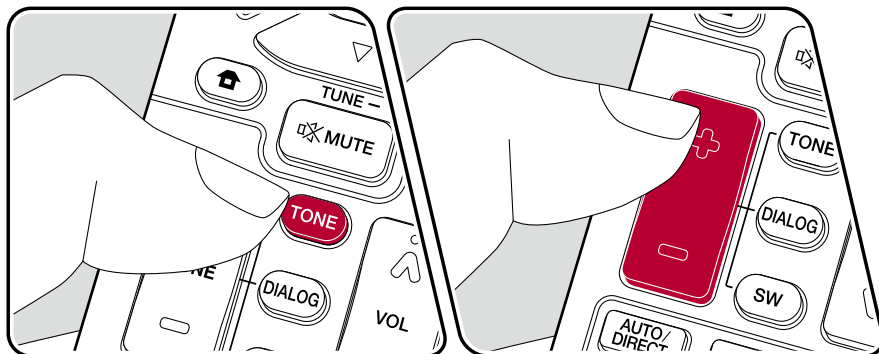
登録した設定を使用する

1. PERSONAL PRESET 1～3 ボタンのうち、設定内容を登録したボタンを押します。
 - 本体がスタンバイ時でも、PERSONAL PRESET ボタンを押すと電源がオンになります。

登録した設定を確認する

1.  を押して、Setup メニューの「1. 入力/出力端子の割り当て」-「PERSONAL PRESET 情報」(→p71)を選び、ENTER を押します。
2. 登録内容の一覧が表示されます。
 - サウンドレトリバー機能など一覧に表示されない項目もあります。

トーンを調整する



低音域/高音域を調整する

スピーカーの音質を調整することができます。

1. TONEをくり返し押して、Treble、Bassのどちらか調整したい内容を選びます。
Treble : スピーカーの高音域を強調したり、弱めたりします。
Bass : スピーカーの低音域を強調したり、弱めたりします。
2. +、-を押して調整します。

DIALOGを調整する

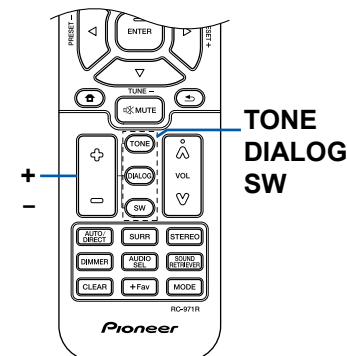
映画のセリフ部分や音楽のボーカルをより際立たせ、聴き取りやすくなります。特に映画のセリフ部分には有効です。またセンタースピーカーを用いない場合でもその効果を発揮します。「1」(低)～「5」(高)から、お好きなレベルをご利用ください。

1. DIALOGを押します。
2. +、-を押して調整します。
 - 入力ソースまたはリスニングモードの設定によっては、選択できない、もしくは望ましい効果を得ることができない場合があります。

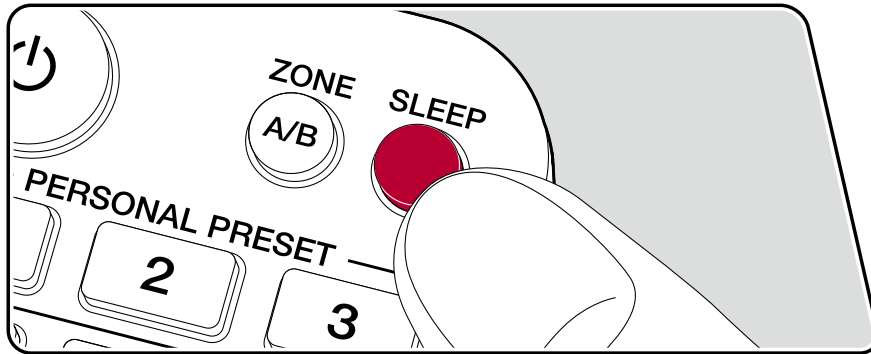
サブウーファーを調整する

音声を聴きながら、サブウーファーのスピーカーレベルを調整します。

1. SWを押します。
2. +、-を押して、「-15.0 dB」～「+12.0 dB」の間で調整します。
 - 調整した内容は、本機をスタンバイ状態にすると設定前の内容に戻ります。



スリープタイマー



指定した時間が経過したら、本機を自動的にスタンバイ状態にすることができます。リモコンのSLEEPボタンを押し、「30 min」、「60 min」、「90 min」から選びます。「Off」:自動的にスタンバイ状態にしない場合

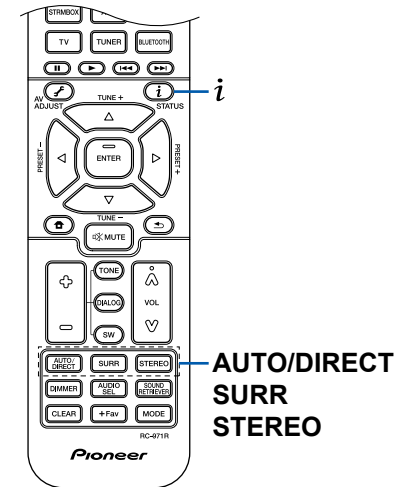
リモコンの🏠ボタンを押して、Setupメニューの「6. ハードウェア」-「電源管理」-「スリープタイマー」(→[p82](#))から設定することもできます。

リスニングモード

再生中に「AUTO/DIRECT」、「SURR」、「STEREO」のボタンをくり返し押すことで、リスニングモードを切り換えることができます。

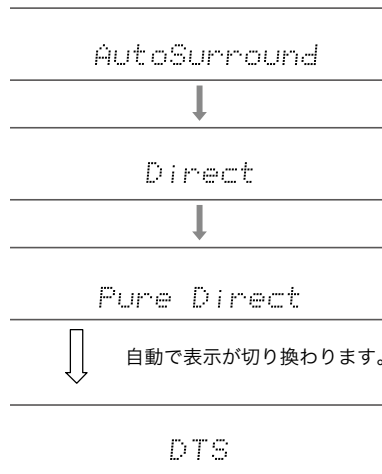
リスニングモードを選ぶ

- AUTO/DIRECT、SURR、STEREOは、各ボタンごとに最後に選んだリスニングモードを記憶します。最後に選んだリスニングモードに対応していないコンテンツを再生した場合は、そのコンテンツにとって最もスタンダードなリスニングモードを自動的に選択します。
- それぞれのリスニングモードの効果は、「リスニングモードの効果」(→[p57](#))をご参照ください。
- 入力する信号の音声フォーマットごとに選択できるリスニングモードについては、「入力フォーマットと選択できるリスニングモードについて」(→[p61](#))をご参照ください。



■ AUTO/DIRECT ボタン

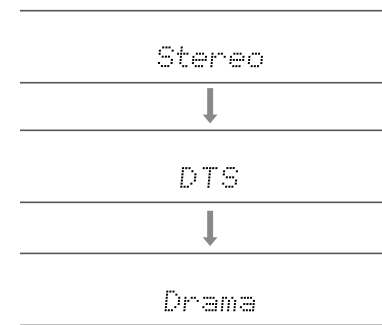
くり返し押すと、入力信号に応じたリスニングモードが自動で選択される「Auto Surround」、「Direct」、「Pure Direct」のモードに切り換わります。いずれかを選ぶと、本体表示部に「Auto Surround」（または「Direct」、「Pure Direct」）と表示されたあと、マルチチャンネルの入力信号ではDTS、2チャンネルの入力信号ではStereoモードなど、それぞれの音声フォーマットに対して最適なリスニングモードに自動で切り換わり、表示部に「DTS」のように表示されます。



「Direct」モードは、トーンコントロール機能など音質に影響する処理を一部遮断することで、より良い音質を楽しむことができます。また「Pure Direct」は、さらに音質に影響を与える処理を遮断することで、原音に忠実な再生を行います。この場合、MCACCで測定されたスピーカー補正は無効になります。

■ SURR ボタン

くり返し押すと、入力している信号の音声フォーマットで選択できる、さまざまなリスニングモードを切り換えることができます。お好みに応じて選択ください。表示部には選択されているリスニングモードが表示されます。



■ STEREO ボタン

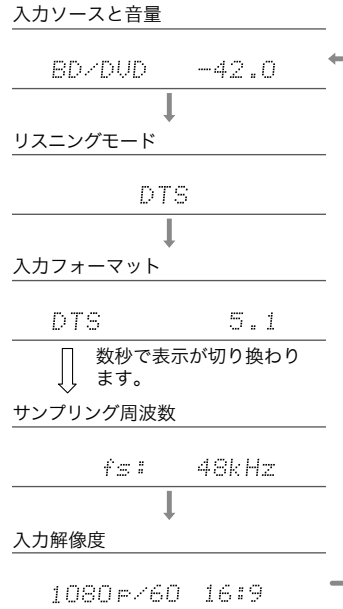
フロントスピーカーとサブウーファーのみで再生するStereoモードが選べます。

それぞれのリスニングモードの効果については、「リスニングモードの効果」を、入力する信号の音声フォーマットごとに選択できるリスニングモードについては「入力フォーマットと選択できるリスニングモードについて」をご参照ください。

入力フォーマットやリスニングモードを確認するには

リモコンの **i** ボタンまたは本体の STATUS ボタンをくり返し押すと、本体表示部が次の順に切り換わります。

- BLUETOOTH の場合は、本体の STATUS ボタンを押してください。
- すべての情報が表示されるとは限りません。



スピーカーレイアウトと選択できるリスニングモード

各スピーカーレイアウトによって選択できるリスニングモードについては、下記の表を参照してください。

リスニングモード	スピーカーレイアウト									
	2.1 ch	3.1 ch	4.1 ch	5.1 ch	6.1 ch	7.1 ch	2.1.2 ch	3.1.2 ch	4.1.2 ch	5.1.2 ch
<input checked="" type="checkbox"/> DD (Dolby Audio - DD)		✓(*1)	✓(*1)	✓(*1)	✓(*2)	✓(*2)		✓(*2)	✓(*2)	✓(*2)
<input checked="" type="checkbox"/> DD+ (Dolby Audio - DD+)		✓(*1)	✓(*1)	✓(*1)	✓(*1)	✓(*1)	✓(*1)	✓(*1)	✓(*1)	✓(*1)
<input checked="" type="checkbox"/> DTHD (Dolby Audio - TrueHD)		✓(*1)	✓(*1)	✓(*1)	✓(*1)	✓(*1)	✓(*1)	✓(*1)	✓(*1)	✓(*1)
<input checked="" type="checkbox"/> Atmos					✓	✓	✓	✓	✓	✓
<input checked="" type="checkbox"/> Atmos 2.0/2.1	✓									
<input checked="" type="checkbox"/> Atmos 3.0/3.1		✓								
<input checked="" type="checkbox"/> Atmos 4.0/4.1			✓							
<input checked="" type="checkbox"/> Atmos 5.0/5.1				✓						
<input checked="" type="checkbox"/> Atmos 6.0/6.1					✓					
<input checked="" type="checkbox"/> Atmos 7.0/7.1						✓				
<input checked="" type="checkbox"/> Atmos 2.0.2/2.1.2							✓			
<input checked="" type="checkbox"/> Atmos 3.0.2/3.1.2								✓		
<input checked="" type="checkbox"/> Dsur (Dolby Audio - Surr)	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
<input checked="" type="checkbox"/> Dsur 2.0/2.1 (Dolby Audio - Surr)	✓									
<input checked="" type="checkbox"/> Dsur 3.0/3.1 (Dolby Audio - Surr)		✓								
<input checked="" type="checkbox"/> Dsur 4.0/4.1 (Dolby Audio - Surr)			✓							
<input checked="" type="checkbox"/> Dsur 5.0/5.1 (Dolby Audio - Surr)				✓						
<input checked="" type="checkbox"/> Dsur 6.0/6.1 (Dolby Audio - Surr)					✓					
<input checked="" type="checkbox"/> Dsur 7.0/7.1 (Dolby Audio - Surr)						✓				
<input checked="" type="checkbox"/> Dsur 2.0.2/2.1.2 (Dolby Audio - Surr)							✓			
<input checked="" type="checkbox"/> Dsur 3.0.2/3.1.2 (Dolby Audio - Surr)								✓		

リスニングモード	スピーカーレイアウト									
	2.1 ch	3.1 ch	4.1 ch	5.1 ch	6.1 ch	7.1 ch	2.1.2 ch	3.1.2 ch	4.1.2 ch	5.1.2 ch
DTS		✓	✓	✓	✓	✓		✓(*3)	✓(*3)	✓(*3)
ES Discrete (DTS-ES Discrete)					✓	✓				
ES Matrix (DTS-ES Matrix)					✓	✓				
DTS 96/24		✓	✓	✓	✓	✓		✓(*3)	✓(*3)	✓(*3)
DTS-HD HR (DTS-HD High Resolution)		✓	✓	✓	✓	✓		✓	✓	✓
DTS-HD Master (DTS-HD Master Audio)		✓	✓	✓	✓	✓		✓	✓	✓
DTS Express		✓	✓	✓	✓	✓		✓	✓	✓
DTS:X		✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
DTS Neural:X	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
DTS Virtual:X	✓	✓	✓	✓	✓	✓				

リスニングモード	スピーカーレイアウト									
	2.1 ch	3.1 ch	4.1 ch	5.1 ch	6.1 ch	7.1 ch	2.1.2 ch	3.1.2 ch	4.1.2 ch	5.1.2 ch
AAC		✓	✓	✓	✓(*2)	✓(*2)		✓(*2)	✓(*2)	✓(*2)
PCM	✓	✓(*1)	✓(*1)	✓(*1)	✓(*1)	✓(*1)	✓(*3)	✓(*3)	✓(*3)	✓(*3)
DSD		✓(*1)	✓(*1)	✓(*1)	✓(*2)	✓(*2)		✓(*2)	✓(*2)	✓(*2)
Direct	✓	✓(*1)	✓(*1)	✓(*1)	✓(*1)	✓(*1)	✓(*1)	✓(*1)	✓(*1)	✓(*1)
Pure Direct	✓	✓(*1)	✓(*1)	✓(*1)	✓(*1)	✓(*1)	✓(*1)	✓(*1)	✓(*1)	✓(*1)
Stereo	✓	✓(*4)	✓(*4)	✓(*4)	✓(*4)	✓(*4)	✓(*4)	✓(*4)	✓(*4)	✓(*4)
Mono	✓	✓(*4)	✓(*4)	✓(*4)	✓(*4)	✓(*4)	✓(*4)	✓(*4)	✓(*4)	✓(*4)
Ext.Mono		✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
Ext.Stereo		✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
Classical			✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
Ent.Show (Entertainment Show)			✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
Drama			✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
Unplugged			✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
F.S.Surround (Front Stage Surround)	✓	✓	✓(*4)	✓(*5)	✓(*4)	✓(*5)	✓(*4)	✓(*5)	✓(*4)	✓(*5)

*1: 入力信号のチャンネル数に応じた音場で再生されます。

*2: サラウンドバックスピーカーまたはハイトスピーカーからは出力されません。

*3: ハイトスピーカーからは出力されません。

*4: フロントスピーカーのみ出力されます。

*5: フロントスピーカーとセンタースピーカーのみ出力されます。

リスニングモードの効果

リスニングモードのアップデートについて

Atmos 2.0/ DSUR 2.0などのリスニングモードは、ご購入後のファームウェアアップデートや、製品の生産途中からのファームウェアの切り換えによって追加されます。ファームウェアアップデートについての詳細は、「新機能の追加（ファームウェアアップデート）について」（→p5）をご参照ください。

アルファベット (ABC) 順

■ AAC

MPEG-2 AACで収録されたソースの再生に適したモードです。MPEG-2 AAC方式で圧縮されたデジタルデータで5.1チャンネルのサラウンド音声を提供します。

- 地上デジタル、BS/CS放送などのMPEG-2 AACソースの再生時に選んでください。

■ Classical

クラシックやオペラに適したモードです。サラウンド感を強調して、音声イメージが全体に広がる大ホールで聴いているような自然な響きを楽しめます。

■ Atmos

(Atmos 2.0などに対応する前のファームウェアバージョン)

サラウンドバックスピーカーまたは、ハイトスピーカーを接続している場合で、Dolby Atmos 音声フォーマット入力時に選択することができます。Dolby Atmos 音声フォーマットで記録された立体的なサウンドデザインを、忠実に再現するモードです。

Dolby Atmos は既存のサラウンドとは異なり、チャンネルではなく、3次元空間を、独立した動きのある音声オブジェクトで、よりクリアに、より正確に配置することが可能です。Dolby Atmos は、ブルーレイディスクの音声フォーマットのオプションとして採用され、リスナーの上方に音場を導入したことで、より立体的な音場を実現しています。

- この音声フォーマットの伝送にはHDMIケーブルでの接続と、再生機側の音声出力がビットストリーム出力に設定されている必要があります。

■ Atmos

(Atmos 2.0などに対応したファームウェアバージョン)

Dolby Atmos 音声に記録されている音声の位置データをリアルタイムで演算して適切なスピーカーから出力するため、フロントスピーカーのみの接続など、どのようなスピーカーレイアウトでも、Dolby Atmosの自然で立体的な音場をお楽しみいただけます。また、サラウンドバックスピーカーまたはハイトスピーカーを接続することで、Dolby Atmosのサウンドデザインを、より忠実に再現することができます。Dolby Atmos 音声フォーマット入力時に選択することができます。Dolby Atmos は既存のサラウンドとは異なり、チャンネルではなく、3次元空間を、独立した動きのある音声オブジェクトで、よりクリアに、より正確に配置することが可能です。Dolby Atmos は、ブルーレイディスクの音声フォーマットのオプションとして採用され、リスナーの上方に音場を導入したことで、より立体的な音場を実現しています。

スピーカーレイアウトによって、以下のリスニングモードが表示されます。

- Atmos 2.0/2.1：フロントスピーカーのみを設置している場合
 - Atmos 3.0/3.1：フロントスピーカーとセンタースピーカーを設置している場合
 - Atmos 4.0/4.1：フロントスピーカーとサラウンドスピーカーを設置している場合
 - Atmos 5.0/5.1：フロントスピーカー、センタースピーカー、サラウンドスピーカーを設置している場合
 - Atmos 6.0/6.1：フロントスピーカー、サラウンドスピーカー、サラウンドバックスピーカーを設置している場合
 - Atmos 7.0/7.1：フロントスピーカー、センタースピーカー、サラウンドスピーカー、サラウンドバックスピーカーを設置している場合
 - Atmos 2.0.2/2.1.2：フロントスピーカーとハイトスピーカーを設置している場合
 - Atmos 3.0.2/3.1.2：フロントスピーカー、センタースピーカー、ハイトスピーカーを設置している場合
 - Atmos：サラウンドスピーカーおよびハイトスピーカーを設置した「4.1.2 ch」、「5.1.2 ch」のときに選択することができます。
- この音声フォーマットの伝送にはHDMIケーブルでの接続と、再生機側の音声出力がビットストリーム出力に設定されている必要があります。
 - 「スピーカーバーチャライザー」（→p75）の設定が「オフ」（初期値はオン）の場合は、 Atmos以外は選択できません。

■ DD (Dolby Audio - DD)

Dolby Digital 音声フォーマットで記録されたサウンドデザインを、忠実に再現するモードです。

Dolby Digital 音声フォーマットは、ドルビーラボラトリーズにより開発されたマルチチャンネルデジタルフォーマットで、映画製作に広く採用されており、また、DVD-Videoやブルーレイディスクでは標準の音声フォーマットとして採用されています。DVD-Videoやブルーレイディスクでは、フロントスピーカーとセンタースピーカーの3チャンネルとサラウンドスピーカーの2チャンネル、低音域専用のLFEch(サブウーファアの音声要素)の最大5.1チャンネルで記録することが可能です。

- この音声フォーマットの伝送にはデジタルケーブルでの接続と、再生機側の音声出力がビットストリーム出力に設定されている必要があります。

■ DD+ (Dolby Audio - DD+)

Dolby Digital Plus 音声フォーマットで記録されたサウンドデザインを、忠実に再現するモードです。

Dolby Digital Plus 音声フォーマットは、Dolby Digital をベースに改良され、チャンネル数の拡大と、データビットレートに余裕を持たせることにより音質の向上が図られています。Dolby Digital Plus はブルーレイディスクの音声フォーマットのオプションとして採用され、5.1チャンネルをベースに、サラウンドバックチャンネルなどを追加した最大7.1チャンネルで記録することが可能です。

- この音声フォーマットの伝送にはHDMIケーブルでの接続と、再生機側の音声出力がビットストリーム出力に設定されている必要があります。

■ DSurr (Dolby Audio - Surr)

( DSurr 2.0などに対応する前のファームウェアバージョン)

2チャンネルや5.1チャンネルの入力信号を5.1チャンネルや7.1チャンネルや5.1.2チャンネルに拡張するなど、接続しているスピーカー構成に合わせてマルチチャンネルに拡張再生できるリスニングモードです。

- DTS信号入力時は、選択できません。

■ DSurr (Dolby Audio - Surr)










( DSurr 2.0などに対応したファームウェアバージョン)


2チャンネルや5.1チャンネルの入力信号を5.1チャンネルや7.1チャンネルや5.1.2チャンネルに拡張できるリスニングモードです。接続しているスピーカー構成に合わせてマルチチャンネルに拡張再生できるほか、フロントスピーカーのみの接

続など、拡張できるスピーカーがない場合も、仮想的にサラウンドチャンネルやハイトチャンネルの音声を創出して、拡張再生することができます。

- DTS信号入力時は、選択できません。

スピーカーレイアウトによって、以下のリスニングモードが表示されます。

-  DSurr 2.0/2.1：フロントスピーカーのみを設置している場合
-  DSurr 3.0/3.1：フロントスピーカーとセンタースピーカーを設置している場合
-  DSurr 4.0/4.1：フロントスピーカーとサラウンドスピーカーを設置している場合
-  DSurr 5.0/5.1：フロントスピーカー、センタースピーカー、サラウンドスピーカーを設置している場合
-  DSurr 6.0/6.1：フロントスピーカー、サラウンドスピーカー、サラウンドバックスピーカーを設置している場合
-  DSurr 7.0/7.1：フロントスピーカー、センタースピーカー、サラウンドスピーカー、サラウンドバックスピーカーを設置している場合
-  DSurr 2.0.2/2.1.2：フロントスピーカーとハイトスピーカーを設置している場合
-  DSurr 3.0.2/3.1.2：フロントスピーカー、センタースピーカー、ハイトスピーカーを設置している場合
-  DSurr：サラウンドスピーカーおよびハイトスピーカーを設置した「4.1.2 ch」、 「5.1.2 ch」のときに選択することができます。

- 「スピーカーバーチャライザー」(→p75)の設定が「オフ」(初期値はオン)の場合は、 DSurr以外は選択できません。

■ DTHD (Dolby Audio - TrueHD)

Dolby TrueHD 音声フォーマットで記録されたサウンドデザインを、忠実に再現するモードです。

Dolby TrueHD 音声フォーマットは、MLPとよばれるロスレス圧縮技術をベースとし拡張された「可逆型」の音声フォーマットで、スタジオで録音されたマスター音声の忠実な再現を可能としています。Dolby TrueHDはブルーレイディスクの音声フォーマットのオプションとして採用され、5.1チャンネルをベースに、サラウンドバックチャンネルなどを追加した最大7.1チャンネルで記録することが可能です。7.1チャンネルでは96 kHz/24 bit、5.1チャンネルでは192 kHz/24 bitで記録することができます。

- この音声フォーマットの伝送にはHDMIケーブルでの接続と、再生機側の音声出力がビットストリーム出力に設定されている必要があります。

■ Drama

放送局のスタジオから放映されているテレビ放送に適したモードです。すべてのサラウンド音声を強調して会話音声を明瞭にすることにより、局のスタジオにいるような臨場感が楽しめます。

■ DSD

DSDで収録されたソースの再生に適したモードです。

- 本機はHDMI入力端子からのDSD信号入力に対応していますが、接続するプレーヤーによっては、プレーヤー側の出力設定をPCM出力に設定した方がよい音声を得られる場合があります。
- ブルーレイディスク/DVDプレーヤー側の出力設定をDSDにしていない場合は、このリスニングモードは選べません。

■ DTS

DTS音声フォーマットで記録されたサウンドデザインを、忠実に再現するモードです。

DTS音声フォーマットは、DTS, Inc.により開発されたマルチチャンネルデジタルフォーマットです。DVD-Videoのオプションの音声フォーマットや、ブルーレイディスクの標準の音声フォーマットとして採用されており、フロントスピーカーとセンタースピーカーの3チャンネルとサラウンドスピーカーの2チャンネル、低音域専用のLFEチャンネル(サブウーファアの音声要素)の5.1チャンネルを、最大48 kHzのサンプリングレートと24 bitの解像度、1.5 Mbpsのビットレートの豊富な情報量で記録することができます。

- この音声フォーマットの伝送にはデジタルケーブルでの接続と、再生機側の音声出力がビットストリーム出力に設定されている必要があります。

■ DTS 96/24

DTS 96/24音声フォーマットで記録されたサウンドデザインを、忠実に再現するモードです。

DTS 96/24音声フォーマットは、DVD-Videoやブルーレイディスクのオプションの音声フォーマットとして採用されており、フロントスピーカーとセンタースピーカーの3チャンネルとサラウンドスピーカーの2チャンネル、低音域専用のLFEch(サブウーファアの音声要素)の5.1チャンネルを、96 kHzのサンプリングレートと24 bitの解像度を使ってきめ細やかな再現性を実現します。

- この音声フォーマットの伝送にはデジタルケーブルでの接続と、再生機側の音声出力がビットストリーム出力に設定されている必要があります。

■ DTS Express

DTS Express音声フォーマットで記録されたサウンドデザインを、忠実に再現するモードです。

DTS Expressは、ブルーレイディスクのオプションの音声フォーマットとして採用されており、5.1チャンネルをベースに、サラウンドバックチャンネルなどを追加した最大7.1チャンネルをロービットレートでサポートする音声フォーマットです。

- この音声フォーマットの伝送にはHDMIケーブルでの接続と、再生機側の音声出力がビットストリーム出力に設定されている必要があります。

■ DTS-HD HR (DTS-HD High Resolution)

DTS-HD High Resolution Audio音声フォーマットで記録されたサウンドデザインを、忠実に再現するモードです。

DTS-HD High Resolution Audio音声フォーマットは、ブルーレイディスクのオプションの音声フォーマットとして採用されており、5.1チャンネルをベースに、サラウンドバックチャンネルなどを追加した最大7.1チャンネルを、96 kHzのサンプリングレートと24 bitの解像度で記録することができます。

- この音声フォーマットの伝送にはHDMIケーブルでの接続と、再生機側の音声出力がビットストリーム出力に設定されている必要があります。

■ DTS-HD MSTR (DTS-HD Master Audio)

DTS-HD Master Audio音声フォーマットで記録されたサウンドデザインを、忠実に再現するモードです。

DTS-HD Master Audio音声フォーマットは、ブルーレイディスクのオプションの音声フォーマットとして採用されており、5.1チャンネルをベースに、サラウンドバックチャンネルなどを追加した最大7.1チャンネルを、ロスレス・オーディオ再生技術により記録することができます。7.1チャンネルでは96 kHz/24 bit、5.1チャンネルでは192 kHz/24 bitに対応しています。

- この音声フォーマットの伝送にはHDMIケーブルでの接続と、再生機側の音声出力がビットストリーム出力に設定されている必要があります。

■ DTS Neural:X

2チャンネルや5.1チャンネルの入力信号を5.1チャンネルや7.1チャンネルに拡張するなど、接続しているスピーカー構成に合わせてマルチチャンネルに拡張再生できるリスニングモードです。

- Dolby信号入力時は、選択できません。

■ DTS Virtual:X

DTS Virtual:X はDTS独自のオーディオ処理技術を使用し、ハイトスピーカを接続しなくても、上方からの音声を含めた広々とした3Dサウンドを創出するリスニングモードです。

フロントスピーカのみ接続など、どのようなスピーカレイアウトでも選択することができ、お気に入りの映画やテレビ番組をより臨場感あふれるオーディオ体験で楽しむことができます。

- Dolby信号入力時は、選択できません。また、ハイトスピーカを接続している場合は、選択できません。
- 「スピーカバーチャライザー」(→p75)の設定が「オフ」(初期値はオン)の場合は、選択できません。

■ DTS:X

DTS:X音声フォーマットで記録されたサウンドデザインを、忠実に再現するモードです。

DTS:X音声フォーマットは、従来のチャンネルベース(5.1チャンネル、7.1チャンネル)のミキシング方式と、オブジェクトベースのダイナミックなオーディオミキシングを組み合わせて、精密な音の定位や移動を表現できることが特徴です。

- この音声フォーマットの伝送にはHDMIケーブルでの接続と、再生機側の音声出力がビットストリーム出力に設定されている必要があります。

■ ES Discrete (DTS-ES Discrete)

DTS-ES Discrete音声フォーマットで記録されたサウンドデザインを、忠実に再現するモードです。

DTS-ES Discrete音声フォーマットは、DVD-Videoやブルーレイディスクのオプションの音声フォーマットとして採用されており、5.1チャンネルをベースに、モノラルのサラウンドバックチャンネルを追加した最大6.1チャンネルを記録することができます。

- この音声フォーマットの伝送にはデジタルケーブルでの接続と、再生機側の音声出力がビットストリーム出力に設定されている必要があります。

■ ES Matrix (DTS-ES Matrix)

DTS-ES Matrix音声フォーマットで記録されたサウンドデザインを、忠実に再現するモードです。

DTS-ES Matrixは、DVD-Videoやブルーレイディスクのオプションの音声フォーマットとして採用されており、5.1チャンネルをベースに、モノラルのサラウンドバックチャンネルをマトリクスエンコードにて挿入した音声フォーマットです。再生の際は、本機のマトリクスデコーダーによって、6.1チャンネルの再生を実現します。

- この音声フォーマットの伝送にはデジタルケーブルでの接続と、再生機側の音声出力がビットストリーム出力に設定されている必要があります。

■ Ent.Show (Entertainment Show)

ロック、ポピュラーなどに適したモードです。パワフルな音響イメージを再現した臨場感あふれるサウンドが楽しめます。

■ Ext.Mono (Extended Mono)

すべてのスピーカからモノラル音声で再生されるモードです。どの場所においても同じ音場イメージで音楽を聴くことができます。

■ Ext.Stereo (Extended Stereo)

BGMとして音楽を流すときに適したモードです。フロントだけでなくサラウンドからもステレオ音声を再生し、ステレオイメージを作ります。

■ F.S.Surround (Front Stage Surround)

サラウンドスピーカを設置しなくてもマルチチャンネルサラウンド再生しているようなバーチャル再生が楽しめるモードです。左右それぞれの耳に届く音声の特性を制御することによって効果を実現しています。

- 「スピーカバーチャライザー」(→p75)の設定が「オフ」(初期値はオン)の場合は、選択できません。

■ Mono

AnalogまたはPCM信号入力時に、センタースピーカからモノラル音声を再生します。センタースピーカがない場合は、フロントスピーカからモノラル音声を再生します。

■ PCM

マルチチャンネルPCMで収録されたソースの再生に適したモードです。

■ Stereo

左右フロントスピーカとサブウーファから音声が出力されるモードです。

■ Unplugged

アコースティックやボーカル、ジャズなどに適したモードです。フロントの音場イメージを重視することで、ステージの前で聴いているようなサウンドが楽しめます。

入力フォーマットと選択できるリスニングモードについて

入力する信号の音声フォーマットに応じて、さまざまなリスニングモードが選べるようになります。

- Stereoモードは、すべての音声フォーマットで選択できます。
- Pure Directモードでアナログ信号を入力している場合は、DSP (Digital Signal Processor) を経由せずに直接アンプに入力される Analog Directモードに切り換わります。
- ヘッドホン接続時に選べるリスニングモードは、Pure Direct、Stereoのみです。

■ 選べるリスニングモードの一覧

入力フォーマット	リスニングモード
Analog	Stereo
	Mono
	<input checked="" type="checkbox"/> DSur
	DTS Neural:X
	DTS Virtual:X ^{*1 *2}
	Classical ^{*3}
	Unplugged ^{*3}
	Ent.Show ^{*3}
	Drama ^{*3}
	Ext.Stereo ^{*4}
	Ext.Mono ^{*4}
F.S.Surround ^{*1}	

- ^{*1} 「スピーカーバーチャライザー」を「オフ」に設定している場合、選択できません。
- ^{*2} ハイトスピーカーを設置した場合、選択できません。
- ^{*3} サラウンドスピーカーまたはハイトスピーカーの設置が必要です。
- ^{*4} センタースピーカーまたはサラウンドスピーカーまたはハイトスピーカーの設置が必要です。

入力フォーマット	リスニングモード
PCM 音楽ファイル (DSD/Dolby TrueHDを除く)	Stereo
	Mono
	<input checked="" type="checkbox"/> DSur
	DTS Neural:X ^{*1}
	DTS Virtual:X ^{*2 *3}
	Classical ^{*4}
	Unplugged ^{*4}
	Ent.Show ^{*4}
	Drama ^{*4}
	Ext.Stereo ^{*5}
	Ext.Mono ^{*5}
F.S.Surround ^{*2}	

- ^{*1} 入力フォーマットのチャンネル数がモノラルの場合、選択できません。
- ^{*2} 「スピーカーバーチャライザー」を「オフ」に設定している場合、選択できません。
- ^{*3} ハイトスピーカーを設置した場合、選択できません。
- ^{*4} サラウンドスピーカーまたはハイトスピーカーの設置が必要です。
- ^{*5} センタースピーカーまたはサラウンドスピーカーまたはハイトスピーカーの設置が必要です。

□ **スピーカーレイアウトと選択できるリスニングモード**
(→ [p54](#))

入力フォーマット	リスニングモード
MPEG-2 AAC	Stereo
	AAC ^{*1 *2}
	<input checked="" type="checkbox"/> DSUR
	DTS Neural:X ^{*3}
	DTS Virtual:X ^{*4 *5}
	Classical ^{*6}
	Unplugged ^{*6}
	Ent.Show ^{*6}
	Drama ^{*6}
	Ext.Stereo ^{*7}
	Ext.Mono ^{*7}
F.S.Surround ^{*4}	

- ^{*1} 入力フォーマットのチャンネル数が2チャンネルの場合、選択できません。
^{*2} センタースピーカーまたはサラウンドスピーカーの設置が必要です。
^{*3} 入力フォーマットのチャンネル数がモノラルの場合、選択できません。
^{*4} 「スピーカーバーチャライザー」を「オフ」に設定している場合、選択できません。
^{*5} ハイトスピーカーを設置した場合、選択できません。
^{*6} サラウンドスピーカーまたはハイトスピーカーの設置が必要です。
^{*7} センタースピーカーまたはサラウンドスピーカーまたはハイトスピーカーの設置が必要です。

入力フォーマット	リスニングモード
Multich PCM	Stereo
	PCM ^{*1}
	<input checked="" type="checkbox"/> DSUR
	DTS Neural:X
	DTS Virtual:X ^{*2 *3}
	Classical ^{*4}
	Unplugged ^{*4}
	Ent.Show ^{*4}
	Drama ^{*4}
	Ext.Stereo ^{*5}
Ext.Mono ^{*5}	
F.S.Surround ^{*2}	

- ^{*1} センタースピーカーまたはサラウンドスピーカーの設置が必要です。
^{*2} 「スピーカーバーチャライザー」を「オフ」に設定している場合、選択できません。
^{*3} ハイトスピーカーを設置した場合、選択できません。
^{*4} サラウンドスピーカーまたはハイトスピーカーの設置が必要です。
^{*5} センタースピーカーまたはサラウンドスピーカーまたはハイトスピーカーの設置が必要です。

入力フォーマット	リスニングモード
DSD	Stereo
	DSD ^{*1 *2}
	<input checked="" type="checkbox"/> DSUR
	DTS Neural:X
	DTS Virtual:X ^{*3 *4}
	Classical ^{*5}
	Unplugged ^{*5}
	Ent.Show ^{*5}
	Drama ^{*5}
Ext.Stereo ^{*6}	
Ext.Mono ^{*6}	
F.S.Surround ^{*3}	

- ^{*1} 入力フォーマットのチャンネル数がモノラル、2チャンネルの場合、選択できません。
^{*2} センタースピーカーまたはサラウンドスピーカーの設置が必要です。
^{*3} 「スピーカーバーチャライザー」を「オフ」に設定している場合、選択できません。
^{*4} ハイトスピーカーを設置した場合、選択できません。
^{*5} サラウンドスピーカーまたはハイトスピーカーの設置が必要です。
^{*6} センタースピーカーまたはサラウンドスピーカーまたはハイトスピーカーの設置が必要です。

□ スピーカーレイアウトと選択できるリスニングモード
 (→ [p54](#))

入力フォーマット	リスニングモード
<input checked="" type="checkbox"/> Atmos ^{*1}	Stereo
	<input checked="" type="checkbox"/> Atmos
	Classical
	Unplugged
	Ent.Show
	Drama
	Ext.Stereo
	Ext.Mono
	F.S.Surround ^{*2}

- ^{*1} Atmos 2.0 などに対応する前のファームウェアバージョンでは、サラウンドバックスピーカーまたはハイトスピーカーを接続していない場合は、 DD+ または DTHD のリスニングモードが選択できます。
^{*2} 「スピーカーバーチャライザー」を「オフ」に設定している場合、選択できません。

入力フォーマット	リスニングモード
<input checked="" type="checkbox"/> DD	Stereo
	<input checked="" type="checkbox"/> DD ^{*1 *2}
	<input checked="" type="checkbox"/> DSur
	Classical ^{*3}
	Unplugged ^{*3}
	Ent.Show ^{*3}
	Drama ^{*3}
	Ext.Stereo ^{*4}
	Ext.Mono ^{*4}
F.S.Surround ^{*5}	

- ^{*1} 入力フォーマットのチャンネル数が2チャンネルの場合、選択できません。
^{*2} センタースピーカーまたはサラウンドスピーカーの設置が必要です。
^{*3} サラウンドスピーカーまたはハイトスピーカーの設置が必要です。
^{*4} センタースピーカーまたはサラウンドスピーカーまたはハイトスピーカーの設置が必要です。
^{*5} 「スピーカーバーチャライザー」を「オフ」に設定している場合、選択できません。

入力フォーマット	リスニングモード
<input checked="" type="checkbox"/> DD+	Stereo
	<input checked="" type="checkbox"/> DD+ ^{*1 *2 *3}
	<input checked="" type="checkbox"/> DSur
	Classical ^{*4}
	Unplugged ^{*4}
	Ent.Show ^{*4}
	Drama ^{*4}
	Ext.Stereo ^{*5}
	Ext.Mono ^{*5}
	F.S.Surround ^{*6}

- ^{*1} 入力フォーマットのチャンネル数が2チャンネルの場合、選択できません。
^{*2} センタースピーカーまたはサラウンドスピーカーの設置が必要です。
^{*3} 入力ソースがブルーレイディスクで、スピーカーレイアウトが5.1ch以下の場合は、 DD+ は選択できません。代わりに DD のリスニングモードが選択できます。
^{*4} サラウンドスピーカーまたはハイトスピーカーの設置が必要です。
^{*5} センタースピーカーまたはサラウンドスピーカーまたはハイトスピーカーの設置が必要です。
^{*6} 「スピーカーバーチャライザー」を「オフ」に設定している場合、選択できません。

入力フォーマット	リスニングモード
<input checked="" type="checkbox"/> DTHD	Stereo
	<input checked="" type="checkbox"/> DTHD ^{*1 *2}
	<input checked="" type="checkbox"/> DSur
	Classical ^{*3}
	Unplugged ^{*3}
	Ent.Show ^{*3}
	Drama ^{*3}
	Ext.Stereo ^{*4}
	Ext.Mono ^{*4}
	F.S.Surround ^{*5}

- ^{*1} 入力フォーマットのチャンネル数が2チャンネルの場合、選択できません。
^{*2} センタースピーカーまたはサラウンドスピーカーの設置が必要です。
^{*3} サラウンドスピーカーまたはハイトスピーカーの設置が必要です。
^{*4} センタースピーカーまたはサラウンドスピーカーまたはハイトスピーカーの設置が必要です。
^{*5} 「スピーカーバーチャライザー」を「オフ」に設定している場合、選択できません。

入力フォーマット	リスニングモード
DTS	Stereo
	DTS ^{*1 *2}
	DTS Neural:X ^{*3}
	DTS Virtual:X ^{*4 *5}
	Classical ^{*6}
	Unplugged ^{*6}
	Ent.Show ^{*6}
	Drama ^{*6}
	Ext.Stereo ^{*7}
	Ext.Mono ^{*7}
F.S.Surround ^{*4}	

- ^{*1} 入力フォーマットのチャンネル数が2チャンネルの場合、選択できません。
^{*2} センタースピーカーまたはサラウンドスピーカーの設置が必要です。
^{*3} 入力フォーマットのチャンネル数がモノラルの場合、選択できません。
^{*4} 「スピーカーバーチャライザー」を「オフ」に設定している場合、選択できません。
^{*5} ハイトスピーカーを設置した場合、選択できません。
^{*6} サラウンドスピーカーまたはハイトスピーカーの設置が必要です。
^{*7} センタースピーカーまたはサラウンドスピーカーまたはハイトスピーカーの設置が必要です。

□ スピーカーレイアウトと選択できるリスニングモード
(→ p54)

入力フォーマット	リスニングモード
DTS 96/24	Stereo
	DTS 96/24 ^{*1 *2}
	DTS Neural:X ^{*3}
	DTS Virtual:X ^{*4 *5}
	Classical ^{*6}
	Unplugged ^{*6}
	Ent.Show ^{*6}
	Drama ^{*6}
	Ext.Stereo ^{*7}
	Ext.Mono ^{*7}
F.S.Surround ^{*4}	

- ^{*1} 入力フォーマットのチャンネル数が2チャンネルの場合、選択できません。
^{*2} センタースピーカーまたはサラウンドスピーカーの設置が必要です。
^{*3} 入力フォーマットのチャンネル数がモノラルの場合、選択できません。
^{*4} 「スピーカーバーチャライザー」を「オフ」に設定している場合、選択できません。
^{*5} ハイトスピーカーを設置した場合、選択できません。
^{*6} サラウンドスピーカーまたはハイトスピーカーの設置が必要です。
^{*7} センタースピーカーまたはサラウンドスピーカーまたはハイトスピーカーの設置が必要です。

入力フォーマット	リスニングモード
DTS Express	Stereo
	DTS Express ^{*1 *2}
	DTS Neural:X ^{*3}
	DTS Virtual:X ^{*4 *5}
	Classical ^{*6}
	Unplugged ^{*6}
	Ent.Show ^{*6}
	Drama ^{*6}
	Ext.Stereo ^{*7}
Ext.Mono ^{*7}	
F.S.Surround ^{*4}	

- ^{*1} 入力フォーマットのチャンネル数が2チャンネルの場合、選択できません。
^{*2} センタースピーカーまたはサラウンドスピーカーの設置が必要です。
^{*3} 入力フォーマットのチャンネル数がモノラルの場合、選択できません。
^{*4} 「スピーカーバーチャライザー」を「オフ」に設定している場合、選択できません。
^{*5} ハイトスピーカーを設置した場合、選択できません。
^{*6} サラウンドスピーカーまたはハイトスピーカーの設置が必要です。
^{*7} センタースピーカーまたはサラウンドスピーカーまたはハイトスピーカーの設置が必要です。

入力フォーマット	リスニングモード
DTS-HD HR	Stereo
	DTS-HD HR ^{*1 *2}
	DTS Neural:X ^{*3}
	DTS Virtual:X ^{*4 *5}
	Classical ^{*6}
	Unplugged ^{*6}
	Ent.Show ^{*6}
	Drama ^{*6}
	Ext.Stereo ^{*7}
Ext.Mono ^{*7}	
F.S.Surround ^{*4}	

- ^{*1} 入力フォーマットのチャンネル数が2チャンネルの場合、選択できません。
^{*2} センタースピーカーまたはサラウンドスピーカーの設置が必要です。
^{*3} 入力フォーマットのチャンネル数がモノラルの場合、選択できません。
^{*4} 「スピーカーバーチャライザー」を「オフ」に設定している場合、選択できません。
^{*5} ハイトスピーカーを設置した場合、選択できません。
^{*6} サラウンドスピーカーまたはハイトスピーカーの設置が必要です。
^{*7} センタースピーカーまたはサラウンドスピーカーまたはハイトスピーカーの設置が必要です。

□ スピーカーレイアウトと選択できるリスニングモード (→ p54)

入力フォーマット	リスニングモード
DTS-HD MSTR	Stereo
	DTS-HD MSTR ^{*1 *2}
	DTS Neural:X ^{*3}
	DTS Virtual:X ^{*4 *5}
	Classical ^{*6}
	Unplugged ^{*6}
	Ent.Show ^{*6}
	Drama ^{*6}
	Ext.Stereo ^{*7}
	Ext.Mono ^{*7}
F.S.Surround ^{*4}	

- ^{*1} 入力フォーマットのチャンネル数が2チャンネルの場合、選択できません。
^{*2} センタースピーカーまたはサラウンドスピーカーの設置が必要です。
^{*3} 入力フォーマットのチャンネル数がモノラルの場合、選択できません。
^{*4} 「スピーカーバーチャライザー」を「オフ」に設定している場合、選択できません。
^{*5} ハイトスピーカーを設置した場合、選択できません。
^{*6} サラウンドスピーカーまたはハイトスピーカーの設置が必要です。
^{*7} センタースピーカーまたはサラウンドスピーカーまたはハイトスピーカーの設置が必要です。

入力フォーマット	リスニングモード
DTS-ES	Stereo
	DTS ^{*1}
	ES Matrix ^{*2}
	ES Discrete ^{*2}
	DTS Neural:X
	DTS Virtual:X ^{*3 *4}
	Classical ^{*5}
	Unplugged ^{*5}
	Ent.Show ^{*5}
	Drama ^{*5}
	Ext.Stereo ^{*6}
	Ext.Mono ^{*6}
	F.S.Surround ^{*3}

- ^{*1} サラウンドバックスピーカーを設置していないときのみ選択できます。
^{*2} サラウンドバックスピーカーの設置が必要です。
^{*3} 「スピーカーバーチャライザー」を「オフ」に設定している場合、選択できません。
^{*4} ハイトスピーカーを設置した場合、選択できません。
^{*5} サラウンドスピーカーまたはハイトスピーカーの設置が必要です。
^{*6} センタースピーカーまたはサラウンドスピーカーまたはハイトスピーカーの設置が必要です。

入力フォーマット	リスニングモード
DTS:X	Stereo
	DTS:X
	DTS Virtual:X ^{*1 *2}
	Classical ^{*3}
	Unplugged ^{*3}
	Ent.Show ^{*3}
	Drama ^{*3}
	Ext.Stereo ^{*4}
	Ext.Mono ^{*4}
F.S.Surround ^{*1}	

- ^{*1} 「スピーカーバーチャライザー」を「オフ」に設定している場合、選択できません。
^{*2} ハイトスピーカーを設置した場合、選択できません。
^{*3} サラウンドスピーカーまたはハイトスピーカーの設置が必要です。
^{*4} センタースピーカーまたはサラウンドスピーカーまたはハイトスピーカーの設置が必要です。

□ **スピーカーレイアウトと選択できるリスニングモード**
 (→ [p54](#))

Setupメニュー

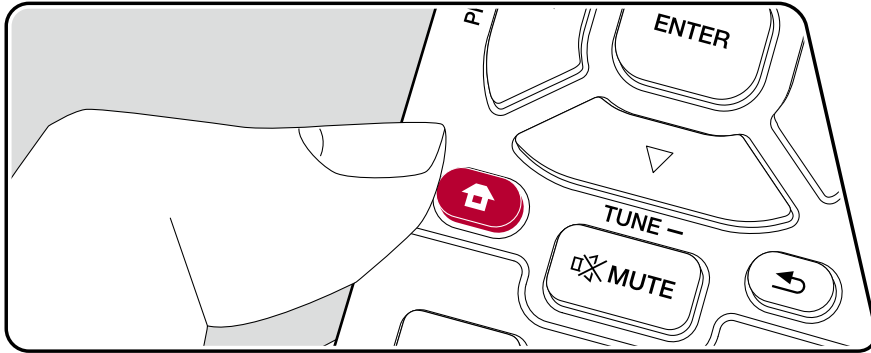
メニューリスト

本機をより深くお楽しみいただくための応用的な設定ができます。操作の説明については、「メニュー操作」(→[p68](#))を参照してください。

1. 入力/出力端子の割り当て	1. TV出力/OSD	テレビへの出力についての設定や、テレビに操作画面を表示する機能(OSD)についての設定が行えます。	p69
	2. HDMI入力	各入力切換に割り当てられている、HDMI IN端子の割り当て設定を変更することができます。	p69
	3. デジタル音声入力	各入力切換に割り当てられている、DIGITAL IN COAXIAL/OPTICAL端子の割り当て設定を変更することができます。	p70
	4. アナログ音声入力設定	各入力切換に割り当てられている、AUDIO IN端子の割り当て設定を変更することができます。	p70
	5. 入力スキップ	本機のINPUT SERECTORダイヤルやリモコンの入力切換ボタンを操作したときに、接続に使用していない入力をスキップすることができます。	p71
	6. PERSONAL PRESET 情報	PERSONAL PRESETの登録内容を確認することができます。	p71
2. スピーカー	1. 配置・構成	スピーカーの接続環境についての設定を変更することができます。	p72
	2. クロスオーバー	クロスオーバー周波数についての設定を変更することができます。	p73
	3. 距離	視聴位置から各スピーカーまでの距離を設定することができます。	p74
	4. チャンネルレベル	各スピーカーの音量レベルを調整することができます。	p74
	5. Dolby Enabled Speaker	Dolby Enabledスピーカーについての設定を変更することができます。	p75
	6. スピーカーバーチャライザー	スピーカーバーチャライザー機能のオン/オフを切り換えることができます。	p75
3. MCACC	1. フルオート MCACC	各スピーカーのテストトーンを測定し、最適な音量レベルやクロスオーバー周波数などを自動で設定することができます。	p75
	2. MCACCデータチェック	接続したスピーカーのチャンネル数や各スピーカーの設定項目の内容や設定値が確認できます。	p76

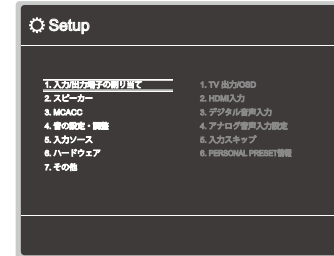
4. 音の設定・調整	1. デュアルモノ/モノ	多重音声の再生についての設定を変更することができます。	p77
	2. Dolby	Dolby信号入力時についての設定を変更することができます。	p77
	3. DTS	DTS信号入力時についての設定を変更することができます。	p77
	4. 音量	音量についての設定を変更することができます。	p78
5. 入力ソース	1. インプットボリューム アプソーバ	本機に接続された複数の機器で音量差がある場合の調整をすることができます。	p78
	2. 名前変更	各入力切換にわかりやすい名前を設定することができます。	p78
	3. 音声信号選択	1つの入力切換に複数の音声接続をしている場合に、優先する入力端子を選択することができます。	p79
6. ハードウェア	1. HDMI	HDMI機能に関する設定を変更することができます。	p80
	2. Bluetooth	Bluetooth機能に関する設定を変更することができます。	p81
	3. 電源管理	省電力機能に関する設定を変更することができます。	p82
7. その他	1. ファームウェアアップ デート	ファームウェアアップデートに関する設定を変更することができます。	p83
	2. 初期設定	初期設定をSetupメニューから行うことができます。	p83
	3. ロック	Setupメニューの設定を変更できないようにすることができます。	p83

メニュー操作



テレビに操作画面を表示するOSD (On-Screen Display) 機能を使用して、設定を行います。

リモコンの **🏠** ボタンを押して、Setupメニューを表示させます。



リモコンのカーソル▲/▼で内容を選び、ENTERボタンで決定します。

初期値を変更するには、カーソル◀/▶で操作します。

- ひとつ前の画面に戻るには **⏪** ボタンを押します。
- 設定を終了するときは、**🏠** ボタンを押します。

1. 入力/出力端子の割り当て

■ 1. TV 出力/OSD

テレビへの出力についての設定や、テレビに操作画面を表示する機能 (On-Screen Display) についての設定が行えます。

設定項目	初期値	設定内容
1080p -> 4K アップスケーリング	自動	4Kに対応したテレビをご使用の場合に、1080pで入力された映像信号を自動的に4Kで出力することができます。 「オフ」：この機能を使用しない場合 「自動」：この機能を使用する場合 ・ご使用のテレビが4Kに対応していない場合は、「オフ」にしてください。
スーパーレゾリューション	2	「1080p -> 4K アップスケーリング」を「自動」に設定している場合に入力された映像信号の補正の度合いを「オフ」、「1」(弱)～「3」(強)から選びます。
OSD 言語	日本語	テレビに表示する言語を以下から選びます。 英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、イタリア語、オランダ語、スウェーデン語、日本語
インポーズOSD	オン	音量調整や入力切替などの情報をテレビ画面に表示するかどうかを設定します。 「オン」：OSDをテレビに表示する 「オフ」：OSDをテレビに表示しない ・この設定を「オン」にしても、入力信号によってはOSDが表示されないことがあります。表示されない場合は、接続機器の解像度を変更してください。
スクリーンセーバー	3分	スクリーンセーバーの起動時間の設定です。 「3分」、「5分」、「10分」、「オフ」から選びます。

■ 2. HDMI入力

各入力切替に割り当てられている、HDMI IN端子の割り当て設定を変更することができます。

設定項目	初期値	設定内容
BD/DVD	HDMI 1	「HDMI 1」～「HDMI 4」：BD/DVD入力切替に任意のHDMI IN端子を割り当てます。割り当てない場合は、「---」を選びます。他の入力切替に設定されているHDMI IN端子を選ぶ場合は、該当する入力切替の設定を「---」に変更すると選べるようになります。
GAME	HDMI 2	「HDMI 1」～「HDMI 4」：GAME入力切替に任意のHDMI IN端子を割り当てます。割り当てない場合は、「---」を選びます。他の入力切替に設定されているHDMI IN端子を選ぶ場合は、該当する入力切替の設定を「---」に変更すると選べるようになります。
CBL/SAT	HDMI 3	「HDMI 1」～「HDMI 4」：CBL/SAT入力切替に任意のHDMI IN端子を割り当てます。割り当てない場合は、「---」を選びます。他の入力切替に設定されているHDMI IN端子を選ぶ場合は、該当する入力切替の設定を「---」に変更すると選べるようになります。
STRM BOX	HDMI 4	「HDMI 1」～「HDMI 4」：STRM BOX入力切替に任意のHDMI IN端子を割り当てます。割り当てない場合は、「---」を選びます。他の入力切替に設定されているHDMI IN端子を選ぶ場合は、該当する入力切替の設定を「---」に変更すると選べるようになります。

■ 3. デジタル音声入力

各入力切換に割り当てられている、DIGITAL IN COAXIAL/OPTICAL 端子の割り当て設定を変更することができます。割り当てない場合は、「---」を選びます。

設定項目	初期値	設定内容
BD/DVD	---	「COAXIAL (同軸入力)」、「OPTICAL (光入力)」：BD/DVD 入力切換に任意の DIGITAL IN 端子を割り当てます。
GAME	---	「COAXIAL (同軸入力)」、「OPTICAL (光入力)」：GAME 入力切換に任意の DIGITAL IN 端子を割り当てます。
CBL/SAT	---	「COAXIAL (同軸入力)」、「OPTICAL (光入力)」：CBL/SAT 入力切換に任意の DIGITAL IN 端子を割り当てます。
STRM BOX	---	「COAXIAL (同軸入力)」、「OPTICAL (光入力)」：STRM BOX 入力切換に任意の DIGITAL IN 端子を割り当てます。
CD	COAXIAL (同軸入力)	「COAXIAL (同軸入力)」、「OPTICAL (光入力)」：CD 入力切換に任意の DIGITAL IN 端子を割り当てます。
TV	OPTICAL (光入力)	「COAXIAL (同軸入力)」、「OPTICAL (光入力)」：TV 入力切換に任意の DIGITAL IN 端子を割り当てます。

- デジタル入力から入力される PCM 信号 (ステレオ/モノラル) のサンプリングレートは、32 kHz、44.1 kHz、48 kHz、88.2 kHz、96 kHz/16 bit、20 bit、24 bit です。

■ 4. アナログ音声入力設定

各入力切換に割り当てられている、AUDIO IN 端子の割り当て設定を変更することができます。割り当てない場合は、「---」を選びます。

設定項目	初期値	設定内容
BD/DVD	---	「オーディオ 1」～「オーディオ 3」：BD/DVD 入力切換に任意の AUDIO IN 端子を割り当てます。
GAME	---	「オーディオ 1」～「オーディオ 3」：GAME 入力切換に任意の AUDIO IN 端子を割り当てます。
CBL/SAT	オーディオ 3	「オーディオ 1」～「オーディオ 3」：CBL/SAT 入力切換に任意の AUDIO IN 端子を割り当てます。
STRM BOX	---	「オーディオ 1」～「オーディオ 3」：STRM BOX 入力切換に任意の AUDIO IN 端子を割り当てます。
AUX	---	「オーディオ 1」～「オーディオ 3」：AUX 入力切換に任意の AUDIO IN 端子を割り当てます。
CD	オーディオ 1	「オーディオ 1」～「オーディオ 3」：CD 入力切換に任意の AUDIO IN 端子を割り当てます。
TV	オーディオ 2	「オーディオ 1」～「オーディオ 3」：TV 入力切換に任意の AUDIO IN 端子を割り当てます。

■ 5. 入力スキップ

本機の INPUT SELECTOR ダイアルを操作したときに、接続に使用していない入力をスキップすることができます。

設定項目	初期値	設定内容
BD/DVD	使用する	BD/DVD入力切換をスキップするかどうかを設定します。この入力をスキップする場合は、「スキップ」を選んでください。
GAME	使用する	GAME入力切換をスキップするかどうかを設定します。この入力をスキップする場合は、「スキップ」を選んでください。
CBL/SAT	使用する	CBL/SAT入力切換をスキップするかどうかを設定します。この入力をスキップする場合は、「スキップ」を選んでください。
STRM BOX	使用する	STRM BOX入力切換をスキップするかどうかを設定します。この入力をスキップする場合は、「スキップ」を選んでください。
AUX	使用する	AUX入力切換をスキップするかどうかを設定します。この入力をスキップする場合は、「スキップ」を選んでください。
CD	使用する	CD入力切換をスキップするかどうかを設定します。この入力をスキップする場合は、「スキップ」を選んでください。
TV	使用する	TV入力切換をスキップするかどうかを設定します。この入力をスキップする場合は、「スキップ」を選んでください。
TUNER	使用する	TUNER入力切換をスキップするかどうかを設定します。この入力をスキップする場合は、「スキップ」を選んでください。
BLUETOOTH	使用する	BLUETOOTH入力切換をスキップするかどうかを設定します。この入力をスキップする場合は、「スキップ」を選んでください。

■ 6. PERSONAL PRESET情報

PERSONAL PRESET1～3ボタンで登録した内容を確認することができます。登録されている設定の一覧が表示されます。

設定項目	初期値	設定内容
プリセット	プリセット1	プリセット番号を「プリセット1」、「プリセット2」、「プリセット3」から選びます。
Input Selector	---	設定されている入力切換が表示されます。
バンド	---	設定されているバンド「AM」、「FM」が表示されます。
ステーション	---	設定されている放送局の名前が表示されます。
リスニングモード	---	設定されているリスニングモードが表示されます。
ボリューム	---	設定されている音量が表示されます。(上限は「-32dB」)
ゾーン	---	設定されている出力先(ゾーン)「A」、「B」、「A+B」が表示されます。

- 「バンド」、「ステーション」は入力切換が「TUNER」の場合にのみ表示されます。
- 「ステーション」の名前は「5. 入力ソース」-「名前変更」で付けた名前が表示されます。名前を付けていない場合は、放送局の周波数で表示されます。

2. スピーカー

■ 1. 配置・構成

スピーカーの接続環境についての設定を変更することができます。

設定項目	初期値	設定内容
スピーカーチャンネル	7.1 ch	接続しているスピーカーのチャンネル数に合わせて、「2.1 ch」、「3.1 ch」、「4.1 ch」、「5.1 ch」、「6.1 ch」、「7.1 ch」、「2.1.2 ch」、「3.1.2 ch」、「4.1.2 ch」、「5.1.2 ch」から選択してください。
サブウーファー	有り	サブウーファーの有無を設定します。 「有り」：サブウーファーを接続する場合 「無し」：サブウーファーを接続しない場合
ハイトスピーカー	トップミドル	SURROUND BACKまたはHEIGHT端子にハイトスピーカーを接続する場合、スピーカーのタイプを設定します。 接続するスピーカーのタイプや配置に合わせて「トップミドル」、「トップリア」、「リアハイ」、「Dolby Speaker フロント」、「Dolby Speaker サラウンド」、「フロントハイ」、「トップフロント」から選択してください。 • 正しく接続しているにもかかわらず項目を選択できないときは、「スピーカーチャンネル」の設定が接続しているチャンネル数と合っているか確認してください。
ゾーンBスピーカー	無し	ゾーンBのスピーカー端子の接続の有無を設定します。 「有り」：ゾーンBスピーカー端子にスピーカーを接続する場合 「無し」：ゾーンBのスピーカー端子にスピーカーを接続しない場合
ゾーンBアウトブットレベル	固定	ZONE Bに出力しているときに、音量を別室のプリメインアンプで調整するか、本機で調整するかを設定します。 「固定」：別室のプリメインアンプで調整する場合 「可変」：本機で調整する場合 • 「ゾーンBスピーカー」または「バイアンプ」の設定を「有り」にした場合、この設定は「可変」に固定されます。

設定項目	初期値	設定内容
バイアンプ	無し	フロントスピーカーをバイアンプ接続するかどうかを設定します。 「無し」：フロントスピーカーをバイアンプ接続しない場合 「有り」：フロントスピーカーをバイアンプ接続する場合 • 「ゾーンBスピーカー」の設定を「有り」にした場合、この設定は「無し」に固定されます。 • サラウンドバックスピーカーまたはハイトスピーカーを使用している場合は、この設定は選べません。
インピーダンス	6オーム以上	接続したスピーカーのインピーダンス(Ω)を設定します。 「4オーム」：接続したスピーカーの中に1台でも4Ω以上6Ω未満のスピーカーがある場合 「6オーム以上」：接続したスピーカーがすべて6Ω以上の場合 • インピーダンスは、ご使用になるスピーカーの背面や取扱説明書でご確認ください。

■ 2. クロスオーバー

クロスオーバー周波数についての設定を変更することができます。

設定項目	初期値	設定内容
フロント	スモール	各チャンネルの低域再生能力の大小によって設定します。 「スモール」：低域再生能力が十分ではない小型のスピーカーの場合 「ラージ」：低域再生能力のあるフルレンジスピーカーの場合 ・「配置・構成」-「サブウーファー」の設定を「無し」にした場合、「フロント」の設定は「ラージ」に固定され、他のチャンネルの低音域がフロントスピーカーから出力されます。ご使用のスピーカーの取扱説明書を参考に設定してください。
センター	スモール	各チャンネルの低域再生能力の大小によって設定します。 「スモール」：低域再生能力が十分ではない小型のスピーカーの場合 「ラージ」：低域再生能力のあるフルレンジスピーカーの場合 ・「フロント」が「スモール」に設定されている場合、この設定は「スモール」になります。 ・正しく接続しているにもかかわらず項目を選択できないときは、「配置・構成」-「スピーカーチャンネル」の設定が接続しているチャンネル数と合っているか確認してください。
ハイト	スモール	各チャンネルの低域再生能力の大小によって設定します。 「スモール」：低域再生能力が十分ではない小型のスピーカーの場合 「ラージ」：低域再生能力のあるフルレンジスピーカーの場合 ・「フロント」が「スモール」に設定されている場合、この設定は「スモール」になります。 ・正しく接続しているにもかかわらず項目を選択できないときは、「配置・構成」-「スピーカーチャンネル」の設定が接続しているチャンネル数と合っているか確認してください。

設定項目	初期値	設定内容
サラウンド	スモール	各チャンネルの低域再生能力の大小によって設定します。 「スモール」：低域再生能力が十分ではない小型のスピーカーの場合 「ラージ」：低域再生能力のあるフルレンジスピーカーの場合 ・「フロント」が「スモール」に設定されている場合、この設定は「スモール」になります。 ・正しく接続しているにもかかわらず項目を選択できないときは、「配置・構成」-「スピーカーチャンネル」の設定が接続しているチャンネル数と合っているか確認してください。
サラウンドバック	スモール	各チャンネルの低域再生能力の大小によって設定します。 「スモール」：低域再生能力が十分ではない小型のスピーカーの場合 「ラージ」：低域再生能力のあるフルレンジスピーカーの場合 ・「サラウンド」が「スモール」に設定されている場合、この設定は「スモール」になります。 ・正しく接続しているにもかかわらず項目を選択できないときは、「配置・構成」-「スピーカーチャンネル」の設定が接続しているチャンネル数と合っているか確認してください。
クロスオーバー	80Hz	「スモール」に設定されたスピーカーがあるとき、何Hz以下の低音域を他のスピーカーで再生するか、またLFE（低域効果音）信号の何Hz以下の低音域を再生するかを設定します。 設定できる各周波数は「50Hz」～「200Hz」です。
ダブルバス	オフ	「配置・構成」-「サブウーファー」の設定が「はい」で、「フロント」の設定が「ラージ」のときのみ選択できます。 左右フロントスピーカー、センタースピーカーの低音をサブウーファーに送り、低音の出力を強調します。 「オン」：低音の出力を強調する場合 「オフ」：低音の出力を強調しない場合 ・フルオートMCACCを行っても、この機能は自動で設定されません。

■ 3. 距離

視聴位置から各スピーカーまでの距離を設定することができます。

設定項目	初期値	設定内容
フロント左	3.00 m	各スピーカーと視聴位置の距離を設定します。
センター	3.00 m	各スピーカーと視聴位置の距離を設定します。
フロント右	3.00 m	各スピーカーと視聴位置の距離を設定します。
ハイト左	3.00 m	各スピーカーと視聴位置の距離を設定します。
ハイト右	3.00 m	各スピーカーと視聴位置の距離を設定します。
サラウンド右	3.00 m	各スピーカーと視聴位置の距離を設定します。
サラウンドバック右	3.00 m	各スピーカーと視聴位置の距離を設定します。
サラウンドバック左	3.00 m	各スピーカーと視聴位置の距離を設定します。
サラウンド左	3.00 m	各スピーカーと視聴位置の距離を設定します。
サブウーファー	3.00 m	各スピーカーと視聴位置の距離を設定します。

- 距離の単位は、リモコンのMODEボタンを押して切り換えることができます。単位をフィートで設定する場合は、0.1 ft ~ 30.0 ftの間で0.1 ft単位で設定可能です。単位をメートルで設定する場合は、0.03 m ~ 9.00 mの間で0.03 m単位で設定可能です。

■ 4. チャンネルレベル

各スピーカーの音量レベルを調整することができます。

設定項目	初期値	設定内容
フロント左	0.0 dB	「- 12.0 dB」~「+ 12.0 dB」から選びます (0.5 dB 単位)。数値を変えるたびにテスト音が出力されますので、お好みの音量レベルを選択してください。
センター	0.0 dB	「- 12.0 dB」~「+ 12.0 dB」から選びます (0.5 dB 単位)。数値を変えるたびにテスト音が出力されますので、お好みの音量レベルを選択してください。
フロント右	0.0 dB	「- 12.0 dB」~「+ 12.0 dB」から選びます (0.5 dB 単位)。数値を変えるたびにテスト音が出力されますので、お好みの音量レベルを選択してください。
ハイト左	0.0 dB	「- 12.0 dB」~「+ 12.0 dB」から選びます (0.5 dB 単位)。数値を変えるたびにテスト音が出力されますので、お好みの音量レベルを選択してください。
ハイト右	0.0 dB	「- 12.0 dB」~「+ 12.0 dB」から選びます (0.5 dB 単位)。数値を変えるたびにテスト音が出力されますので、お好みの音量レベルを選択してください。
サラウンド右	0.0 dB	「- 12.0 dB」~「+ 12.0 dB」から選びます (0.5 dB 単位)。数値を変えるたびにテスト音が出力されますので、お好みの音量レベルを選択してください。
サラウンドバック右	0.0 dB	「- 12.0 dB」~「+ 12.0 dB」から選びます (0.5 dB 単位)。数値を変えるたびにテスト音が出力されますので、お好みの音量レベルを選択してください。
サラウンドバック左	0.0 dB	「- 12.0 dB」~「+ 12.0 dB」から選びます (0.5 dB 単位)。数値を変えるたびにテスト音が出力されますので、お好みの音量レベルを選択してください。
サラウンド左	0.0 dB	「- 12.0 dB」~「+ 12.0 dB」から選びます (0.5 dB 単位)。数値を変えるたびにテスト音が出力されますので、お好みの音量レベルを選択してください。
サブウーファー	0.0 dB	「- 15.0 dB」~「+ 12.0 dB」から選びます (0.5 dB 単位)。数値を変えるたびにテスト音が出力されますので、お好みの音量レベルを選択してください。

■ 5. Dolby Enabled Speaker

Dolby Enabledスピーカーについての設定を変更することができます。

設定項目	初期値	設定内容
ドルビーイネーブルドスピーカーから天井の距離	1.80 m	Dolby Enabledスピーカーから天井までの距離を設定します。「0.1 ft/0.03 m」～「15.0 ft/4.50 m」から選びます(0.1 ft/0.03 m単位)。 <ul style="list-style-type: none"> 距離の単位(ft/m)は、「距離」の設定で使用している単位で表示されます。
Reflex Optimizer	オフ	Dolby Enabledスピーカーの天井からの反射効果を高めることができます。 「オフ」: この機能を使用しない場合 「オン」: この機能を使用する場合 <ul style="list-style-type: none"> リスニングモードがPure Directモードのときは、この機能は効果がありません。

- この設定は、「配置・構成」-「ハイトスピーカー」を「Dolby Speaker」に設定している場合に選択できます。

■ 6. スピーカーバーチャライザー

スピーカーバーチャライザー機能のオン/オフを切り換えることができます。

設定項目	初期値	設定内容
スピーカーバーチャライザー	オン	この設定を「オン」にすると、仮想スピーカーを設定することができます。 「オン」: この機能を使用する場合 「オフ」: この機能を使用しない場合 <ul style="list-style-type: none"> 「オフ」にすると、選択できないリスニングモードがあります。(→ p57)

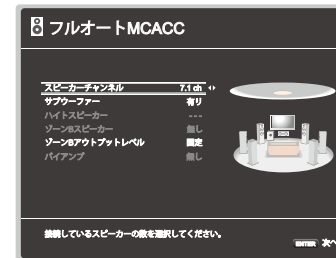
3. MCACC

■ 1. フルオートMCACC

付属の測定用マイクを視聴位置に設置して、各スピーカーから出力されるテストトーンを測定し、最適な音量レベルやクロスオーバー周波数、視聴位置からの距離を自動で設定します。また、スピーカーのイコライザー調整を自動で行い、部屋の環境による音のひずみを補正することができます。

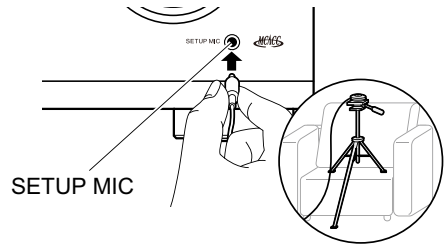
- 測定は完了するまでに3～12分ほどかかります。測定中は各スピーカーより大音量のテスト音が出力されますので、周囲への影響に十分ご注意ください。また、測定中はできるだけ部屋を静かにしてください。
- サブウーファーを接続している場合は、サブウーファーの電源や音量を確認してください。サブウーファーの音量は半分以上に設定してください。
- 本機の電源が突然切れるときは、スピーカーケーブルの芯線が後面パネルや他の芯線と接触して、保護回路が働いています。芯線をしっかりねじり直し、スピーカー端子からはみ出ないように接続してください。

1. 接続しているスピーカー構成を選びます。



「スピーカーチャンネル」では、チャンネル数を選ぶごとに画面の図が切り換わりますので参考にしてください。

2. 付属の測定用マイクを視聴位置に設置し、本体のSETUP MIC端子に接続します。



測定用マイクの設置で三脚などをご使用の場合は、イラストを参考に設置してください。

3. サブウーファーからテストトーンが出力されていることを確認し、ENTERを押します。
4. ENTERを押すと、各スピーカーからテストトーンが出力され、まずは、接続したスピーカーと周囲のノイズが自動で測定されます。
5. 4の測定結果が表示され、「次へ」を選びENTERを押すと、再度テストトーンが出力され、最適な音量レベルやクロスオーバー周波数などの設定が自動で行われます。
6. 測定が完了したら、測定結果が表示されます。リモコンのカーソル◀/▶で各設定が確認できます。「設定保存」を選びリモコンのENTERボタンを押すと、設定が保存されます。
7. 測定用マイクを取り外します。

■ 2. MCACC データチェック

接続したスピーカーのチャンネル数や各スピーカーの設定項目の内容や設定値が確認できます。

スピーカー設定：接続したスピーカーのチャンネル数や各スピーカーの低音再生能力の大小の設定を確認できます。

スピーカー出力レベル：各スピーカーの出力レベルの設定を確認できます。

スピーカー距離：視聴位置から各スピーカーまでの距離を確認できます。

4. 音の設定・調整

■ 1. デュアルモノ/モノ

多重音声の再生についての設定を変更することができます。

設定項目	初期値	設定内容
デュアルモノ	主	多重音声や多重言語の放送などを再生するときの音声や言語の種類を設定します。 「主」：主音声のみが再生されます。 「副」：副音声のみが再生されます。 「主/副」：主音声と副音声と同時に再生されます。 • 音声多重放送の場合、リモコンの i ボタンを押すと本機の表示部に「1 + 1」と表示されます。
モノラル入力チャンネル	左 + 右	2チャンネルで記録された Dolby Digital などのデジタル信号やアナログ / PCM 信号を Mono リスニングモードで再生する場合の入力チャンネルを設定します。 「左」：左チャンネルの音声のみを再生します。 「右」：右チャンネルの音声のみを再生します。 「左 + 右」：左右両チャンネルの音声を再生します。

■ 2. Dolby

Dolby 信号入力時についての設定を変更することができます。

設定項目	初期値	設定内容
Loudness Management	オン	Dolby TrueHD 再生時に、セリフの音量を一定レベルに揃えるダイアログノーマライゼーション機能を有効にします。なお、Dolby Digital Plus/Dolby TrueHD 再生時にこの設定をオフにすると、小音量でもサラウンドが楽しめる Midnight 機能はオフに固定されます。 「オン」：この機能を使用する場合 「オフ」：この機能を使用しない場合
Center Spread*	オフ	Dolby Audio - Surr リスニングモードを再生する際の、フロント音場の広がり进行调整します。 「オン」：左右に音を広げる場合 「オフ」：中央に音を集中させる場合 • スピーカーの設定によっては「オフ」になります。

* この機能は、ご購入後のファームウェアアップデートや、製品の生産途中からのファームウェアの切り替えによって選択することができなくなります。ファームウェアアップデートについての詳細は、「新機能の追加 (ファームウェアアップデート) について」(→p5) をご参照ください。

■ 3. DTS

DTS 信号入力時についての設定を変更することができます。

設定項目	初期値	設定内容
Dialog Control	0 dB	音声の会話部分を 1 dB ステップで 6 dB まで引き上げ、騒音下でも会話部分を聴こえやすくします。 • DTS:X コンテンツ以外では設定できません。 • コンテンツによっては選択できない場合もあります。

■ 4. 音量

音量についての設定を変更することができます。

設定項目	初期値	設定内容
ミュートレベル	-∞ dB	消音時の音量を、聴いている音よりどれだけ下げられるか設定しておくことができます。「-∞ dB」、「-40 dB」、「-20 dB」から設定できます。
音量制限	オフ	音量が大きくなり過ぎないように最大値を設定します。「オフ」、「-32 dB」～「+17 dB」から選びます。
電源オン時音量	最終値	電源を入れたときの音量を設定します。「最終値」(スタンバイ状態前の音量)、「-∞ dB」、「-81.5 dB」～「+18.0 dB」から選びます。 • この設定値は、「音量制限」の設定の値より高く設定できません。
ヘッドホン音量レベル	0.0 dB	ヘッドホンの出力レベルを調整します。「-12.0 dB」～「+12.0 dB」から選びます。

5. 入力ソース

■ 1. インプットボリュームアブソーバ

本機に接続された複数の機器で音量差がある場合の調整をすることができます。設定する場合は任意の入力切換を選んでください。

設定項目	初期値	設定内容
インプットボリュームアブソーバ	0.0 dB	「-12.0 dB」～「+12.0 dB」から選びます。他の機器と比べて音量が大きい場合は-の値を、小さい場合は+の値で調整します。音声を確認する場合は接続機器を再生してください。 • この機能は、ゾーンBでは機能しません。

■ 2. 名前変更

各入力切換にわかりやすい名前を設定することができます。入力した名前が本体表示部に表示されます。設定する場合は任意の入力切換を選んでください。

設定項目	初期値	設定内容
名前変更	入力切換名	<ol style="list-style-type: none"> カーソルで文字・記号を選び、ENTER ボタンを押します。 この操作をくり返して最大10文字まで入力します。 「A/a」：大文字／小文字が切り換わります。(リモコンのMODE ボタンを押しても大文字／小文字が切り換わります) 「←」「→」：矢印の方向にカーソルが移動します。 「☒」：カーソルの左側の文字を1文字消去します。 「Space」：1文字分スペースが入ります。 • リモコンのCLEAR ボタンを押すと、入力した文字をすべて消去します。 入力が終われば、カーソルで「OK」を選び、ENTER ボタンを押します。 入力した名前が保存されます。 初期値に戻すには、入力画面でリモコンのCLEAR ボタンを押し、何も入力されていない状態で「OK」を選び、ENTER ボタンを押します。

- プリセットされた放送局に名前をつける場合は、リモコンのTUNER ボタンを押してAM/FMを選び、プリセット番号を選びます。
- 「BLUETOOTH」の入力切換を選択時は、設定できません。

■ 音声信号選択

HDMI IN 端子の「BD/DVD」と AUDIO IN 端子の「BD/DVD」に接続しているなど、1つの入力切換に複数の音声接続をしている場合に、優先する入力端子を選択します。入力切換ごとに設定します。設定する場合は任意の入力切換を選んでください。なお、初期値が変更できないものもあります。

設定項目	初期値	設定内容
音声信号選択	BD/DVD : HDMI GAME : HDMI CBL/SAT : HDMI STRM BOX : HDMI AUX : --- CD : COAXIAL (同軸入力) TV : OPTICAL (光入力)	<p>「ARC」：ARC 対応テレビからの入力信号を優先する場合</p> <ul style="list-style-type: none"> この項目は、「6. ハードウェア」-「HDMI」-「Audio Return Channel」の設定を「オン」にして、かつ「TV」の入力切換を選択時にのみ選ぶことができます。 <p>「HDMI」：HDMI IN 端子の入力を優先する場合</p> <ul style="list-style-type: none"> この項目は、設定する入力切換が「1. 入力/出力端子の割り当て」-「HDMI 入力」の設定で HDMI 端子に割り当てられている場合にのみ選ぶことができます。 <p>「COAXIAL (同軸入力)」：DIGITAL IN COAXIAL 端子の入力を優先する場合</p> <ul style="list-style-type: none"> この項目は、設定する入力切換が「1. 入力/出力端子の割り当て」-「デジタル音声入力」の設定で COAXIAL 端子に割り当てられている場合にのみ選ぶことができます。 <p>「OPTICAL (光入力)」：DIGITAL IN OPTICAL 端子の入力を優先する場合</p> <ul style="list-style-type: none"> この項目は、設定する入力切換が「1. 入力/出力端子の割り当て」-「デジタル音声入力」の設定で OPTICAL 端子に割り当てられている場合にのみ選ぶことができます。 <p>「アナログ」：AUDIO IN 端子の入力を優先する場合</p> <ul style="list-style-type: none"> この項目は、設定する入力切換が「1. 入力/出力端子の割り当て」-「アナログ音声入力」の設定で AUDIO IN 端子に割り当てられている場合にのみ選ぶことができます。

設定項目	初期値	設定内容
PCM 固定	オフ	<p>「音声信号選択」の設定で「HDMI」、「COAXIAL (同軸入力)」、「OPTICAL (光入力)」を選んだ場合の入力信号を PCM (マルチチャンネル PCM は除く) に固定するかどうかを選択します。PCM 信号の再生中にノイズや曲間の頭切れが発生する場合は「オン」に設定してください。通常は「オフ」にしておいてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「音声信号選択」の設定を変更するたびにこの設定は「オフ」に戻ります。

- 「TUNER」、「BLUETOOTH」の入力切換を選択時は、この設定を変更できません。

6. ハードウェア

■ 1. HDMI

HDMI機能についての設定を変更することができます。

設定項目	初期値	設定内容
HDMI CEC	オフ	<p>この設定を「オン」にすると、HDMI接続したCEC対応機器と入力切替連動などの連動機能が働きます。</p> <p>「オン」：この機能を使用する場合 「オフ」：この機能を使用しない場合</p> <p>この設定を変更した場合、すべての接続機器の電源を切って電源を入れ直してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ご使用のテレビによっては、テレビ側でリンク設定などが必要です。 この設定を「オン」にして、操作画面を閉じると、本体表示部に接続されているCEC対応機器名称と「CEC On」が表示されます。 この設定を「オン」にすると、スタンバイ状態での消費電力が増加することがあります。(テレビの状態により、通常の待機時消費電力モードになります。) この設定が「オン」で、ご利用のテレビのスピーカーから音声を出力しているときに、本機のMASTER VOLUMEダイヤルを操作すると、本機に接続したスピーカーからも音声が出力されます。どちらか一方の音声のみ出力したい場合は、本機またはテレビの設定を変えるか、本機の音量を下げてください。 この設定を「オン」にして、異常な動作をする場合は「オフ」にしてください。 接続した機器がCECに対応していない場合や、対応しているかわからない場合は、「オフ」にしてください。

設定項目	初期値	設定内容
HDMIスタンバイスルー	オフ	<p>「オフ」以外に設定すると、本機がスタンバイ状態でも、HDMI接続している再生機器の映像と音声をテレビで再生することができます。なお、「HDMI CEC」が「オン」に設定されている場合は、「自動」および「自動(エコ)」のみ選択できます。その他を選択する場合は、「HDMI CEC」を「オフ」に設定してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「オフ」以外に設定すると、スタンバイ状態での消費電力が増加します。 <p>「BD/DVD」、「GAME」、「CBL/SAT」、「STRM BOX」：たとえば「BD/DVD」を選んでいると、本機がスタンバイ状態でも、「BD/DVD」端子に接続した再生機器をテレビで再生することができます。この機能を使用したい再生機器が決まっている場合に、この設定値を選択します。</p> <p>「最終値」：スタンバイにする直前に選んでいた入力切替の映像と音声をテレビで再生することができます。</p> <p>「自動」、「自動(エコ)」：接続した再生機器がCEC規格に準拠している場合は、この設定を選びます。スタンバイにする直前に選んでいた入力切替が何であっても、CEC連動機能により、再生機器の映像と音声をテレビで再生することができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> CEC規格に準拠していない再生機器をテレビで再生する場合は、本機の電源をオンにして入力を切り換える必要があります。 CEC規格に準拠したテレビをお使いの場合は、「自動(エコ)」を選ぶとスタンバイ状態での消費電力を低減できます。

設定項目	初期値	設定内容
テレビオーディオ出力	オフ	<p>本機の電源が入った状態で、テレビのスピーカーから音声を聴くことができます。</p> <p>「オン」：この機能を使用する場合 「オフ」：この機能を使用しない場合</p> <ul style="list-style-type: none"> 「テレビオーディオ出力」が「オン」に設定されている場合、テレビから音声が出ているときはリスニングモードを変更できません。 お使いのテレビや接続機器の入力信号によっては、この設定が「オン」でもテレビから音声がでないことがあります。その場合は、本機のスピーカーから音声が出ます。 本機に入力された音声をご利用のテレビのスピーカーから出力しているときに、本機のMASTER VOLUMEダイヤルを操作すると、本機から音声が出ます。音声を出したくない場合は、本機またはテレビの設定を変えるか、本機の音量を下げてください。
Audio Return Channel	オフ	<p>HDMI 接続したARC機能対応テレビの音声を、本機と接続したスピーカーで聴くことができます。</p> <p>「オン」：テレビの音声を本機のスピーカーで聴く場合 「オフ」：ARC機能を使用しない場合</p>
オートディレイ	オン	<p>HDMI リップシンク対応テレビからの情報に応じて映像と音声のズレを自動補正します。</p> <p>「オン」：自動補正機能を有効にする場合 「オフ」：自動補正機能を使用しない場合</p>

■ 2. Bluetooth

Bluetooth機能についての設定を変更することができます。

設定項目	初期値	設定内容
Bluetooth	オン	<p>BLUETOOTH機能の使用/不使用を設定します。</p> <p>「オン」：BLUETOOTH機能を使用して、BLUETOOTH対応機器との接続を有効にします。BLUETOOTHに関する各種設定を行う場合もこの設定を「オン」にしてください。 「オフ」：BLUETOOTH機能を使用しない場合</p>
自動入力切り換え	オン	<p>BLUETOOTH対応機器を本機に接続した状態で再生すると、本機の入力切換を自動的に「BLUETOOTH」に切り換えることができます。</p> <p>「オン」：BLUETOOTH対応機器の再生に対応して、入力切換を自動で「BLUETOOTH」にします。 「オフ」：この機能を無効にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自動的に入力切換が切り換わらない場合は、「オフ」に設定して、手動で入力切換を設定してください。
自動接続	オン	<p>入力切換を「BLUETOOTH」に切り換えると、自動的に最後に接続していたBLUETOOTH対応機器と接続する機能です。</p> <p>「オン」：この機能を使用する場合 「オフ」：この機能を使用しない場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ご使用のBLUETOOTH対応機器によっては、この機能が働かないことがあります。
ペアリング情報	-	<p>本機に保存されているペアリング情報を初期化することができます。</p> <p>「削除」が表示された状態でENTERボタンを押すと、本機に保存されているペアリング情報が初期化されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> BLUETOOTH対応機器側のペアリング情報は初期化されません。再度その機器と本機をペアリングする際は、BLUETOOTH対応機器側のペアリング情報を消去してから行ってください。ペアリング情報の消去については、BLUETOOTH対応機器の取扱説明書をご参照ください。

設定項目	初期値	設定内容
デバイス	-	接続されているBLUETOOTH対応機器の名前が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> 「ステータス」が「待機中」や「ペアリング」の場合は、名前は表示されません。
ステータス	-	接続されているBLUETOOTH対応機器の状態が表示されます。 「待機中」：ペアリングされていない 「ペアリング」：ペアリング中 「接続済み」：接続完了

- 「Bluetooth」が選択できない場合は、しばらくお待ちください。BLUETOOTH機能が起動すると選べるようになります。

■ 3. 電源管理

省電力機能についての設定を変更することができます。

設定項目	初期値	設定内容
スリープタイマー	オフ	指定した時間が経過したら、本機を自動的にスタンバイ状態にすることができます。「30分」、「60分」、「90分」から選びます。 「オフ」：自動的にスタンバイ状態にしない場合
自動スタンバイ	オフ	映像または音声入力がない状態で本機を20分間操作しなかった場合、自動的にスタンバイ状態に移行させることができます。（スタンバイ時のUSB電源供給）が有効になっているときは、消費電力の増加を最小限に抑制するHYBRID STANDBYモードに移行します。） 「オン」：自動的にスタンバイ状態に移行させる場合（「AUTO STBY」表示が点灯します。） 「オフ」：スタンバイ状態への移行をさせない場合 <ul style="list-style-type: none"> スタンバイ状態に移行する30秒前に本体表示部とテレビ画面に「自動スタンバイ」と表示されません。
HDMIスタンバイスルー時の自動スタンバイ	オフ	「HDMIスタンバイスルー」動作中に「自動スタンバイ」設定を有効または無効にします。 「オン」：有効にする場合 「オフ」：無効にする場合 <ul style="list-style-type: none"> 「自動スタンバイ」および「HDMIスタンバイスルー」の設定が「オフ」の場合、この設定は「オン」にできません。
スタンバイ時のUSB電源供給	オフ	この機能を「オン」に設定すると、本機がスタンバイ状態でも、POWER OUT端子に接続されたストリーミングメディアプレーヤーに給電することができます。 <ul style="list-style-type: none"> POWER OUT端子はスマートフォン/タブレットなどへの給電には対応しておりません。 この機能を使用中は、スタンバイ状態での消費電力が増加しますが、必要最小限の回路のみが作動するHYBRID STANDBYモードに自動で移行して、消費電力の増加を最小限に抑制します。

7. その他

■ 1. ファームウェアアップデート

ファームウェアアップデートについての設定を変更することができます。

設定項目	初期値	設定内容
バージョン	-	現在のファームウェアのバージョンを表示します。
USB経由のアップデート	-	USB経由でファームウェアを更新するときにENTERボタンを押して選択します。

■ 2. 初期設定

初期設定を Setupメニューから行うことができます。

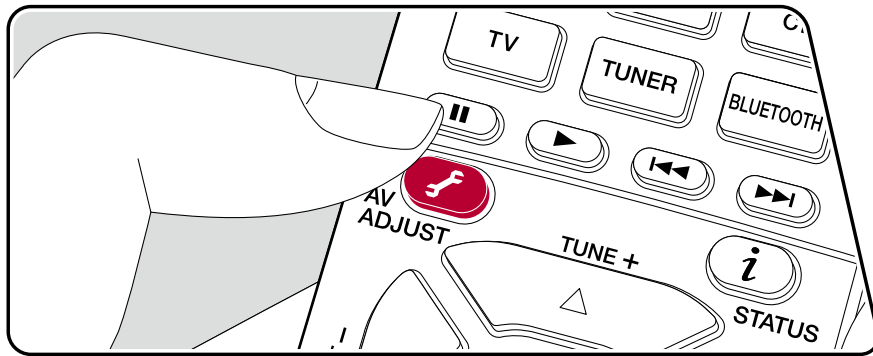
■ 3. ロック

Setupメニューの設定を変更できないようにすることができます。


設定項目	初期値	設定内容
セットアップ項目	解除	Setupメニューをロックして、設定を変更できないようにします。 「ロック」：ロックを設定 「解除」：ロックを解除

AV Adjust

メニュー操作





音質の調整など、よく利用する設定を素早く設定することができます。

再生しながらテレビの画面で設定が可能です。リモコンの  ボタンを押して、AV Adjustのメニューを表示させます。



リモコンのカーソル▲/▼で内容を選び、ENTERボタンで決定します。設定を変更するには、カーソルで操作します。

- ひとつ前の画面に戻るには  ボタンを押します。
- 設定を終了するときは、 ボタンを押します。

■ HDMI

サウンドディレイ：映像が音声より遅れている場合、音声を遅らせて映像と音声のずれを調整できます。各入力切換に個別に設定することができます。

- リスニングモードがPure Directモードでアナログ信号を入力しているときは設定できません。

Audio Return Channel：HDMI接続したARC機能対応テレビの音声を、本機と接続したスピーカーで聴くことができます。テレビの音声を本機のスピーカーで聴く場合は「オン」を選び、ARC機能を使用しない場合は「オフ」を選んでください。

■ オーディオ

サウンドレトリバー：圧縮された音声をより良い音質にします。MP3などの非可逆圧縮ファイルの再生時に効果があります。この設定は、各入力切換ごとに行えます。サンプリング周波数が48 kHz以下の信号に働きます。ビットストリーム信

号は効果がありません。

- リスニングモードがDirectまたはPure Directモードのときは、設定できません。

Midnight：小さな音でも細かな音が聴こえやすくなる機能です。夜中などに音量を絞って映画を鑑賞するときに便利です。Dolby系、DTS系の入力信号再生時のみに効果があります。

- リスニングモードがDirectまたはPure Directモードのときは、設定できません。
- 以下の場合、この機能を使用することはできません。
 - 「Loudness Management」を「オフ」に設定し、Dolby Digital Plus、Dolby TrueHDを再生している場合
 - 入力信号がDTS:Xで、「Dialog Control」が0 dB以外の場合
- 調整した内容は、本機をスタンバイ状態にすると設定前の内容に戻ります。

■ MCACC

MCACC EQ：部屋の環境による音のひずみを補正するイコライザー機能を有効/無効に切り換えます。

- リスニングモードがPure Directモードのときは、設定できません。

フェイズコントロール：低域の位相乱れを補正して低音を増強します。原音に忠実な力強い低音域再生を実現します。

- リスニングモードがPure Directモードのときは、設定できません。

シアターフィルター：高音域が強調されたサウンドトラックをホームシアター用に補正します。

- リスニングモードがDirectまたはPure Directモードのときは、設定できません。

■ レベル

フロント：音声を聴きながら、フロントスピーカーのスピーカーレベルを調整します。

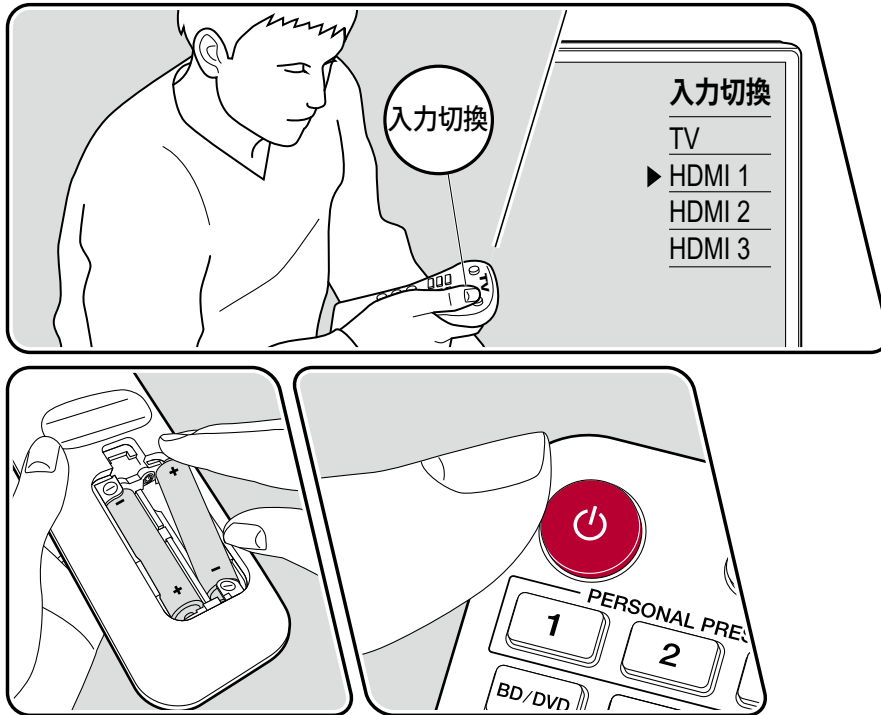
センター：音声を聴きながら、センタースピーカーのスピーカーレベルを調整します。

サブウーファー：音声を聴きながら、サブウーファーのスピーカーレベルを調整します。






- 調整した内容は、本機をスタンバイ状態にすると設定前の内容に戻ります。

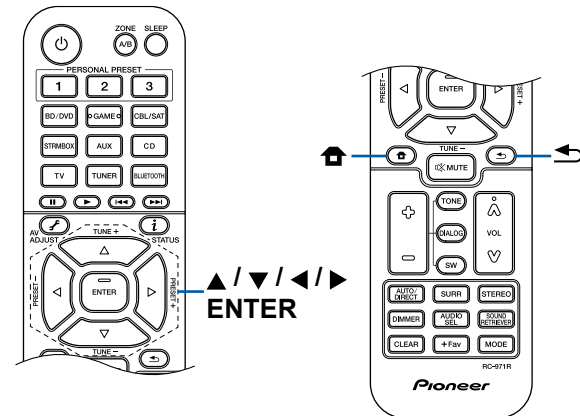
設定ウィザードでの初期設定

初期設定を始める



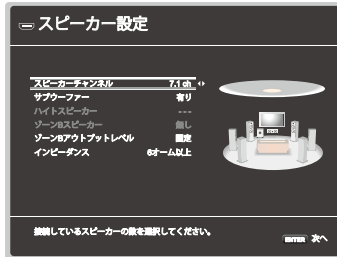
お買い上げ後、初めて電源を入れると、初期設定の画面が自動でテレビに表示され、ガイダンスに沿ってスタートアップに必要な項目を簡単な操作で設定することができます。

1. テレビのリモコンを使用してテレビの入力を本機と接続した入力に切り換えてください。
2. 本機のリモコンに電池を入れます。
3. 本機のリモコンの  を押して電源をオンにします。
4. テレビに言語選択の画面が表示されたら、カーソル  /  で選択し、ENTER を押します。
 - 操作はリモコンのカーソルで項目を選び、ENTER で決定します。ひとつ前の画面に戻るには  を押します。
 - 初期設定を途中で終了してしまった場合は、本機の電源をスタンバイにして、もう一度電源をオンにすると初期設定を再度表示することができます。初期設定は設定を最後まで行うか、はじめの画面で「今後表示しない」を選択しない限り、電源をオンにするたびに画面に表示されます。
 - 初期設定の設定完了後、再度行いたい場合は、 を押し、「7. その他」-「初期設定」を選んでENTERを押してください。



■ 1. スピーカー設定

1. 接続しているスピーカー構成を選び、ENTERを押します。
「スピーカーチャンネル」では、チャンネル数を選ぶごとに画面の図が切り換わりますので参考にしてください。



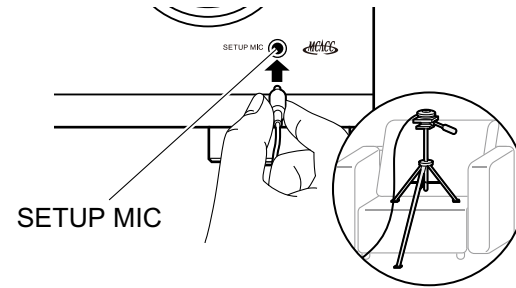
2. 1で選択したスピーカーの組み合わせが表示されます。選択したスピーカーには「Yes」が表示されています。間違いがなければENTERを押してください。
3. 「次へ」を選びENTERを押すと、各スピーカーから接続確認のためのテストトーンが出力されます。カーソル▲/▼で各スピーカーを選択すると、テストトーンが出力されます。確認が終わったら、ENTERを押します。
4. スピーカー接続に問題がなければ、「次へ」を選びENTERを押します。「スピーカー設定」にもどる場合は、「スピーカー設定に戻る」を選びENTERを押します。

■ 2. フルオート MCACC

付属の測定用マイクを視聴位置に設置して、各スピーカーから出力されるテストトーンを測定し、最適な音量レベルやクロスオーバー周波数、視聴位置からの距離を自動で設定します。また、スピーカーのイコライザー調整を自動で行い、部屋の環境による音のひずみを補正することができます。

- 測定は完了するまでに3～12分ほどかかります。測定中は各スピーカーより大音量のテスト音が出力されますので、周囲への影響に充分ご注意ください。また、測定中はできるだけ部屋を静かにしてください。
- サブウーファーを接続している場合は、サブウーファーの電源や音量を確認してください。サブウーファーの音量は半分以上に設定してください。
- 本機の電源が突然切れるときは、スピーカーケーブルの芯線が後面パネルや他の芯線と接触して、保護回路が働いています。芯線をしっかりねじり直し、スピーカー端子からはみ出ないように接続してください。

1. 付属の測定用マイクを視聴位置に設置し、本体のSETUP MIC端子に接続します。



測定用マイクの設置で三脚などをご使用の場合は、イラストを参考に設置してください。

2. サブウーファーからテストトーンが出力されていることを確認し、ENTERを押します。
3. ENTERを押すと、各スピーカーからテストトーンが出力され、まずは、接続したスピーカーと周囲のノイズが自動で測定されます。
4. 3の測定結果が表示されます。「次へ」を選びENTERを押すと、再度テストトーンが出力され、最適な音量レベルやクロスオーバー周波数などの設定が自動で行われます。
5. 測定が完了したら、測定結果が表示されます。カーソル◀/▶で各設定が確認できます。「設定保存」を選びENTERを押すと、設定が保存されます。
6. 測定用マイクを取り外します。

■ 3. ARC 設定

ARC機能に対応したテレビと接続する場合は、「はい」を選んでください。本機のARC設定がオンになり、テレビの音声を本機で楽しむことができます。

- 「はい」を選ぶとHDMI CEC機能がオンになり、スタンバイ時の消費電力が増加します。

困ったときは

はじめにお読みください

トラブルは接続や設定、操作方法を見直す以外にも、電源のオン/オフ、電源コードの抜き差しで改善することがあります。本機や接続している機器の両方でお試してください。また、映像や音が出ない、HDMI連動ができないなどの場合、接続しているHDMIケーブルの抜き差しを行うと改善することもあります。差し直す際は、HDMIケーブルが巻かれていると接触が悪くなりますので、なるべく巻かずに差し直してください。差し直したあとは、本機と接続している機器の電源を一度オフにし、再度電源を入れ直してください。

- 本機はマイクロコンピュータにより高度な機能を実現していますが、ごくまれに外部からの雑音や妨害ノイズ、また静電気の影響によって誤動作する場合があります。そのようなときは、電源プラグを抜いて、約5秒後にあらためて電源プラグを差し込んでください。
- 製品の故障により正常に録音・録画できなかったことによって生じた損害（CDレンタル料等）については補償対象になりません。大事な録音をするときは、あらかじめ正しく録音・録画できることを確認の上、録音・録画を行ってください。

動作が不安定なときは 89

再起動をお試しください 89

本機のリセット（設定内容は初期化されます） 89

故障かなと思ったら 90

■ 電源 90

■ 音声 90

■ リスニングモード 92

■ 映像 93

■ 連動動作 93

■ AM/FM放送に関して 94

■ BLUETOOTH機能 94

■ ゾーンB機能 95


■ リモコン 95

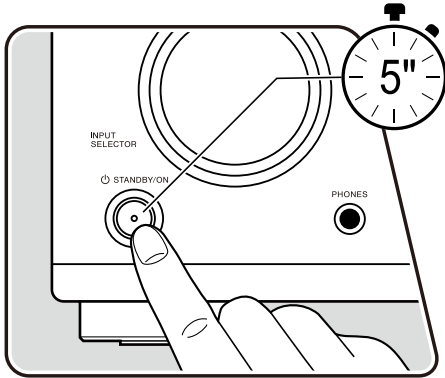
■ 表示部 95

■ その他 95

動作が不安定なときは


□ 再起動をお試しください

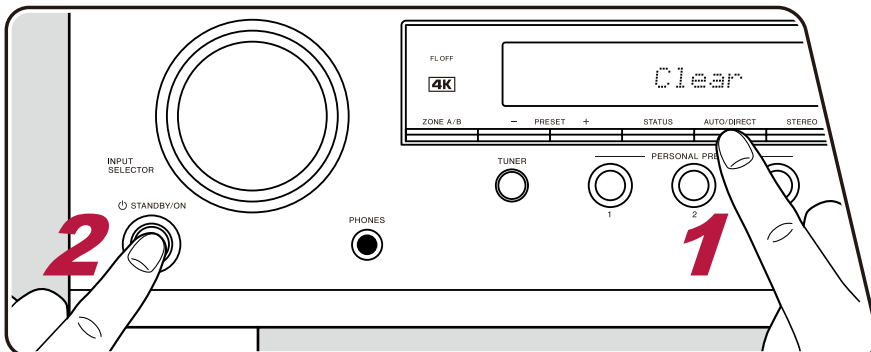
本機を再起動すると改善することがあります。本機の電源をスタンバイにしたあとで、本体の  STANDBY/ON ボタンを5秒以上押し続けて、本機を再起動してください。(本機の設定内容は保持されます。)再起動しても改善しない場合は、本機や接続機器の電源コードやHDMIケーブルの抜き差しをお試しください。



□ 本機のリセット (設定内容は初期化されます)

再起動で改善しない場合は、本機をリセットして、すべての設定をお買い上げ時の状態に戻すことで、トラブルが解消されることがあります。リセットを行うと、お客様の設定内容が初期値に戻りますので、以下の操作をする前に、設定内容をメモなどに記録してください。

1. 本機の電源がオンの状態で本体のAUTO/DIRECT ボタンを押しながら、 STANDBY/ON ボタンを押します。
2. 表示部に「Clear」が表示されてスタンバイ状態に戻ります。表示部から「Clear」が消えるまで、絶対に電源コードを抜かないでください。



故障かなと思ったら

■ 電源

□ 電源を入れると本体表示部に「AMP Diag Mode」が表示される

- 保護回路機能が作動した可能性があります。急に電源がスタンバイ状態になり、再度電源を入れたときに本体表示部に「AMP Diag Mode」が表示される場合は、本体の故障やスピーカーケーブルの接続に異常がないかを診断しています。診断が終了すると、次のメッセージが表示されます。

CH SP WIRE	表示部に「CH SP WIRE」が表示されたあと、通常のオン状態に戻った場合は、スピーカーケーブルがショートしている可能性があります。本機の電源をスタンバイにしたうえで、スピーカーケーブルの接続を再度行ってください。スピーカーケーブルの先端の芯線はしっかりよじるなどして、芯線がスピーカー端子からはみ出さないようにしてください。
NG：*****	表示部に「NG」が表示された状態で動作を停止した場合は、すぐに本機の電源をスタンバイにしたうえで、電源プラグをコンセントから抜いてください。故障の可能性がありますので、販売店にお問い合わせください。

□ 本機の電源が切れる場合

- Setupメニューの「6. ハードウェア」-「電源管理」-「自動スタンバイ」が作動すると、自動でスタンバイ状態になります。 (→p82)
- 本機の温度が異常に上昇して保護回路機能が作動した可能性があります。この場合、電源を入れ直してもまた電源が切れる状態がくり返されます。本機の周りに十分な換気スペースを確保して、本機の温度が下がるまでしばらく待ってから電源を入れ直してください。

警告：煙が出ている、変なにおいがする、異様な音がするなど、少しでも異常を感じたら、すぐに電源プラグをコンセントから抜き、販売店または弊社の修理窓口にご連絡ください。

■ 音声

- 測定用マイクを接続したままになっていないことを確認してください。
- 接続した機器の出力端子と、本機の入力端子が正しく接続されているか確認ください。
- 接続ケーブルが、折れ曲がったり、ねじれたり、破損したりしていないことを確認してください。
- 表示部の ㊦ 表示が点滅している場合、リモコンの ㊦ ボタンを押して消音を解除してください。
- ヘッドホンを PHONES 端子に接続しているときは、スピーカーから音は出ません。
- Setupメニューの「5. 入力ソース」-「音声信号選択」-「PCM固定」がオンになっている場合、PCM信号以外の入力では音声が再生されません。設定をオフに変更してください。

以上を確認しても改善されない場合、以下を確認してください。

□ テレビの音が出ない

- 本機の入力切換を、テレビと接続した端子のポジションに切り換える必要があります。
- テレビがARC機能に対応していない場合は、HDMIケーブルの接続に加えて、光デジタルケーブルまたはオーディオ用ピンケーブルでテレビと本機を接続してください。 (→p32)

□ 接続した再生機器の音が出ない

- 本機の入力切換を、再生機器と接続した端子のポジションに切り換える必要があります。
- 接続した機器でのデジタル音声出力の設定を確認してください。DVD 対応のゲーム機など、機器によっては初期設定がオフになっていることがあります。
- 一部の DVD-Video ディスクでは、メニューから音声出力形式を選ぶ必要があります。

□ 特定のスピーカーから音が出ない

- スピーカーコードの+/-は正しく接続されているか、むき出しの芯線部分がスピーカー端子の金属部分と接触していないか確認してください。 (→ [p22](#))
- スピーカーコードがショートしていないことを確認してください。
- スピーカーの接続が正しく行われているか、「スピーカーケーブルを接続する」(→ [p22](#))をご確認ください。スピーカーの接続環境については、初期設定の「スピーカー設定」で設定が必要です。「設定ウィザードでの初期設定」(→ [p86](#))をご確認ください。
- 入力信号やリスニングモードによっては、音が出にくい場合があります。他のリスニングモードを選択して、音が出るかご確認ください。
- サラウンドバックスピーカーを設置する場合、サラウンドスピーカーの設置は必須です。
- バイアンプ接続の場合、最大5.1チャンネルの再生になります。また、バイアンプ接続では、スピーカー側のショートバーは必ず外してください。

□ サブウーファーから音が出ない

フロントスピーカーの設定が「ラージ」になっていると、テレビや音楽などの2チャンネル音声入力時に、低域成分がサブウーファーから出力されず、フロントスピーカーから出力されます。サブウーファーから出力する場合は、以下のいずれかの設定を行ってください。

1. フロントスピーカーの設定を「スモール」に変更する
低域成分がフロントスピーカーから出力されず、サブウーファーから出力されます。フロントスピーカーの低域再生能力が高い場合は、変更しないことをお勧めします。
 2. 「ダブルバス」を「オン」に変更する
フロントスピーカーの低域成分がフロントスピーカーとサブウーファーの両方から出力されます。そのため低音が出過ぎる場合があります。その場合は変更しない、または1の方法で設定することをお勧めします。
- 設定の詳細については、Setup メニューの「2. スピーカー」-「クロスオーバー」をご覧ください。 (→ [p73](#))
 - 入力信号にサブウーファー音声要素 (LFE) が入っていない場合、サブウーファーから音が出ないことがあります。

□ ノイズが聴こえる

- コード留めを使ってオーディオ用ピンケーブル、電源コード、スピーカーコードなどを束ねると音質が劣化するおそれがあります。コードを束ねないようにしてください。
- オーディオケーブルが雑音を拾っている可能性があります。ケーブルの位置を変えてみてください。

□ HDMI に入力した音声の冒頭部分が聴こえない

- HDMI 信号は、ほかの音声信号に比べて認識するのに時間がかかるため、音声がすぐに出力されない場合があります。

□ 音が急に小さくなった

- 本機の内部温度が一定の温度を超えた状態で長時間お使いになると、回路保護のために自動で音量を絞る場合があります。

■ リスニングモード

- Dolby Digital などのデジタルサラウンド再生を楽しむためには、音声信号は HDMI ケーブルまたは同軸デジタルケーブルまたは光デジタルケーブルでの接続が必要です。また、接続したブルーレイディスクプレーヤーなどの音声出力がビットストリーム出力に設定されている必要があります。
- リモコンの **i** ボタンをくり返し押しすと、本体表示部が切り換わり、入力フォーマットを確認することができます。

以上を確認しても改善されない場合、以下を確認してください。

□ 希望するリスニングモードが選べない

- スピーカーの接続状況によっては選べないリスニングモードがあります。「リスニングモード」の「スピーカーレイアウトと選択できるリスニングモードについて」(→ [p54](#)) または「入力フォーマットと選択できるリスニングモードについて」(→ [p61](#)) をご確認ください。

□ Dolby TrueHD、Dolby Atmos、DTS-HD Master Audio フォーマットで聴くことができない

- Dolby TrueHD や Dolby Atmos、DTS-HD Master Audio などの音声が生源どおりのフォーマットで出力されない場合、接続したブルーレイディスクプレーヤーなどの設定で、「BD ビデオ副音声」(または再エンコード、セカンダリ音声、ビデオ付加音声など) 機能を「切」にしてお試しください。設定を変更したあとは、各ソース用のリスニングモードに切り換えてご確認ください。

□ DTS 信号について

- DTS 信号から急に PCM 信号に切り換わるタイプのソフトは、PCM がすぐに再生されない場合があります。このときは再生機側で再生を約 3 秒以上中断し、再び再生を行うと正常に再生されます。
- 一部の CD または LD プレーヤーでは、本機とデジタル接続をしても正しく DTS 再生ができない場合があります。出力されている DTS 信号に何らかの処理 (出力レベル調整、サンプリング周波数変換、周波数特性変換など) が行われていると、本機が正しい DTS 信号とみなすことができず、ノイズが発生することがあります。
- DTS 対応ディスクを再生しているときにプレーヤー側で一時停止やスキップなどの操作をすると、ごく短時間ノイズが発生する場合がありますが、これは故障ではありません。

■ 映像

- 接続した機器の出力端子と、本機の入力端子が正しく接続されているか確認ください。
 - 接続ケーブルが、折れ曲がったり、ねじれたり、破損したりしていないことを確認してください。
 - テレビの映像が乱れる場合は、本機の電源コードや接続ケーブルが干渉している場合があります。テレビのアンテナ線と本機のケーブル類を離してお試しください。
 - テレビなど、モニター側での入力画面の切り換えを確認してください。
- 以上を確認しても改善されない場合、以下を確認してください。

□ 映像が出ない

- 本機の入力切換を、再生機器と接続した端子のポジションに切り換える必要があります。


□ HDMI入力端子に接続した機器の映像が出ない

- 本機の電源がスタンバイ状態の場合、接続した再生機器の映像をテレビに映し出すには Setup メニューの「6. ハードウェア」-「HDMI」-「HDMI スタンバイスルー」を有効にする必要があります。なお、HDMI スタンバイスルーの機能については Setup メニューの「6. ハードウェア」-「HDMI」をご確認ください。 (→ [p80](#))
- HDMI入力端子から入力した映像が出ないとき、本機の表示部に「Resolution Error」と表示されていませんか？この場合テレビが、プレーヤーから入力した映像の解像度に対応していません。プレーヤー側で設定を変更してください。
- HDMI-DVIアダプターを使っている場合は、正常な動作は保証されません。また、PCから出力される映像信号についても保証されません。

□ 映像がちらつく

- テレビの対応解像度が再生機器の出力解像度に適合していない可能性があります。再生機器と本機をHDMI接続している場合は、再生機器側の出力解像度を変更してお試しください。また、テレビの画面モードを変更すると、改善される場合があります。

□ 映像と音声にずれがある

- お使いのテレビの設定や接続環境などによっては、映像が音声より遅れて表示されることがあります。リモコンの  ボタンを押して表示される「AV Adjust」の「HDMI」-「サウンドディレイ」で調整してください。 (→ [p84](#))

■ 連動動作

□ テレビなどのCEC対応機器とのHDMI連動動作が働かない

- 本機の Setup メニューの「6. ハードウェア」-「HDMI」-「HDMI CEC」の設定を「オン」にする必要があります。 (→ [p80](#))
- CEC対応機器側もHDMI連動の設定が必要です。取扱説明書でご確認ください。
- シャープ製のプレーヤーやレコーダーをHDMI IN端子に接続する場合は、Setupメニューの「6. ハードウェア」-「HDMI」-「HDMI スタンバイスルー」を「自動」に設定してください。

■ AM/FM 放送に関して

□ 放送が受信しづらい、ノイズが多い

- アンテナの接続をもう一度確認してください。
- アンテナをスピーカーコードや電源コードから離してください。
- テレビやコンピューターから離してください。
- 近くに自動車が走っていたり飛行機が飛んでいると雑音が入ることがあります。
- 電波がコンクリートの壁等で遮断されていると放送が受信しにくくなります。
- モノラル受信 (→ p42) に変更してみてください。
- AM 受信時、リモコンを操作すると雑音が入る場合があります。
- テレビに配線されている壁面のアンテナ端子を利用すると FM 受信がクリアになることがあります。

(→ p36)

■ BLUETOOTH 機能

- 本機の電源抜き差しや、BLUETOOTH 対応機器の電源オン/オフなどをお試しください。BLUETOOTH 対応機器の再起動が効果的な場合もあります。
 - BLUETOOTH 対応機器が A2DP プロファイルに対応している必要があります。
 - 電子レンジ、コードレス電話機など 2.4 GHz 帯の電波を使用する機器の近くでは電波干渉を起こしますので使用できないことがあります。
 - 周囲に金属製の物があると、電波に影響を及ぼし、BLUETOOTH 接続ができない場合があります。
- 以上を確認しても改善されない場合、以下を確認してください。

□ 本機に接続できない

- BLUETOOTH 対応機器の BLUETOOTH 機能が有効になっているか確認してください。

(→ p81)

□ BLUETOOTH 接続しているのに音楽の再生ができない

- BLUETOOTH 対応機器のボリューム設定が小さいと、音声が再生されないことがあります。BLUETOOTH 対応機器のボリューム設定を大きくしてください。
- BLUETOOTH 対応機器によっては、送信/受信切替スイッチが搭載されている場合があります。送信に切り換えてお試してください。
- BLUETOOTH 対応機器の特性や仕様によっては、本機で音楽を再生できない場合があります。

□ 音声が途切れる

- BLUETOOTH 対応機器に問題が発生している可能性があります。ホームページなどで情報を調べてみてください。

□ BLUETOOTH 対応機器との接続後、音質が低下した

- 受信状態がよくありません。BLUETOOTH 対応機器を本機に近づける、または BLUETOOTH 対応機器と本機の間にある障害物を取り除いてください。

■ ゾーンB機能

□ 外部接続のAV機器の音声をゾーンB出力できない

- ゾーンBに音声を出力するためには、音声の出力先を「ゾーンA+B」または「ゾーンB」に設定する必要があります

(→ [p45](#))

■ リモコン

- 電池の極性を間違えて挿入していないか確認してください。
- 新しい電池を入れてください。種類が異なる電池、新しい電池と古い電池を一緒に使用しないでください。
- 本体の受光部が直射日光やインバータータイプの蛍光灯の光に当たらないようにしてください。必要に応じて位置を変えてください。
- 本体を色付きのガラス扉が付いたラックやキャビネットに設置したり、扉が閉じているとリモコンが正常に機能しないことがあります。

■ 表示部

□ 表示部が点灯しない

- Dimmer機能が働いていると表示部が薄暗くなったり、消灯します。DIMMERボタンを押して、表示部の明るさを変えてください。

(→ [p13](#))

■ その他

□ 本体から異音聞こえる

- 本機と同系統のコンセントに他の機器を接続している場合、その機器の影響を受けて異音が発生する場合があります。他の機器の電源プラグをコンセントから抜いて症状が改善される場合は、本機とその機器を別系統のコンセントに接続してください。

□ フルオートMCACCを実行中に「騒音が大きすぎます」というメッセージが出る

- お使いのスピーカーに異常があることも考えられます。スピーカーの出力などを点検してみてください。

□ フルオートMCACCの測定結果がスピーカーまでの実際の距離と異なる

- お使いのスピーカーによっては測定結果に誤差が生じる場合があります。その場合は、Setupメニューの「2. スピーカー」-「距離」で設定してください。

(→ [p74](#))

□ Midnight機能が働かない

- 再生ソースがDolby Atmos、Dolby Digital、Dolby Digital Plus、Dolby TrueHD、DTS、DTS-HD High Resolution、DTS-HD Master Audio、DTS:Xのいずれかになっているか確認してください。

□ POWER OUT端子でスマートフォン/タブレットに給電ができない

- 後面パネルのPOWER OUT端子は、USBケーブルを使用して本機HDMI IN端子に接続するストリーミングメディアプレーヤーへの電源供給(5 V/1 A)専用です。スマートフォン/タブレットなどへの給電には対応していません。

HDMIについて

対応する機能

HDMI (High-Definition Multimedia Interface) は、テレビ、プロジェクター、ブルーレイディスク/DVD プレーヤー、デジタルチューナーなどの映像機器の接続に対応したデジタルインターフェース規格です。これまで、映像機器を接続するには、さまざまな映像・音声ケーブルが個別に必要でした。HDMI では、1本のケーブルで、制御信号、デジタル映像、デジタル音声 (2チャンネルPCM、マルチチャンネルデジタル音声、マルチチャンネルPCM) を伝送できます。

HDMI CEC 機能：

HDMI 規格の CEC (Consumer Electronics Control) に準拠した機器と HDMI ケーブルで接続することで、機器間のさまざまな連携動作が可能になります。再生機との入力の連動切り換えやテレビのリモコンで本機の音量調整などの操作ができたり、テレビの電源オフに連動して自動で電源をスタンバイすることができます。CEC 規格に準拠している製品と連動するよう設計されておりますが、すべての CEC 機器との連動動作を保証するものではありません。連動機能が適切に働くように、HDMI 端子には以下の台数より多くの CEC 機器を接続しないでください。

- ブルーレイディスク/DVD プレーヤー：最大3台
- ブルーレイディスク/DVD レコーダー：最大3台
- ケーブルテレビチューナー、地上デジタルチューナー、衛星放送チューナー：最大4台

また、当社が動作確認している機器は以下のとおりです。(2019年1月現在)

テレビ (順不同)：

- パナソニック製のピエラリンク対応テレビ
- 東芝製のレグザリンク対応テレビ
- ソニー製のブラビアリンク対応テレビ
- シャープ製の AQUOS ファミリンク対応テレビ

プレーヤー、レコーダー (順不同)：

- パナソニック製のピエラリンク対応プレーヤー、レコーダー (パナソニック製のピエラリンク対応テレビと合わせてお使いの場合のみ)
- 東芝製のレグザリンク対応プレーヤー、レコーダー (東芝製のレグザリンク対応テレビと合わせてお使いの場合のみ)
- シャープ製の AQUOS ファミリンク対応プレーヤー、レコーダー (シャープ製のテレビと合わせてお使いの場合のみ)

ARC (オーディオリターンチャンネル)：

ARC に対応したテレビと1本の HDMI ケーブルで接続するだけで、本機の映像と音声をテレビに出力することも、テレビの音声を本機に入力することもできます。

HDMI スタンバイスルー：

本機の電源がスタンバイ状態になっているときでも、AV 機器からの入力信号をテレビに伝送することができます。

3D：

AV 機器からの 3D 映像信号をテレビに伝送することができます。

4K：

本機は 4K (3840 × 2160p) および 4K SMPTE (4096 × 2160p) の映像信号に対応しています。

リップシンク：

HDMI リップシンク対応テレビからの情報に応じて映像と音声のズレを自動補正します。

著作権の保護について：

本機の HDMI 端子はデジタル映像信号の著作権保護技術である HDCP (High-bandwidth Digital Content Protection) の Revision 1.4 および 2.2 規格に準拠しています。本機と接続する機器も HDCP 規格に準拠している必要があります。

対応音声フォーマット

2チャンネルリニア PCM：

32 kHz、44.1 kHz、48 kHz、88.2 kHz、96 kHz、176.4 kHz、192 kHz、16/20/24 bit

マルチチャンネルリニア PCM：

最大 7.1 チャンネル、32 kHz、44.1 kHz、48 kHz、88.2 kHz、96 kHz、176.4 kHz、192 kHz、16/20/24 bit

ビットストリーム：

Dolby Atmos、Dolby Digital、Dolby Digital Plus、Dolby TrueHD、DTS、DTS:X、DTS-HD High Resolution Audio、DTS-HD Master Audio、DTS 96/24、DTS-ES、DTS Express、MPEG-2 AAC

DSD :

対応サンプリングレート : 2.8 MHz

お使いのブルーレイディスク/DVDプレーヤーも上記の音声フォーマットのHDMI出力に対応している必要があります。

対応解像度

HDMI IN1 to IN4 :

- 著作権保護技術 : HDCP1.4/HDCP2.2
- カラースペース (色深度) :
 - 720 × 480i 60 Hz、720 × 480p 60 Hz、1920 × 1080i 50/60 Hz、1280 × 720p 24/25/30/50/60 Hz、1680 × 720p 24/25/30/50/60 Hz、1920 × 1080p 24/25/30/50/60 Hz、2560 × 1080p 24/25/30/50/60 Hz、4K (3840 × 2160p) 24/25/30 Hz、4K SMPTE (4096 × 2160p) 24/25/30 Hz : RGB/YCbCr4:4:4 (8/10/12 bit)、YCbCr4:2:2 (12 bit)
 - 4K (3840 × 2160p) 50/60 Hz、4K SMPTE (4096 × 2160p) 50/60 Hz : RGB/YCbCr4:4:4 (8 bit)、YCbCr4:2:2 (12 bit)、YCbCr4:2:0 (8/10/12 bit)

主な仕様

■ アンプ (音声) 部

定格出力

130 W × 7チャンネル (1 kHz、全高調波歪率 0.7% 以下、6 Ω、非同時駆動、JEITA)

80 W × 2チャンネル (20 Hz - 20,000 Hz、全高調波歪率 0.08% 以下、8 Ω、2チャンネル駆動時、JEITA)

実用最大出力

155 W × 7チャンネル (1 kHz、全高調波歪率 10%、6 Ω、非同時駆動、JEITA)

ダイナミックパワー (*)

* IEC60268-Short-term maximum output power

160 W (3 Ω、フロント)

125 W (4 Ω、フロント)

85 W (8 Ω、フロント)

総合ひずみ率

0.08% (20 Hz - 20,000 Hz、ハーフパワー)

入力感度/インピーダンス

200 mV/47 kΩ (LINE (RCA))

RCA 定格出力電圧/インピーダンス

1 V/470 Ω (SUBWOOFER PRE OUT)

1 V/2.3 kΩ (ZONE B PRE/LINE OUT)

周波数特性

10 Hz - 100 kHz/+1 dB、-3 dB (Pure Direct)

トーンコントロール最大変化量

± 10 dB、20 Hz (BASS)

± 10 dB、20 kHz (TREBLE)

SN比

109 dB (IHF-A、LINE IN、SP OUT)

スピーカー適応インピーダンス

4 Ω - 16 Ω

ヘッドホン定格出力

80 mW + 80 mW (32 Ω、1 kHz、全高調波歪率 10%)

ヘッドホン適応インピーダンス

8 Ω - 600 Ω

ヘッドホン周波数特性

10 Hz - 100 kHz

■ AM/FM チューナー部

FM 受信範囲

76.0 MHz - 95.0 MHz

50 dB SN 感度 (FM MONO)

1.0 μV、11.2 dBf (IHF、1 kHz、100% MOD)

AM 受信範囲

522 kHz - 1629 kHz

プリセットチャンネル数

40

■ BLUETOOTH 部

通信システム

BLUETOOTHバージョン 4.2

周波数帯域

2.4 GHz 帯域

変調方式

FHSS (周波数ホッピングスペクトラム拡散)

対応プロファイル

A2DP 1.3

AVRCP 1.5

HFP (Hands-Free Profile) 1.6

HSP (Headset Profile) 1.2

SPP (Serial Port Profile) 1.2

対応コーデック

SBC

AAC

伝送範囲 (A2DP)

20 Hz - 20 kHz (サンプリング周波数 44.1 kHz)

最大通信距離

遮蔽物の無い見通し 約 15 m (※)

- ※ 実際の通信範囲は機器間の障害物、電子レンジの電磁波、静電気、コードレスフォン、受信感度、アンテナの性能、操作システム、アプリケーションソフトウェアなどの影響により異なります。

■ 総合**電源・電圧**

AC 100 V、50/60 Hz

消費電力

370 W

0.1 W (完全スタンバイ時)

0.1 W (HDMI CEC時)

37.0 W (無音時)

24.5 W (HDMI スタンバイスルー時)

最大外形寸法

435 (幅) × 148 (高さ) × 321 (奥行) mm

質量

8 kg

■ HDMI**入力**

IN1 (BD/DVD)、IN2 (GAME)、IN3 (CBL/SAT)、IN4 (STRM BOX)

出力

OUT

対応

オーディオリターンチャンネル、3D、4K 60 Hz、6G、HDR10、BT.2020、HLG、Dolby Vision、Auto Delay、CEC

音声形式

Dolby Atmos、Dolby TrueHD、Dolby Digital Plus、DTS:X、DTS-HD Master Audio、DTS-HD High Resolution Audio、DTS 96/24、DTS-ES、DTS Express、DSD (PCM Conversion Input)、PCM、MPEG-2 AAC

HDCPバージョン

2.2

最大解像度

4K 60 Hz (YCbCr 4:4:4)

■ 対応入力解像度**HDMI入力**

4K、1080p/24、1080p、1080i、720p、480p

- 本機のHDMI OUT端子からテレビには、入力された解像度そのまま出力されません。4Kに対応したテレビをお使いの場合、1080pのHDMI映像信号は4Kで出力することもできます。

■ 音声入力**デジタル**

OPTICAL (TV)

COAXIAL (CD)

アナログ

CD、TV、CBL/SAT

■ 音声出力**アナログ**

ZONE B PRE/LINE OUT

2 SUBWOOFER PRE OUT

スピーカー

FRONT L/R (バナナプラグ対応)、CENTER、SURROUND L/R、SURROUND BACK L/R or ZONE B L/R

ヘッドホン

PHONES (前面、φ 6.3 mm)

■ その他

セットアップマイク：1 (前面)

USB：1 (ストリーミングメディアプレーヤーへの給電のみ、5 V/1.0 A)

仕様および外観は予告なく変更することがあります。

□ → [ライセンスと商標](#)

Pioneer

SN 29403617A

© 2019 Onkyo & Pioneer Corporation. All rights reserved.

「Pioneer」及び「MCACCロゴ」は、パイオニア株式会社の商標であり、ライセンスに基づき使用されています。

H1902-1